

S - N e t / G B I F

データ提供関連資料

～参加機関・参加検討中の機関の方々へ～

2021.7

国立科学博物館



## はじめに

S-Net/GBIF 活動は、日本にある標本情報を収集し、共有を図るべく国内向けのホームページから公開するとともに、世界に向けて発信することを目標にした事業です。この冊子は、本事業にすでに参加されている機関の方や、今後この活動に参加を検討されている機関の方々に向けて、データ提供のプロセスやデータの生成・整形・チェックなどに役立つ参考資料をまとめました。

本冊子はデータの提供と利用、それらを進めるためのツールやプロセスに関する 5 つの章から成り、各章にはテーマごとにまとめた資料やマニュアルが掲載されています。各章の冒頭には簡単なイントロダクションがあり、これらを通読するだけで、全体が見えるようになっています。

この冊子をデータ提供や利用の際に、参考にしていただければ幸いです。

なお、本冊子の内容は、下記のサイトにおいても紹介されていますので、合わせてご覧ください。

### ●S-Net/GBIF へ標本データをご提供いただくプロセス

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##providedata](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##providedata)

### ●データ提供に利用できるツールや資料

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##tool](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##tool)

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##hint](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##hint)

### ●S-Net サイトマップ

<http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/sitemap.html>

トップページの最下部にある[サイトマップ]に上記のリンクがあります。

以下のページ *New* とあるものは 2021 年度版に新たに追加されたもの、  
*2021* とあるものは 2021 年度に改訂を行っているものです。

# 目次

はじめに .....	1
1. データ提供の概要 .....	5
1.1 全プロセスの概要を理解する .....	5
1.2 データをつくる .....	5
1.3 メタデータ情報の提供 .....	5
1.4 データ利用ライセンスを決める .....	5
1.5 機関コードを GRSciColl (旧 GRBio) でチェックする .....	6
1.6 データ共有と利活用 .....	6
1.7 データ提供のプロセス .....	6
1.8 データ提供にあたっての関連資料 .....	6
2. 新 S-Net システムについて .....	8
2.1 使ってみよう S-Net .....	8
2.2 新 S-Net の主な変更点 .....	8
2.3 機関を指定して S-Net へリンクする方法 .....	8
2.4 新データ変換ツール .....	8
2.5 GBIF/S-Net/GBIF 関連のリンク <i>New</i> .....	8
3. ツール・辞書 .....	9
3.1 データ変換ツール .....	9
3.2 新レッドデータチェッカー .....	9
3.3 自然史研究のための地名辞書 .....	9
3.4 日本沿岸地名辞書 .....	9
3.5 【ご参考】旧形式の S-Net/GBIF 登録用データを新形式に変換 .....	10
4. データ入力のためのヒント .....	11
4.1 オカレンス情報の入力のヒント .....	11
4.2 位置情報の入力のヒント .....	11
4.3 分類情報の入力のヒント .....	11
5. 提供されたデータの事務局でのチェック .....	12
5.1 受付チェック .....	12
5.2 内容チェック .....	12

## <参考資料>

【参考資料 A-1】	メタデータ登録票記入依頼 <i>2021</i> .....	29
【参考資料 A-2】	CC ライセンスご案内 <i>2021</i> .....	33
【参考資料 A-3】	機関コードの GRSciColl への登録のお願い <i>2021</i> .....	36
【参考資料 A-4】	GBIF/S-Net データ提供関連資料 <i>2021</i> .....	68
【参考資料 B01】	登録用データの作成.....	21
【参考資料 B02】	旧形式の登録用データを新形式へ変換.....	118
【参考資料 B11】	新 S-Net の主な変更点.....	78
【参考資料 B12】	機関を指定して S-Net ヘルプ .....	80
【参考資料 B13】	新しいデータ変換ツール.....	81
【参考資料 B14】	新レッドデータチェッカー <i>2021</i> .....	113
【参考資料 B15】	新レッドデータチェッカー：注意 <i>2021</i> .....	114
【参考資料 B21】	地名の切り分け .....	125
【参考資料 B22】	地名の英語化.....	127
【参考資料 B23】	採集地の住所・緯度経度を取得.....	130
【参考資料 B24】	住所から緯度経度を取得.....	132
【参考資料 B25】	英語での自然地形などの入力例.....	134
【参考資料 B26】	日本の主な島の住所.....	136
【参考資料 B31】	生物リストで和名から学名を取得 .....	138
【参考資料 B32】	学名を属名、種小名などに切り分けるには .....	140
【参考資料 B33】	日本産生物リスト一覧 <i>2021</i> .....	141
【参考資料 B34】	GBIF サイトで学名をチェック .....	143
【参考資料 B41】	日付を S-Net 形式に変換.....	123
【参考資料 B51】	地理院地図で分布図を作成.....	41
【参考資料 C-1】	はじめよう S-Net <i>2021</i> .....	15
【参考資料 D01】	(提供データ確認) 受付チェック <i>2021</i> .....	147
【参考資料 D02】	(提供データ確認) 内容チェック <i>2021</i> .....	149
【参考資料 D11】	(提供データ確認内容チェック) 修正確認 <i>2021</i> .....	155
【参考資料 D12】	(提供データ確認内容チェック) レッドリスト掲載種確認 <i>2021</i> .....	157
【参考資料 E21】	GBIF・S-Net・JBIF 関連リンク <i>New</i> .....	83

## <様式>

【様式1(新規参加機関のみ)】データ提供同意書 2021	46
【様式2・3・4】見積書・完了通知書・請求書 2021	47
【様式5】データチェックリスト 2021	53
【様式6】請求書類チェックリスト 2021	57
【様式7(1コレクションに1葉)】メタデータ登録票 2021	58
【様式8(1コレクションに1葉)】データ利用権回答書 2021	60
【様式9】GRSciColl 機関登録依頼票 New	61

## <マニュアル等>

データ変換ツール利用者向けマニュアル 2021	87
沿岸地名辞書	137

## <プレゼンテーション資料>

【参考資料 C-1】はじめよう S-Net	15
使ってみよう S-Net_とりあえず、和名で探す	71
使ってみよう S-Net_地図に表示させる	73
使ってみよう S-Net_データをダウンロードする	74
使ってみよう S-Net_詳細検索を使う	76

## <データ提供>

データ提供の事務手続き 2021	44
【参考資料 D01】(提供データ確認) 提供データ受付チェック 2021	147
【参考資料 D02】(提供データ確認) 内容チェック 2021	149
【参考資料 D11】(提供データ確認内容チェック) 修正確認 2021	155
【参考資料 D12】(提供データ確認内容チェック) レッドリスト掲載種確認 2021	157

## <その他>

平成 29 年度/平成 30 年度データ利活用事例一覧	39
S-Net 項目一覧表 2021	25
新レッドデータチェッカー 入力サンプル(csv ファイル)	117
新 S-Net システム 旧形式登録データ新形式対応表	120

## 1. データ提供の概要

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)

### 1.1 全プロセスの概要を理解する

S-Net/GBIF へのデータ提供の概要については、以下のスライドで説明しています。最初にご覧になっていただけますと、概略が分かります。

1.1-01 (p.15) 【参考資料 C-1】はじめよう S-Net (201806 版) *2021*

### 1.2 データをつくる

S-Net へのデータ提出のためには、所定のデータが、所定のデータ項目名と形式で整理されている必要があります。どんなデータ項目が必要か、「3.1 データ変換ツール」のマニュアルの末尾の表 (p.93~101) で、確認してみてください。もし、お手元のデータが所定の項目と合致していれば、データ変換ツールで、提出用のデータファイルを作成して、事務局（国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当：s-net\_info@kahaku.go.jp）まで、メールでお送りください。データが整っていない場合には、「4. データ入力のためのヒント」を参考にして、整形してから変換してください。なお、地名の統一などには「3.3 自然史研究のための地名辞書」・「3.4 日本沿岸地名辞書」などを利用することができます。また、レッドリスト種については、産地の公開に注意を払う必要があります。どの種が該当するかを調べるには「3.2 新レッドデータチェッカー」を利用することができます。

1.2-01 (p.21) 【参考資料 B01】新形式の S-Net/GBIF 登録用データの作成

1.2-02 (p.25) S-Net 項目一覧表 *2021*

なお、データ入力のためのヒントは、後述 (4.) を参照ください。

### 1.3 メタデータ情報の提供

提供されたデータ一式は「データセット」として管理されています。これらがどんなデータセットかを説明するデータをメタデータ (たとえば、「○×博物館の昆虫コレクション」のようなものです) といい、提供データとは別にご用意頂く必要があります (詳しくは、「【参考資料 A-1】メタデータ登録票の記載」をご覧ください)。データご提供の際は、データと併せてメタデータ登録票の提出をお願いしています。

1.3-01 (p.29) 【参考資料 A-1】メタデータ登録票記載のお願い *2021*

### 1.4 データ利用ライセンスを決める

ご提供いただいたデータは事務局におけるチェックを経て、S-Net から公開され、国内で利用されるとともに、GBIF (地球規模生物多様性情報機構、<https://www.gbif.org/>) や OBIS (海洋生物地理情報システム、<http://www.iobis.org/>) から公開され、世界的にも利用されます。データの二次利用については、事前に許諾 (ライセンス) を与えることになっており、ライセンスの国際的な標準となっているクリエイティブコモンズ・ライセンス (CC ライセンス ; データの利用条件を定める方法として国際的によく使われています。) を使ってデータセットごとの利用条件を設定します。CC0、CC BY、CC BY-

NC のいずれかを指定していただきます（詳しくは、「【参考資料 A-2】 CC ライセンスのご案内」をご覧ください。それぞれのライセンスの意味についてはクリエイティブ・コモンズのサイト (<https://creativecommons.jp/licenses>) をご覧ください。

1.4-01 (p.33) 【参考資料 A-2】 CC ライセンスご案内 *2021*

## 1.5 機関コードを GRSciColl (旧 GRBio) でチェックする

初めてデータを提供される機関は、提出データに付与する機関コード (旧：機関略号) が他の機関と重複していないかどうか GRSciColl (Global Registry of Scientific Collection、旧 GRBio) でチェックして登録することをお願いしています。

1.5-01 (p.36) 【参考資料 A-3】 機関コードについて GRSciColl(旧 GRBio)でのチェックと登録のお願い *2021*

## 1.6 データ共有と利活用

GBIF から提供されている日本からのデータにはすでに多くの利用実績があります (<http://www.gbif.org/ja/country/JP/publications/from>)。S-Net 事務局では S-Net のデータについても利用例を収集しています。利用例の蓄積は、事業の存続にとって重要です。公開・共有できる利用例については事務局へお知らせいただければ、活動実績・資料の S-Net/GBIF データ活用事例より公開させていただきます。S-Net は生物多様性情報を共有・利用するシステムです。貴重な情報を共有・利用し、情報の拡大再生産に結びつけましょう。

1.6-01 (p.39) 平成 29 年度／平成 30 年度データ利活用事例一覧

※各事例の詳細は下記 URL からご覧いただけます。

<http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/activity.html##cases>

1.6-02 (p.41) 【参考資料 B51】 地理院地図で標本データの分布図を作成

## 1.7 データ提供のプロセス

データ提供の事務手続きとしてデータ提供の際に必要な書類や手続きについてご案内しています。(提出用の様式がお手元にない場合には、最新のファイルをお送りしますので、事務局までご連絡ください。)

1.7-01 (p.43) データ提供の事務手続き *2021*

1.7-02 (p.46) 【様式 1 (新規参加館のみ)】 データ提供同意書 *2021*

1.7-03 (p.47) 【様式 2・3・4】 見積書・完了通知書・請求書 *2021*

1.7-04 (p.53) 【様式 5】 データチェックリスト *2021*

1.7-05 (p.57) 【様式 6】 請求書類チェックリスト *2021*

1.7-06 (p.58) 【様式 7 (1 コレクションに 1 葉)】 メタデータ登録票 *2021*

1.7-07 (p.60) 【様式 8 (1 コレクションに 1 葉)】 データ利用権回答書 *2021*

1.7-08 (p.61) 【様式 9】 GRSciColl 機関登録依頼票 *NEW*

## 1.8 データ提供にあたっての関連資料 *2021*

S-Net/GBIF へのデータ提供にあたり手続き用の文書を起票する際などにご参照いただける関連資料

をまとめました。

1.8-01 (p.68) 【参考資料 A-4】 データ提供にあたっての関連資料

## 2. 新 S-Net システムについて

2018年4月にリニューアルされた新 S-Net システムについてのご案内です。

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##renewal2018](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##renewal2018)

### 2.1 使ってみよう S-Net

新しい S-Net サイトから自然史標本情報を利用するときの使い方を短いスライドで紹介しています。

2.1-01 (p.71) とりあえず、和名で探す

2.1-02 (p.73) 地図に表示させる

2.1-03 (p.74) データをダウンロードする

2.1-04 (p.76) 詳細検索を使う

種の分布図の作成方法は下記の参考資料でも紹介しています。

1.6-02 (p. 41) 【参考資料 B51】 地理院地図で標本データの分布図を作成

### 2.2 新 S-Net の主な変更点

新 S-Net システムについて、主な変更点をご紹介します。

2.2-01 (p.78) 【参考資料 B11】 新 S-Net の主な変更点

### 2.3 機関を指定して S-Net へリンクする方法

機関のリストにデフォルトの機関名を指定してリンクし、機関の所蔵標本を検索するページを用意する方法を説明しています。

2.3-01 (p.80) 【参考資料 B12】 機関を指定して S-Net へリンク

### 2.4 新データ変換ツール

新しいデータ変換ツールについてご紹介しています。

2.4-01 (p.81) 【参考資料 B13】 新しいデータ変換ツール

### 2.5 GBIF/S-Net/JBIF 関連のリンク *NEW*

GBIF/S-Net/JBIF 関連のリンク先をご紹介します。

2.5-01 (p.82) 【参考資料 E21】 GBIF・S-Net・JBIF 関連リンク

### 3. ツール・辞書

生物多様性情報発信のためにご利用いただくツール・辞書類です。

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##tool](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##tool)

#### 3.1 データ変換ツール

標本データを S-Net/GBIF に登録するデータ形式に変換するためのプログラムです。また、S-Net 形式の登録データの内容をチェックしたり、半角の項目に誤って入力された全角アルファベットを半角に置き換えるなどのデータクリーニングをすることができます。S-Net 形式のデータ項目の説明はマニュアルの 4 章を参照ください。

3.1-01 (p.87) データ変換ツール利用者向けマニュアル *2021*

※プログラムとマニュアルは下記 URL からダウンロードできます。不具合の対応による更新や回避策の説明の追記などがありますので、なるべく最新版をご確認ください。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##dataconv)

#### 3.2 新レッドデータチェッカー

国版・地方版のレッドリスト掲載種を判定する新しいツールです。メールベースで動作するシンプルなツールです。

※本チェッカーの辞書は、環境省生物多様性センターよりレッドデータブック・レッドリストの情報を提供いただき、それを元に作成したものです。2020 年 6 月現在、この辞書は環境省レッドリスト 2019 に対応しています。

3.2-01 (p.113) 【参考資料 B14】 新レッドデータチェッカー *2021*

3.2-02 (p.115) 【参考資料 B15】 新レッドデータチェッカーを使う上での注意 *2021*

3.2-03 (p.118) 入力サンプル(csv ファイル)

※入力ファイルは下記 URL からダウンロードできます。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##red\\_data\\_checker](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##red_data_checker)

#### 3.3 自然史研究のための地名辞書

標本ラベルの情報を効率的に変換するための地名検索用のサイトです。採集地の住所・緯度経度の取得にご利用ください。

自然史研究のための地名辞書サイト：<http://info.hitohaku.jp/loc/top.html>

※サイトの使い方は以下のヒントを参照ください。

4.2-03 (p. 130) 【参考資料 B23】 採集地点の情報から住所・緯度経度を取得（地名辞書）

#### 3.4 日本沿岸地名辞書

「日本沿岸地名表（1982 年(昭和 57 年)海上保安庁水路部編）」を基に地名や緯度経度データを電子化した沿岸地名の辞書です。

4.2-07 (p. 137) 沿岸地名辞書

※説明と辞書ファイルは下記 URL からダウンロードできます。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##coast\\_gazetteer](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##coast_gazetteer)

### 3.5 【ご参考】旧形式の S-Net/GBIF 登録用データを新形式に変換

S-Net は 2018 年 4 月にリニューアルされ、データのフォーマットなども更新されました。2018 年 4 月以前に提供されたデータ旧形式で作成した S-Net/GBIF 登録データファイルを新形式の S-Net/GBIF 登録データファイルに変換する手順について説明しています。

3.5-01 (p.118) 【参考資料 B02】旧形式の登録用データを新形式に変換

3.5-02 (p.120) 旧形式登録データ新形式対応表

※以下のファイルがテンプレートとして用意されています。ダウンロードしてご利用ください。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##old2newdata](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##old2newdata)

old\_to\_new\_line1\_SJIS.csv

old\_to\_new\_line1\_UTF8.csv

## 4. データ入力のためのヒント

標本データを S-Net の項目に合わせて準備する際のヒントを紹介しています。

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##hint](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##hint)

### 4.1 オカレンス情報の入力のヒント

標本とその採取等についての情報に関する項目を入力する際に参考となる手順をまとめました。

4.1-01 (p.123) 【参考資料 B41】 日付を S-Net 形式 (YYYYMMDD の 8 桁) に変換

### 4.2 位置情報の入力のヒント

住所の情報や緯度経度など標本採集地の位置情報に関する項目を入力する際に参考となる手順をまとめました。

4.2-01 (p.125) 【参考資料 B21】 住所を都道府県、市区町村などに切り分け

4.2-02 (p.127) 【参考資料 B22】 国・都道府県・市区町村名を英語に変換

4.2-03 (p.130) 【参考資料 B23】 採集地点の情報から住所・緯度経度を取得 (地名辞書)

4.2-04 (p.132) 【参考資料 B24】 住所から緯度経度を取得 (アドレスマッチング)

4.2-05 (p.134) 【参考資料 B25】 英語での自然地形などの入力例

4.2-06 (p.136) 【参考資料 B26】 日本の主な島の住所

4.2-07 (p.137) 沿岸地名辞書

### 4.3 分類情報の入力のヒント

学名、属名、種小名など生物種の分類情報に関する項目を入力する際に参考となる手順をまとめました。

4.3-01 (p.138) 【参考資料 B31】 生物リストを使って和名を調べ学名を取得

4.3-02 (p.140) 【参考資料 B32】 学名を属名、種小名などに切り分けるには

4.3-03 (p.141) 【参考資料 B33】 学名辞書的に使える日本産生物リストの一覧 *2021*

4.3-04 (p.143) 【参考資料 B34】 GBIF サイトの種名マッチングツールを使って学名をチェック

※上記の参考資料で地名の和英・英和変換、地名の分割・抽出などに使われている「事前整形支援ツール」のプログラムとマニュアルは下記 URL からダウンロードできます。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##specdatapreconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##specdatapreconv)

## 5. 提供されたデータの事務局でのチェック

事務局では、参加機関から提出された提供データについて、受付チェックを行って受領件数を確定し、また、S-Net/GBIF 掲載前にはさらに詳細な内容チェックを行っています。この過程で様々なエラーを検出することがありますが、エラーはデータの品質の低下や手続きの遅れにつながります。以下の資料では重要なチェックポイントについて説明し、エラーを避けるための注意を記しています。

### 5.1 受付チェック

ご送付いただいたデータの形式と件数を確認します。

5.1-01 (p.147) 【参考資料 D01】 ご提供データの受付チェック（件数確定まで） *2021*

### 5.2 内容チェック

S-Net/GBIF への掲載にあたり、提出されたデータの内容の詳細をチェックします。

5.2-01 (p.149) 【参考資料 D02】 内容チェック *2021*

5.2-02 (p.155) 【参考資料 D11】 修正確認ファイルの項目と確認依頼事項 *2021*

5.2-03 (p.157) 【参考資料 D12】 レッドリスト掲載種についての確認 *2021*

# 1. データ提供の概要

S-Net や GBIF は生物多様性情報を共有する上で重要な働きをもっています。しかし、そのためには、データは同じ規格（データ項目名・データ形式）で整理されていなくてはなりません。本章では、S-Net/GBIF の背景を説明するとともに、データ提供のプロセスを追いながら、データを提供するための国際標準規格である「ダーウィンコア」を中心に、データ提供をする上で知っておく必要がある生物多様性データの規格について紹介します。

最初のスライドをご覧になると、全体の流れがわかります。次に、各資料で、それぞれの項目を説明します。

なお、本スライドは、2018 年の講演に基づくもので、データには一部古い部分がありますことをご了承ください。

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)



# はじめようS-Net

2018.6.

## はじめよう

1. 背景的情報
2. データをつくろう
  - 1) コアデータ・メタデータ
  - 2) ダーウィンコア
  - 3) 重要なデータ項目
  - 4) メタデータをつくろう
3. データをチェックしよう
4. データを提出しよう
5. 事務局でのチェック
6. 事務手続きを行おう

## 背景的情報

1. GBIF (地球規模生物多様性情報機構) は、全世界から生物多様性情報を収集し、公開している機構。
2. GBIFへのデータ提供には、国あるいは公的機関としての参加が必要。ノードが設けられる。日本のノードはGBIF日本ノード(JBIF)。
3. 日本ノードの活動拠点は、科博・東大・遺伝研。活動補助金は日本医療研究開発機構(AMED)が交付するナショナル・バイオリソースプロジェクト(NBRP)資金。
4. 科博は主に標本データを扱う。東大は主に観察・文献データを扱う。



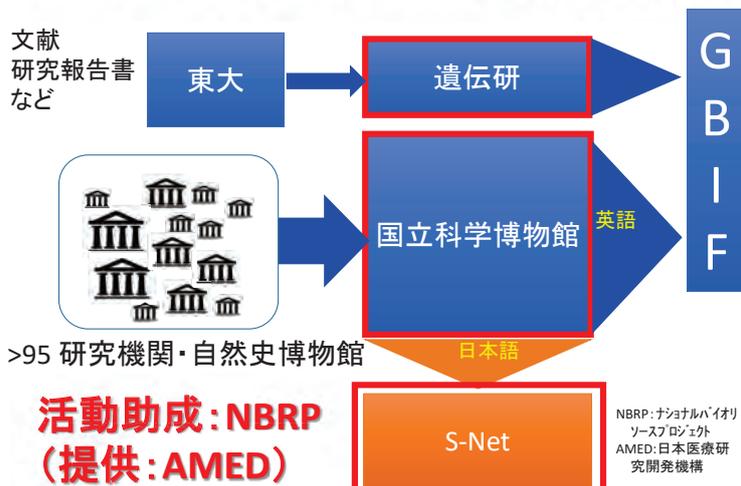
**地球規模生物多様性情報機構**  
Global Biodiversity Information Facility

インターネットを介して、世界の生物多様性情報を誰でも自由に見られる仕組みを作っている国際機構

現在利用できる情報は・・・ **約10億件!**



## 日本ノードからのデータ出版の流れ



## 日本からデータを提供している機関

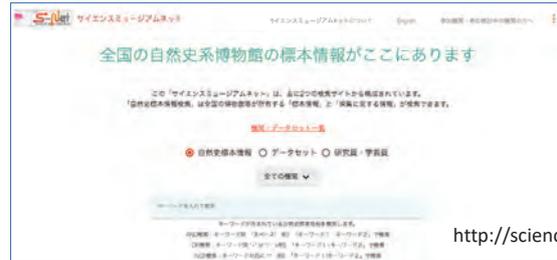
- 全国90以上の博物館・研究所・大学によって支えられています。
- データの収集活動はNBRPによってサポートされています。



## 背景的情報

5. 科博は、全国の自然史系博物館の協力を得て標本情報を収集。東大は、観察情報・文献情報を収集。
6. GBIFへのデータ提供にはサーバー(IPT)の設定が必要。IPTサーバーは、日本では遺伝研・科博にある。
7. 標本情報の多くは日本語情報を伴うがGBIFでは日本語情報の扱いに限界がある。そこで、国内利用向けにサイエンスミュージアムネット(S-Net)が設けられた。
8. S-Netサイトは科博が運営している。

## サイエンスミュージアムネット S-Net <http://science-net.kahaku.go.jp/>



<http://science-net.kahaku.go.jp/>

- 自然史情報の国内利用のためのサイト
- 国際標準化されたデータ(95機関350データセット・495万件)
- 機関情報・データセット情報も公開

## データをつくろう

1. データ構造を理解する。
  - 1) コアデータとメタデータ
  - 2) ダーウィンコア
  - 3) ポイントとなるデータ項目
2. エクセルなどでデータを作成する。
3. データ項目名を正確にS-Netのデータ項目と合致させると、あとの処理が楽になります。
4. すでにあるデータを編集する場合も同様に、データ項目名を正確にS-Netのデータ項目と合致させると、あとの処理が楽になります。

## コアデータとメタデータ

1. 標本データには、コアデータとメタデータがある。
2. コアデータは、標本情報そのもの。メタデータは、提出機関やコレクションについての情報。
3. コアデータは生物多様性情報の国際標準であるダーウィンコア(DwC)の形式に基本的に準拠。
4. メタデータはGBIFでの取扱形式に基本的に準拠。
5. S-Netでは、DwCのデータ項目に加えて、日本語でのデータ取扱いに配慮した項目を設けている。
6. それぞれの項目に特に注意が必要なポイントがある。
7. コアデータ項目のリストは「変換ツールマニュアル」の巻末参照。

## コラム:ダーウィンコア

- TDWGが提唱した生物多様性情報記述のためのスタンダード。
- 事実上の世界標準。GBIFでも採用。
- 180を超える管理項目(基本は「いつ、どこに、どんな生物が」)。
- さまざまな生物多様性データセットの互換性を向上。
- 生態的データとの連携も可能。
- S-NetではDwCのデータ項目を利用し、互換性を保っている。

## S-Net/GBIF登録データ

“Darwin Core最新版”に準拠した、9情報群、173項目。

No	情報群	項目	項目No
1	システム管理情報	管理ID、登録日時、更新日時、データセット管理番号、グローバルユニーク番号	1~5
2	基本情報	データ登録日時、GBIF公開フラグ、レコード種別、機関名、機関名(日本語)、機関コード、コレクションコード、カタログ番号	6~13
3	オカレンス情報	採集者番号、オカレンス備考、“(日本語)、性別、“(日本語)、生活型・世代型、“(日本語)、成熟状況、“(日本語)、行動、“(日本語)、生息環境、“(日本語)、個体群成立過程、“(日本語)、処理・保存情報、“(日本語)、カタログ旧番号・別番号、画像への外部リンク、参照リンク、“(日本語)、文献、“(日本語)、塩基配列、関連分類群(ホスト情報等)、“(日本語)、過去の同定結果、“(日本語)、サンプリング方法、“(日本語)、記録年月日(始め)、記録年月日(終わり)、記録年月日オリジナル表記、記録年月日に関する備考、“(日本語)	14~48
4	位置情報	大陸、“(日本語)、水域、“(日本語)、島群、“(日本語)、島、“(日本語)、国、“(日本語)、地域コード、都道府県、“(日本語)、郡市区町村、“(日本語)、詳細地名、“(日本語)、地名オリジナル表記、最低海拔、最高海拔、最浅水深、最深水深、メッシュコード、緯度(十進数表記)、経度(十進数表記)、測地系、緯度経度誤差半径、緯度経度特定に関する備考、“(日本語)、地名公開レベル、非公開情報に関する備考、“(日本語)、位置情報に関する備考、“(日本語)	49~82

赤字は必須項目。「~(日本語)」の項目はS-Netでのみ使用。各項目の内容は「データ変換ツール利用者向けマニュアル」の14~20ページを参照。

## S-Net/GBIF登録データ(続き)

No	情報群	項目	項目No
5	分類情報	タイプ標本種別、タクソノID、学名、カテゴリ、界名(学名)、界名(日本語名)、門名(学名)、門名(日本語名)、綱名(学名)、綱名(日本語名)、目名(学名)、目名(日本語名)、科名(学名)、科名(日本語名)、属名(学名)、属名(日本語名)、亜属名(学名)、亜属名(日本語名)、種小名、亜種以下のタクソノ、分類群ランク、学名の著者、和名、同定に関する補足情報、" (日本語)、分類群に関する備考、" (日本語)	83~109
6	参考情報	備考1(公開,日本語)	110
7	非公開情報	備考2(非公開,日本語)、備考3(非公開,日本語)、採集・記録者(非公開)、...、経度(十進数表記)(非公開)	111~132
8	古生物情報	上限の推定年代(累代・累界レベル)、" (日本語)、下限の推定年代(累代・累界レベル)、" (日本語)、上限の推定年代(代・界レベル)、" (日本語)、下限の推定年代(代・界レベル)、" (日本語)、上限の推定年代(紀・系レベル)、" (日本語)、下限の推定年代(紀・系レベル)、" (日本語)、上限の推定年代(世・統レベル)、" (日本語)、下限の推定年代(世・統レベル)、" (日本語)、上限の推定年代(階・期レベル)、" (日本語)、下限の推定年代(階・期レベル)、" (日本語)、生層序帯(最下位)、" (日本語)、生層序帯(最上位)、" (日本語)、岩相層序名、" (日本語)、層、" (日本語)、部層、" (日本語)、単層、" (日本語)	133~166
9	命名情報	オリジナルの学名、原記載、原記載出版年、オリジナルの分類群ランク、命名規約、分類学的ステータス、命名規約上のステータス	167~173

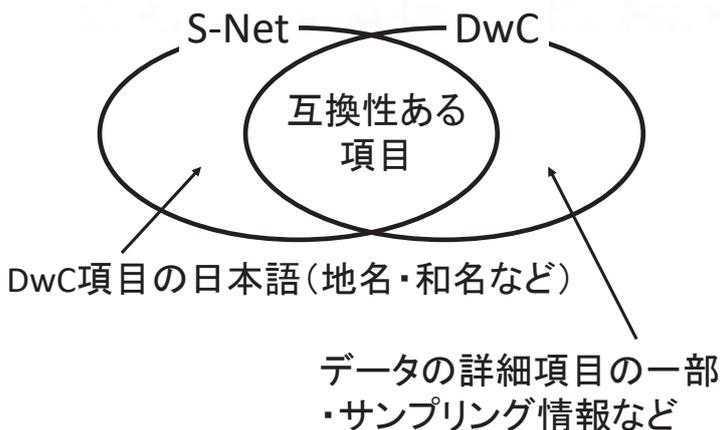
赤字は必須項目。「~(日本語)」の項目はS-Netでのみ使用。  
各項目の内容は「データ変換ツール利用者向けマニュアル」の14~20ページを参照。  
13

## 新S-Netに追加されたフィールドの例

上限・下限の推定年代(累代・累界レベル) [日・英]  
 上限・下限の推定年代(代・界レベル) [日・英]  
 上限・下限の推定年代(紀・系レベル) [日・英]  
 上限・下限の推定年代(紀・系レベル) [日・英]  
 上限・下限の推定年代(世・統レベル) [日・英]  
 上限・下限の推定年代(階・期レベル) [日・英]  
 生層序帯(最下位・最上位) [日・英]  
 岩相層序名 [日・英]  
 層群 [日・英]  
 層 [日・英] など、合計173項目  
 部層 [日・英] (すべてを入力する必要はない)  
 単層 [日・英]

化石のデータも受け入れ可能に

## S-NetのデータとDarwinCore



## S-Netのデータ項目

- 150項目ある(DwCは180項目)。
- 多くのデータ項目に日本語(S-Net用)・英語(GBIF用)の両方がある。
- いくつかの項目をまとめて「情報群」としている。
- すべての項目を入力する必要はない。
- 画像データは扱えないが、リンクは貼れる。

### 情報群「基本情報」における重要事項

- 情報群「基本情報」はデータ登録日時(事務局で入力)以外は、必須です。
- 機関名、機関コード、コレクションコードはメタデータ(機関の情報・データセットの情報)と合致させ、一貫させてください。
- カタログ番号がいわゆる標本番号(枝番を含む)です。番号重複にご注意ください。

### 情報群「オカレンス情報」における重要事項

- 画像については、ウェブ公開のリンクを入力して当該サイトに誘導できます。
- 記録年月日(採集日)の入力に注意。YYYYMMDD形式の8桁で、不明箇所は半角アスタリスク“\*”。ただし、上位の時点が不明なら、下位も不明とする。  
 2014年5月1日→20140501  
 1963年3月→196303\*\*  
 1901年?月2日→1901\*\*\*\* (記録年月日オリジナル表記には「1901年?月2日」と入力できます)

## 情報群「位置情報」における重要事項

1. できるだけ都道府県・郡市町村の情報をもれなく入力してください。行政単位(県郡市町村)も入力してください(例、京都府、つくば市など)。
2. 全項目で綴りの間違いに注意。
3. **地名公開レベル**は必須です。
4. 緯度経度は十進表記でお願いします。測地系情報もご提供ください。
  - 1) 十進=度+分/60+秒/60\*60 で求められる。
  - 2) 東経・北緯は+の値。西経・南緯は-の値。
  - 3) 最近の測地系はほとんどWGS84が多い。(例:科博上野本館は35.717038, 139.776418、WGS84)。
5. 絶滅危惧種に関しては事務局にてチェックして詳細な地名情報を隠します。

## 情報群「非公開情報」における重要事項

1. この情報群は、公開しないがデータ保守・管理上項目として残したいデータ項目からなる。
2. 絶滅危惧種のオカレンス情報は、この情報群の項目にコピーされ、オカレンス情報からは秘匿される(事務局にて操作)。

## メタデータをつくろう

1. メタデータ(説明データ)とは、実質的なコンテンツとなるデータ(コアデータ)に付帯する情報。(例、写真画像データに対する撮影情報;標本情報に対するコレクション情報など)
2. メタデータの存在により、コアデータが探しやすくなる。
3. GBIFでは、かたまりをなすコアデータを「データセット」と呼び、データセットに対して「メタデータ」を設けている。
4. S-Netもこれに対応して、新システムではデータセットと機関情報をメタデータとして管理・公開している。

## 情報群「分類情報」における重要事項

1. **学名**は必須。学名は、「同定できた一番下の階級」なので、属・科・目名でも可。どのランクなのかは**タクソンランク**で識別可能。
2. 種名を入れる際には著者名を入れても入れなくてもよい(適切なリストに従うとよい)。
3. 別な界の同一学名の識別のため、界名は必須。Viruses, Bacteria, Archaea, Protozoa, Chromista, Plantae, Fungi, Animalia(日本語ウイルス界, 真正細菌界, 古細菌界, 原生生物界, クロミスタ界, 植物界, 菌界, 動物界)のいずれか。
4. 全項目で綴りの間違いに注意。

## 情報群「古生物情報」における重要事項

1. この情報群は、新システムから導入(2018年4月~)。
2. 全ての項目を入力する必要はない。

## データセット・機関に関するデータ



## データセット・機関のデータ公開

**データセット**  
国立科学博物館 (動物) 魚類コレクション NSMT-P

データセット識別  
NSMT-P  
種名 (日本語)  
国立科学博物館 (動物)  
http://www.kahaku.go.jp/  
ウェブページ (日本語)  
http://www.kahaku.go.jp/  
タイトル  
Fish collection of National Museum of Nature and Science  
魚類コレクション  
タイプ (日本語)  
魚類コレクション  
位置  
2007/4/3 0:00  
Fish specimens deposited at the Department of Zoology, National Museum of Nature and Science  
概要  
http://do.kahaku.go.jp/webmuseum\_en/  
http://do.kahaku.go.jp/webmuseum/  
データセットID  
fishes\_taxonomy  
キーワード  
Creative Commons Attribution (CC BY) 4.0 License  
知識所有権  
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際

← URI <http://science-net.kahaku.go.jp/dataset/321>

データを見る

トップページの「機関・データセット一覧」から選択するか、  
<http://science-net.kahaku.go.jp/app/k>  
直接指定  
<http://science-net.kahaku.go.jp/dataset/321>

## メタデータにおける重要事項

1. 機関略号を新たに決める場合、全世界的にユニークとなるようにGRBioを参考にすることを推奨します。
2. 機関略号・コレクション名ともにいったん決めたら変更しないことを推奨します。
3. データの二次利用許諾について、CC BYライセンスを選択されることを推奨します。

2021

2021

### コラム: GRSciColl (旧GRBio) (Global Registry of Scientific Collections)

- 科学的標本・資料を所有する機関とそのコレクションのデータベース。
  - 2013年に生物標本を対象に開始 (GRBio)、後日スミソニアン博物館と連携し対象拡大 (GRSciColl)。現在はGBIFが運営。
- 科博: TNS (植物)、NSMT (動物); 群馬県自然史博: GMNHJ  
標本: TNS-F-12345 は世界で唯一が理想。
- 機関略号の“衝突”を避けるため推奨される。
  - ウェブサイトから検索・登録可能。

### コラム: クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンス

- 著作権者がデータの利用条件を意思表示するためのツール (ライセンス) の一つ。
- 世界的で最も普及しており、4億点以上の作品に付与されている。
- 標本・観察データ自体は「事実データ」なので著作権はないが、データベースとしてまとめたものは著作権を有することがある。
- 概要をアイコンで表記できる。



CCライセンス表記の一例  
(CC BY-NC、詳細は次のスライド)

### クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンス

国際的な団体「クリエイティブ・コモンズ」が提唱する、データ (含、著作物) の使用条件。下記の組み合わせ。

表示	意味
BY	出典を表示してください
NC	商用を目的とした利用を禁止します
SA	再利用の際には、同じCCライセンス条件を継承してください
ND	内容の改変を禁止します

- 例
- CC BY:** 「著作物を利用する際には、出典を表示してください」
- CC BY-NC:** 「著作物を利用する場合には、出典を表示してください。商用を目的とした利用は禁止です」

### クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンス



#### 【PD (パブリック・ドメイン) とCC0】

PD: 著作物に著作権などが発生していないか、期限切れなどで消滅している状態。

CC0: 著作物に対して、出典の表示も含め、あらゆる制限無しでの利用を意思表示する方法。実質的なパブリック・ドメイン。

<http://creativecommons.jp/licenses/>

## GBIF/S-Netのデータのライセンス

- GBIFのデータセット(各機関から提供される標本・観察情報のコレクション)ごとに、利用条件が設定されている。
- CC0、CC BY、CC BY-NCの3種類から選ぶ。S-NetのデータのライセンスもGBIFのそれに準ずる。
- これは現在すでに公開されているデータを使いにくくするものではなく、データの利用条件を明確にし、気持ちよくデータを提供・利用するためのもの。

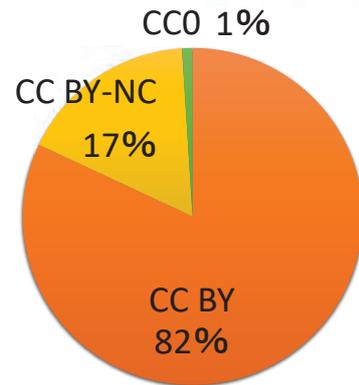
### データをチェックしよう

1. データのエラーの一部は、「変換ツール」でチェックできます。
  - 1) できる例: 半角項目にある全角、不要なスペース
  - 2) できない例: 綴りの間違い→リスト・辞書利用を推奨
2. チェックできないエラーのチェックには、**チェックリスト**をご活用ください。

### 事務局でのデータチェック

1. 事務局では、以下のようなポイントを再度チェックします。
  - 1) 提出ロット内での**カタログ番号**重複。
  - 2) 過去の提出データとの間での**カタログ番号**重複。
  - 3) 絶滅危惧種の所在地データの公表。
2. 必要に応じて、データの修正を実施/お願いしますので、ご対応ください。
3. 必要に応じてデータの再提出をお願いします。
4. データのチェックポイントなどについてのご相談も承ります。

## S-Netのデータのライセンス (2017年末現在)



### 変換ツールを使ってみよう

1. S-Netのホームページから「変換ツール」をダウンロードします。
2. 作成したデータ(コアデータ)を、変換ツール ([http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html?scrollTo=dataconv##dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html?scrollTo=dataconv##dataconv)) を使って、変換(S-Netのデータ形式に整えること)します。
3. 変換したデータをメールで事務局に送ります。



### 事務手続きをしよう

1. 変換手数料の受け取りについての事務手続きについては、事務局([s-net\\_info@kahaku.go.jp](mailto:s-net_info@kahaku.go.jp))にご相談ください。
2. 契約の必要の有無・振込方法など、さまざまな点が機関により異なります。



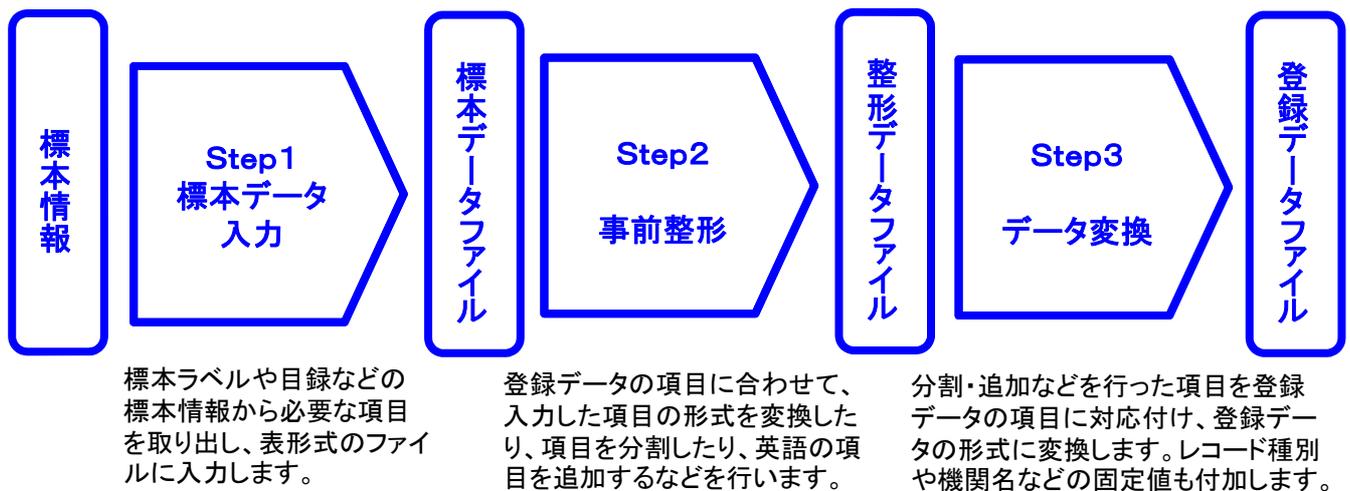
## 新形式のS-Net/GBIF登録用データの作成

新しいS-Net/GBIF登録データは、“Darwin Core最新版”により近い9情報群のデータです。「保存標本」および「化石標本」の自然史標本情報を登録するため、173項目が用意されています。

No	情報群	主な項目
1	システム管理情報	管理ID、登録日時、更新日時、データセット管理番号、グローバルユニーク番号
2	基本情報	GBIF公開フラグ、レコード種別、機関名、機関コード、コレクションコード、カタログ番号
3	オカレンス情報	性別、生活型・世代型、成熟状況、行動、生息環境、記録年月日
4	位置情報	大陸、水域、島群、島、国、都道府県、郡・市区町村、詳細地名、海拔、緯度、経度
5	分類情報	タイプ標本種別、学名、界名、門名、綱名、目名、科名、属名、種小名、著者、和名
6	参考情報	備考1(公開)
7	非公開情報	備考2(非公開)、備考3(非公開)
8	古生物情報	推定年代、生層序帯、層群、層、部層、単層
9	命名情報	オリジナルの学名、原記載、原記載出版年

※登録データの項目の詳細については、「データ変換ツール」のマッピング表または、「データ変換ツール利用者向けマニュアル」の4章をご参照ください。これらは、S-Net サイト( <http://science-net.kahaku.go.jp> )の「参加機関・参加検討中の機関の方へ」からダウンロードできます。

S-Net/GBIF登録データの作成は次の3つのステップで行います。



## Step 1 : 標本データの入力

所蔵標本のラベルや目録などから、標本データを表形式のファイルに入力します。1行目は項目名とします。

【標本データファイル】の例

SNHM-Aves_1.xlsx						
	A	B	C	D	E	F
1	No.	学名	和名	性別	採集地	採集日付
2	18676	Gallinago hardwickii (Gray)	オオジシギ	♂	宮城県栗原郡若柳	19280801
3	18677	Gallinago hardwickii (Gray)	オオジシギ	♀	宮城県栗原郡若柳	19280801
4	18678	Gallinago megala	チュウジシギ	♂	宮城県栗原郡若柳	19260910
5	18679	Limosa limosa melanuroides	オダロシギ	♂	宮城県栗原郡若柳	19210919
6	18680	Limosa limosa melanuroides	オダロシギ	♀	宮城県栗原郡若柳	19210919

## Step2: 事前整形

① 登録データの項目からすべての標本データに共通の値を入力できる項目を確認します。

※共通の値はStep3のデータ変換ツールで直接入力ができるので整形データファイルに項目を作る必要はありません。

	項目 (赤字は必須項目)	直接入力の値(例)
基本情報	7.GBIF公開フラグ	1: 公開する
	8.レコード種別	PreservedSpecimen
	9.機関名	Saito Natural History Museum
	10.機関名(日本語)	斎藤報恩会自然史博物館
	11.機関コード	SNHM
	12.コレクションコード	Aves
位置情報	78.地名公開レベル	0: 公開
分類情報	87.界名(学名)	Animalia
	88.界名(日本語)	動物界
	93. 門名(学名)	Chordata
	94. 門名(日本語名)	脊索動物門
	95. 綱名(学名)	Aves
	96. 綱名(日本語名)	鳥綱

② S-Net/GBIF登録形式の項目に入力した項目の形式を変換したり、項目を分割したり、英語の項目を追加するなどを行います。

具体的には

- ・ 性別情報を英語化します
- ・ 住所を都道府県、市区町村などに切り分けます
- ・ 国・都道府県・市区町村名を英語に変換します
- ・ 緯度経度の情報を十進形式で取得します
- ・ 生物リストを使って和名を調べ学名を取得します
- ・ 学名を属名、種小名などに切り分けます
- ・ 日付を8桁の文字列の形式に変換します

などを行います。

詳細は「入力のヒント」を参照ください。  
 「地名の切り分け」  
 「地名の英語化」  
 「採集地の住所・緯度経度を取得」  
 「地名から緯度経度を取得」  
 「生物リストで和名から学名を取得」  
 「学名の切り分け」

新しいデータ変換ツールでは属名や種小名を学名から抽出したり、緯度・経度を度分秒から十進形式に変換したり、日付をS-Netの8桁の形式に変換したりする機能がないので、この段階で行います。

もし、これらの作業でお困りの場合は、事務局へご相談ください。

③ 1行目の項目名がS-Net/GBIF登録データ形式の項目名と異なる場合は登録データの項目名に変更します。

※項目名を変更しておく、Step3のデータ変換ツールで自動的に対応付け(マッピング)されます。

### 【整形データファイル】の例

SNHM-Aves_2.xlsx									
A	B	C	D	E	F	G	H	I	
1	カタログ番号 学名	和名	目名(日本語名)	科名(日本語名)	属名(学名)	種小名	亜種以下のタクソン	学名の著者	
2	18676 Gallinago hardwickii (Gray)	オオシシギ	チドリ目	シギ科	Gallinago	hardwickii		(Gray)	
3	18677 Gallinago hardwickii (Gray)	オオシシギ	チドリ目	シギ科	Gallinago	hardwickii		(Gray)	
4	18678 Gallinago megala	チュウシシギ	チドリ目	シギ科	Gallinago	megala			
5	18679 Limosa limosa melanuroides	オクロシギ	チドリ目	シギ科	Limosa	limosa	melanuroides		
6	18680 Limosa limosa melanuroides	オクロシギ	チドリ目	シギ科	Limosa	limosa	melanuroides		
7									
8									
9									

SNHM-Aves_2.xlsx										
J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	
1	性別	性別(日本語)	国	国(日本語)	都道府県	都道府県(日本語)	都・市区町村	都・市区町村(日本語)	詳細地名(日本語)	記録年月日(始め)
2	male	♂	Japan	日本	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19280801
3	female	♀	Japan	日本	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19280801
4	male	♂	Japan	日本	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19260910
5	male	♂	Japan	日本	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19210919
6	female	♀	Japan	日本	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19210919
7										
8										
9										

このファイルがStep3のデータ変換ツールの入力ファイルになります。

# Step3: データ変換

①S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」から、「データ変換ツール」と利用者マニュアルをダウンロードします。データ変換ツールの利用にあたっての詳細は、このマニュアルをご覧ください。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)

②データ変換ツールを解凍してファイルをコピーし、名前を変更してデータセット(コレクション)専用の変換ツールを用意します。

**【名前変更の例】データ変換ツール.xlsm → データ変換ツール\_SNHM-Aves.xlsm**

※項目の対応付け(マッピング)の情報はxlsmファイルに直接保存されます。  
データセットごとに専用のデータ変換ツールを使うことをお奨めします。

③専用のデータ変換ツールを起動し、[入力ファイル名]に事前整形ファイルを指定して、[マッピング]を選択します。  
ファイルがcsv形式の場合は、[文字コード]から「UTF-8」か「Shift-JIS」を選択します。

標本データ変換

※データ変換済みのS-Netの登録形式ファイルを指定して、[データクリーニング]、[データ検証]を行うこともできます。データ変換後に登録ファイルを修正した場合や独自のプログラムなどでS-Netの登録形式のファイルを直接作成した場合には、登録ファイルを指定して[データ検証]を行ってください。

④[入力ファイル項目名]欄のドロップダウンリストから、事前整形ファイルの項目を選択するか、「直接入力」を選択して[値の直接入力]欄に値を入力し、S-Netの項目を対応付け(マッピング)していきます。

項目マッピング

情報群	S-Net項目名	データ型	項目説明	入力ファイル項目名	値の直接入力	表示項目
6 基本情報	データ登録日時	日時	S-Net/GDIF事務局管理用項目			
7 基本情報	GDIF公開フラグ	論理(真偽)型	0:GDIFで公開しない、1:GDIFで公開する(既定値)	直接入力		
8 基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)	HumanObservation, MachineObservation, MaterialSample, Occurrenceのいずれか	直接入力	PreservedSpecimen	
9 基本情報	機関名	文字列(半角英数字)	機関名の英文名称	直接入力	Saito Natural History	
10 基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)	機関名の和文名称	直接入力	審議院自然史博	
11 基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)	標本の機関コード(例:TNS, NMST, KPM)	直接入力	SNHM	
12 基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)	標本のコレクションコード(例:VS, F, AL)。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる。	直接入力	Aves	
13 基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)	標本番号	カタログ番号		
14 オカレンス情報	採集者番号	文字列(半角英数字)	採集者によるオリジナルの標本番号			
15 オカレンス情報	オカレンス備考	文字列(半角英数字)	標本等に関する補足説明(例:found dead on the road)			
16 オカレンス情報	オカレンス備考(日本語)	文字列(日本語可)	標本等に関する補足説明(例:路上糞死体)			
17 オカレンス情報	性別	文字列(半角英数字)	例: male, female	性別		
18 オカレンス情報	性別(日本語)	文字列(日本語可)	例: オス, メス	性別(日本語)		
19 オカレンス情報	生活型・世代型	文字列(半角英数字)	個体のライフステージ(例:juvenile, adult, sporophyte)	性別(日本語)		
20 オカレンス情報	生活型・世代型(日本語)	文字列(日本語可)	例: 幼中, 成中, 胞子体	性別(日本語)		
21 オカレンス情報	成熟状況	文字列(半角英数字)	例: pregnant, in bloom, fruit-bearing			
22 オカレンス情報	成熟状況(日本語)	文字列(日本語可)	例: 妊娠中, 開花中, 結実中			
23 オカレンス情報	行動	文字列(半角英数字)	採集時の個体の振る舞い(例:roosting, foraging, running)			
24 オカレンス情報	行動(日本語)	文字列(日本語可)	例: oakに滞在, 採集中, 走っていた			
25 オカレンス情報	生息環境	文字列(半角英数字)	例: oak savanna, pre-cordilleran steppe			

**【注意】[設定保存]を忘れずに行ってください。**

データ変換ツールを終了してもう一度起動したり、別の入力ファイルを読み込んだりすると、指定した入力ファイルの項目や直接入力の値はなくなってしまいます。項目の対応付け(マッピング)ができれば、[設定保存]で項目マッピングの情報を忘れずに保存しておき、次にマッピングする際は[設定読み込み]で指定した情報を取り出します。マッピングを途中で中断する場合も、[設定保存]しておき、再開時に[設定読み込み]して続けます。

## Step3: データ変換(続き)

⑤すべての項目のマッピングを終えたら、[実行]を選択します。

→ マッピングチェック～データ検証～クリーニングが実行され、登録用のデータファイルが作成されます。

※ファイル名は「××\_登録データ.xlsx」(××は入力ファイルの名前)で、複数あれば後ろに番号が付きます。

### 【S-Net/GBIF登録データファイル】の例

(続き)

(続き)

(続き)

**完成** このファイルを提供データとしてお送りください。

→ データ検証でエラーが見つかった場合は入力ファイルにエラー情報が付いた検証ファイルが作成されます。

※ファイル名は「××\_検証データ.xlsx」(××は入力ファイルの名前)で、複数あれば後ろに番号が付きます。

### 【検証ファイル】の例

エラー件数	エラー内容	カタログ番号	学名	和名	目名(日本語名)	科名(日本語名)
0		18676	Gallinago hardwickii (Gray)	オオシシギ	チドリ目	シギ科
0		18677	Gallinago hardwickii (Gray)	オオシシギ	チドリ目	シギ科
4	MW013: 警告: カタログ番号 必須項目を入力してください。M		Gallinago megalala	チュウシシギ	チドリ目	シギ科
5	MW016: 警告: 記録年月日(始め) 日付を入力してください。18679		Limosa limosa melanuroides	オグロシギ	チドリ目	シギ科
6	MW014: 警告: 学名 半角英数字を入力してください。MMW02C18680			ヤマシギ		

赤いセルのエラーを修正し、修正された入力ファイルをもう一度、読み込んでマッピングを実行します。

【注意】データ変換ツールでできない点についてご確認ください。

- 項目からの抽出や日付・緯度経度などの形式変換はできません

旧データ変換メインツールにあった属名、種小名などを「学名から抽出」する機能、種々の形式の「日付」や「緯度・経度」を変換する機能はなくなりました。エクセルの関数などを利用して、登録データ形式に変換するようにお願いします。もし、お困りの場合は、事務局までお問い合わせください。

- 学名などの綴りのチェックはできません

種名リストなどの辞書をご利用いただき、正しい綴りの情報を入力してください。

詳細は「入力のヒント」を参照ください。  
「生物リストで和名から学名を取得」  
「日本産生物リスト一覧」

- 機関コード、コレクションコードはチェックできません

機関コード(機関略号)・コレクションコード(標本コード)は変換ツールではチェックできません。

S-Netサイト( <http://science-net.kahaku.go.jp> )の「機関・データセット一覧」で確認し、正しいコードを指定してください。

- 掲載済みの標本データとの重複をチェックすることはできません

入力ファイルに同じカタログ番号(標本番号)のデータがないかどうかチェックすることはできますが、掲載済みの標本データのカタログ番号とチェックすることはできません。掲載済みの標本データはS-Netサイト( <http://science-net.kahaku.go.jp> )の「機関・データセット一覧」からデータセットを選択後、「データを見る」で表示できますので、カタログ番号に重複がないかどうかご確認ください。

【ご意見・ご質問の宛先】 [s-net\\_info@kahaku.go.jp](mailto:s-net_info@kahaku.go.jp)

No	情報群	S-Net項目名	データ型	指定	メモ (入カファイルの項目名などにご利用ください。)
1	システム管理情報	管理ID	整数	×	システム管理項目のため入力不要
2	システム管理情報	登録日時	日時	×	システム管理項目のため入力不要
3	システム管理情報	更新日時	日時	×	システム管理項目のため入力不要
4	システム管理情報	データセット管理番号	文字列(半角英数字)	×	システム管理項目のため入力不要
5	システム管理情報	グローバルユニーク番号	文字列(半角英数字)	×	システム管理項目のため入力不要
6	基本情報	データ登録日時	日時	×	システム管理項目のため入力不要
7	基本情報	GBIF公開フラグ	論理(真偽)型	必須	
8	基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)	必須	
9	基本情報	機関名	文字列(半角英数字)	必須	
10	基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)	必須	
11	基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)	必須	
12	基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)	必須	
13	基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)	必須	
14	オカレンス情報	採集者番号	文字列(半角英数字)		
15	オカレンス情報	オカレンス備考	文字列(半角英数字)		
16	オカレンス情報	オカレンス備考(日本語)	文字列(日本語可)		
17	オカレンス情報	性別	文字列(半角英数字)		
18	オカレンス情報	性別(日本語)	文字列(日本語可)		
19	オカレンス情報	生活型・世代型	文字列(半角英数字)		
20	オカレンス情報	生活型・世代型(日本語)	文字列(日本語可)		
21	オカレンス情報	成熟状況	文字列(半角英数字)		
22	オカレンス情報	成熟状況(日本語)	文字列(日本語可)		
23	オカレンス情報	行動	文字列(半角英数字)		
24	オカレンス情報	行動(日本語)	文字列(日本語可)		
25	オカレンス情報	生息環境	文字列(半角英数字)		
26	オカレンス情報	生息環境(日本語)	文字列(日本語可)		
27	オカレンス情報	個体群成立過程	文字列(半角英数字)		
28	オカレンス情報	個体群成立過程(日本語)	文字列(日本語可)		
29	オカレンス情報	処理・保存情報	文字列(半角英数字)		
30	オカレンス情報	処理・保存情報(日本語)	文字列(日本語可)		
31	オカレンス情報	カタログ旧番号・別番号	文字列(半角英数字)		
32	オカレンス情報	画像への外部リンク	文字列(半角英数字)		
33	オカレンス情報	参照リンク	文字列(半角英数字)		
34	オカレンス情報	参照リンク(日本語)	文字列(半角英数字)		
35	オカレンス情報	文献	文字列(半角英数字)		
36	オカレンス情報	文献(日本語)	文字列(日本語可)		
37	オカレンス情報	塩基配列	文字列(半角英数字)		
38	オカレンス情報	関連分類群(ホスト情報等)	文字列(半角英数字)		
39	オカレンス情報	関連分類群(ホスト情報等)(日本語)	文字列(日本語可)		
40	オカレンス情報	過去の同定結果	文字列(半角英数字)		
41	オカレンス情報	過去の同定結果(日本語)	文字列(日本語可)		
42	オカレンス情報	サンプリング方法	文字列(半角英数字)		
43	オカレンス情報	サンプリング方法(日本語)	文字列(日本語可)		
44	オカレンス情報	記録年月日(始め)	文字列(半角英数字)		
45	オカレンス情報	記録年月日(終わり)	文字列(半角英数字)		
46	オカレンス情報	記録年月日オリジナル表記	文字列(日本語可)		
47	オカレンス情報	記録年月日に関する備考	文字列(半角英数字)		
48	オカレンス情報	記録年月日に関する備考(日本語)	文字列(日本語可)		
49	位置情報	大陸	文字列(半角英数字)		
50	位置情報	大陸(日本語)	文字列(日本語可)		

No	情報群	S-Net項目名	データ型	指定	メモ (入力ファイルの項目名などにご利用ください。)
51	位置情報	水域	文字列(半角英数字)		
52	位置情報	水域(日本語)	文字列(日本語可)		
53	位置情報	島群	文字列(半角英数字)		
54	位置情報	島群(日本語)	文字列(日本語可)		
55	位置情報	島	文字列(半角英数字)		
56	位置情報	島(日本語)	文字列(日本語可)		
57	位置情報	国	文字列(半角英数字)	必須	
58	位置情報	国(日本語)	文字列(日本語可)	必須	
59	位置情報	国地域コード	文字列(半角英数字)		
60	位置情報	都道府県	文字列(半角英数字)		
61	位置情報	都道府県(日本語)	文字列(日本語可)		
62	位置情報	郡・市区町村	文字列(半角英数字)		
63	位置情報	郡・市区町村(日本語)	文字列(日本語可)		
64	位置情報	詳細地名	文字列(半角英数字)		
65	位置情報	詳細地名(日本語)	文字列(日本語可)		
66	位置情報	地名オリジナル表記	文字列(半角英数字)		
67	位置情報	最低海拔	数値		
68	位置情報	最高海拔	数値		
69	位置情報	最浅水深	数値		
70	位置情報	最深水深	数値		
71	位置情報	メッシュコード	文字列(半角英数字)		
72	位置情報	緯度(十進数表記)	数値		
73	位置情報	経度(十進数表記)	数値		
74	位置情報	測地系	文字列(半角英数字)		
75	位置情報	緯度経度誤差半径	数値		
76	位置情報	緯度経度特定に関する備考	文字列(半角英数字)		
77	位置情報	緯度経度特定に関する備考(日本語)	文字列(日本語可)		
78	位置情報	地名公開レベル	数値(コード)	必須	
79	位置情報	非公開情報に関する備考	文字列(半角英数字)		
80	位置情報	非公開情報に関する備考(日本語)	文字列(日本語可)		
81	位置情報	位置情報に関する備考	文字列(半角英数字)		
82	位置情報	位置情報に関する備考(日本語)	文字列(日本語可)		
83	分類情報	タイプ標本種別	文字列(半角英数字)		
84	分類情報	タクソンID	文字列(半角英数字)		
85	分類情報	学名	文字列(半角英数字)	必須	
86	分類情報	カテゴリー	文字列(日本語可)		
87	分類情報	界名(学名)	文字列(半角英数字)	必須	
88	分類情報	界名(日本語名)	文字列(日本語可)	必須	
89	分類情報	門名(学名)	文字列(半角英数字)		
90	分類情報	門名(日本語名)	文字列(日本語可)		
91	分類情報	綱名(学名)	文字列(半角英数字)		
92	分類情報	綱名(日本語名)	文字列(日本語可)		
93	分類情報	目名(学名)	文字列(半角英数字)		
94	分類情報	目名(日本語名)	文字列(日本語可)		
95	分類情報	科名(学名)	文字列(半角英数字)		
96	分類情報	科名(日本語名)	文字列(日本語可)		
97	分類情報	属名(学名)	文字列(半角英数字)		
98	分類情報	属名(日本語名)	文字列(日本語可)		
99	分類情報	亜属名(学名)	文字列(半角英数字)		
100	分類情報	亜属名(日本語名)	文字列(日本語可)		
101	分類情報	種小名	文字列(半角英数字)		
102	分類情報	亜種以下のタクソン	文字列(半角英数字)		
103	分類情報	分類群ランク	文字列(半角英数字)		
104	分類情報	学名の著者	文字列(半角英数字)		

No	情報群	S-Net項目名	データ型	指定	メモ (入力ファイルの項目名などにご利用ください。)
105	分類情報	和名	文字列(日本語可)		
106	分類情報	同定に関する補足情報	文字列(半角英数字)		
107	分類情報	同定に関する補足情報(日本語)	文字列(日本語可)		
108	分類情報	分類群に関する備考	文字列(半角英数字)		
109	分類情報	分類群に関する備考(日本語)	文字列(日本語可)		
110	参考情報	備考1(公開,日本語)	文字列(日本語可)		
111	非公開情報	備考2(非公開,日本語)	文字列(日本語可)		
112	非公開情報	備考3(非公開,日本語)	文字列(日本語可)		
113	非公開情報	採集・記録者(非公開)			
114	非公開情報	採集・記録者(非公開,日本語)			
115	非公開情報	水域(非公開)			
116	非公開情報	水域(非公開,日本語)			
117	非公開情報	島群(非公開)			
118	非公開情報	島群(非公開,日本語)			
119	非公開情報	島(非公開)			
120	非公開情報	島(非公開,日本語)			
121	非公開情報	郡・市区町村(非公開)			
122	非公開情報	郡・市区町村(非公開,日本語)			
123	非公開情報	詳細地名(非公開)			
124	非公開情報	詳細地名(非公開)(日本語)			
125	非公開情報	地名オリジナル表記(非公開)			
126	非公開情報	最低海拔(非公開)			
127	非公開情報	最高海拔(非公開)			
128	非公開情報	最浅水深(非公開)			
129	非公開情報	最深水深(非公開)			
130	非公開情報	メッシュコード(非公開)			
131	非公開情報	緯度(十進数表記)(非公開)			
132	非公開情報	経度(十進数表記)(非公開)			
133	古生物情報	上限の推定年代(累代・累界レベル)	文字列(半角英数字)		
134	古生物情報	上限の推定年代(累代・累界レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
135	古生物情報	下限の推定年代(累代・累界レベル)	文字列(半角英数字)		
136	古生物情報	下限の推定年代(累代・累界レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
137	古生物情報	上限の推定年代(代・界レベル)	文字列(半角英数字)		
138	古生物情報	上限の推定年代(代・界レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
139	古生物情報	下限の推定年代(代・界レベル)	文字列(半角英数字)		
140	古生物情報	下限の推定年代(代・界レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
141	古生物情報	上限の推定年代(紀・系レベル)	文字列(半角英数字)		
142	古生物情報	上限の推定年代(紀・系レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
143	古生物情報	下限の推定年代(紀・系レベル)	文字列(半角英数字)		
144	古生物情報	下限の推定年代(紀・系レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
145	古生物情報	上限の推定年代(世・統レベル)	文字列(半角英数字)		
146	古生物情報	上限の推定年代(世・統レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
147	古生物情報	下限の推定年代(世・統レベル)	文字列(半角英数字)		
148	古生物情報	下限の推定年代(世・統レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
149	古生物情報	上限の推定年代(階・期レベル)	文字列(半角英数字)		
150	古生物情報	上限の推定年代(階・期レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
151	古生物情報	下限の推定年代(階・期レベル)	文字列(半角英数字)		
152	古生物情報	下限の推定年代(階・期レベル)(日本語)	文字列(日本語可)		
153	古生物情報	生層序帯(最下位)	文字列(半角英数字)		
154	古生物情報	生層序帯(最下位)(日本語)	文字列(日本語可)		
155	古生物情報	生層序帯(最上位)	文字列(半角英数字)		
156	古生物情報	生層序帯(最上位)(日本語)	文字列(日本語可)		
157	古生物情報	岩相層序名	文字列(半角英数字)		
158	古生物情報	岩相層序名(日本語)	文字列(日本語可)		

No	情報群	S-Net項目名	データ型	指定	メモ (入力ファイルの項目名などにご利用ください。)
159	古生物情報	層群	文字列(半角英数字)		
160	古生物情報	層群(日本語)	文字列(日本語可)		
161	古生物情報	層	文字列(半角英数字)		
162	古生物情報	層(日本語)	文字列(日本語可)		
163	古生物情報	部層	文字列(半角英数字)		
164	古生物情報	部層(日本語)	文字列(日本語可)		
165	古生物情報	単層	文字列(半角英数字)		
166	古生物情報	単層(日本語)	文字列(日本語可)		
167	命名情報	オリジナルの学名	文字列(半角英数字)		
168	命名情報	原記載	文字列(半角英数字)		
169	命名情報	原記載出版年	文字列(半角英数字)		
170	命名情報	オリジナルの分類群ランク	文字列(半角英数字)		
171	命名情報	命名規約	文字列(半角英数字)		
172	命名情報	分類学的ステータス	文字列(半角英数字)		
173	命名情報	命名規約上のステータス	文字列(半角英数字)		

## メタデータ登録票記載のお願い

2021.6.1

国立科学博物館 神保 宇嗣

平素は S-Net および GBIF 事業にご協力いただきまして、大変ありがとうございます。

S-Net では 2018 年 4 月以降、GBIF と同様にデータセット（コレクション）ごとに、機関情報やデータセットに関する情報を公開しています（詳細は別紙を参照）。そのため、データご提供の際は、データと併せてメタデータ登録票の提出をお願いしております。実際にお願ひしたい作業は、下記の【お願ひしたいこと】だけで、比較的単純なことです。これを機会に S-Net および GBIF におけるデータ管理についても紹介したいと思います。多少長くなりますが、お付き合いいただければ幸いです。

## 【背景】

各機関からご提供いただいているデータは、多くの場合、分類群や寄贈者など、コレクションごとにひとかたまりのデータとして扱われています。このかたまりをデータセットと言います。例えば、X 博物館の鱗翅類、Y 博物館の菌類、といった具合です。データセットのまとめ方は任意で、X 博物館が「鱗翅類」、「甲虫類」と分かれていても、別な機関では同様の標本が「昆虫類」あるいは「動物」としてまとまっても問題ありません。データセットをコレクションと同じ単位にする必要もありませんが、標本情報をコレクションごとにまとめたほうが管理が容易なため、データセットをコレクション単位にするのが通例です。さて、このデータセットは、S-Net および GBIF ではデータ管理上の単位となっており、データセットごとに ID が与えられます。現在、GBIF では UUID (Universal Unique Identifier) と呼ばれるランダムな文字列が与えられます。例えば、81251eee-f762-11e1-a439-00145eb45e9a は、“Ibaraki Nature Museum, Fungi Collection” というデータセットに与えられた ID です。この文字列はインターネット上でこのデータセットを特定できるよう紐づけされており、この UUID を使って“<http://www.gbif.org/dataset/81251eee-f762-11e1-a439-00145eb45e9a>”と検索すると、GBIF 上のこのデータセットが表示され、ダウンロードも可能です。同じく S-Net でも、データセットを特定する ID としてデータセット略号を与えており、データセット単位での検索やダウンロードが可能です。データセット略号は、通例で機関コード（機関略号）とコレクションコード（標本コード）を組み合わせるものになります（例：科博の菌類であれば、TNS-F；秋田県立博物館の棘皮動物であれば AKPM-EC）。データセット略号と UUID は紐づけて管理されており、S-Net から GBIF へデータを送る際にデータセットの特定が出来るようになっています。

上で述べたように、データセットが一つの管理上のデータのかたまりとなります。そのため、管理上に必要なデータが標本情報のデータ本体とは別に必要となります。これをメタデータと呼んでいます。論文や書籍でいえば、データそのものは本文に相当し、タイトルや著者・出版社などがメタデータになります。メタデータとは「説明データ」などと訳されていますが、ここでは、要するにデータセットの書誌情報だと思えばよいでしょう。メタデータによって、そのデータがどのような素性のものか（だれが、どんな目的で、どんな内容のデータを集めたのか、など）、分かるようになり、データセットを見つけるのに役立ちます。

GBIF で各データセットに要求されているメタデータ項目は次のようなものです。

- ・機関名（館名）
- ・データセットのタイトル
- ・内容
- ・ライセンス
- ・担当者連絡先
- ・データ作成者連絡先
- ・メタデータ作成者連絡先  
（※連絡先=姓・名・肩書き・メールアドレス）

GBIF で要求されている項目はすべて英文ですが、S-Net ではこれに準じ各項目の和文データも備えています。そのため、S-Net では、S-Net 自身のデータ管理に必要な項目を加えて、下記のようなメタデータ項目を収集しております（和は日本語での情報、英は英語の情報あるいはお名前のローマ字表記です）。

- ・機関名（和・英）
- ・機関コード（機関略号）
- ・機関の日本語サイト URL
- ・機関の英語サイト URL
- ・コレクション名
- ・コレクションコード
- ・データセットのタイトル（英）
- ・内容（和・英）
- ・データセットの日本語サイト URL
- ・データセットの英語サイト URL
- ・キーワード（和・英）
- ・ライセンス
- ・担当者連絡先（和・英）
- ・技術担当者連絡先（和・英）

なお、S-Net では、担当者とメタデータ作成者をまとめて、「担当者連絡先」として情報をいただいております。以前は、キーワード、担当者連絡先および技術担当者連絡先の電話番号も GBIF より公開していましたが、現在は公開しておらず、令和 3 年度より電話番号は収集いたしません。

また、メタデータはライセンス CC0（著作者の引用を伴わずに二次利用可能）とします。「〇〇博物館の鳥類標本コレクション ABC-XXX」を引用するのに、いちいち製作者を述べるのは不要という判断からです。

【お願いしたいこと】

- 1) 様式 7 は、メタデータを記載していただくための登録票です。登録票はデータセット（コレクション）1 つにつき 1 枚ずつ作成してください。
- 2) 作成したメタデータ登録票は、データご提供の際、s-net\_info @kahaku.go.jp 宛てに Excel ファイル でご返送ください。
- 3) なお、メタデータの書き方については、S-Net ホームページ内の機関・データセット一覧のページ <http://science-net.kahaku.go.jp/app/k/> よりデータセットを選択していただければ、様々な例をご覧いただけます。
- 4) 各項目について、ご注意をお願いしたい点を申し上げます。

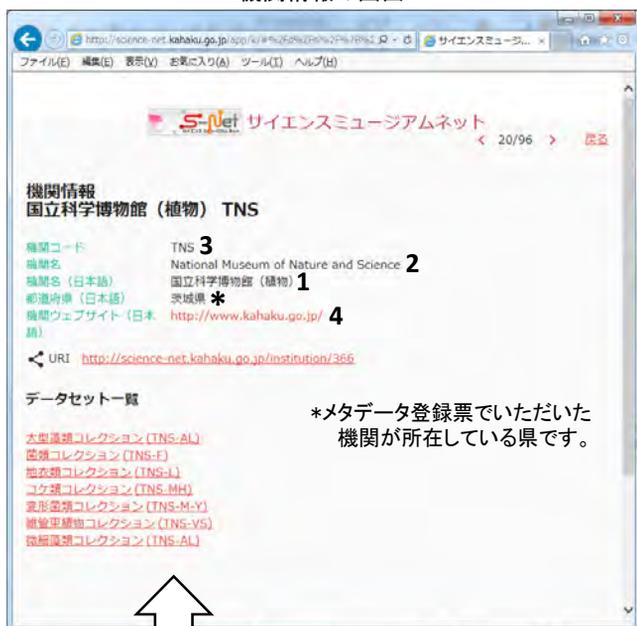
項目名	注意
機関名（和）、機関名 英文名（英）	<u>正式名称</u> をお願いします。特に、 <u>英文正式名称</u> にご注意ください。 英語の名称は必要なので、正式な英文名称が決まっていない場合などは、その旨もお知らせいただきますと助かります。
機関コード（機関略号）	機関の略号をご記入ください。
機関の日本語サイト URL、機関の英語サイト URL	機関の日本語サイトおよび英語サイトの URL をご記入ください。
コレクション名	コレクション名をご記入ください。
コレクションコード	コレクションコード（標本コード）をご記入ください。
データセットのタイトル（英）	データセットのタイトルを英語でご記入ください。
内容（和・英）	コレクションの概要をご記入ください。
データセットの日本語サイト URL、データセットの英語サイト URL	機関の URL 以外に本データセット公表をメインとした日本語サイト、英語サイトがあれば、それらの URL をご記入ください。
キーワード（和・英）	キーワードを半角カンマとスペース", "で区切ってご記入ください。 GBIF では公開いたしません。
ライセンス	データ利用権回答書で回答いただく内容です。（変更不可）
担当者名（和） 担当者姓・名（英） 担当者肩書き（和・英） 担当者メールアドレス	データセットの管理上の問い合わせ先（実際には問い合わせがあることはほとんどありませんが）をご記入ください。
技術担当者名（和） 技術担当者姓・名（英） 技術担当者肩書き（和・英） 技術担当者メールアドレス	データセットの内容についての問い合わせ先（実際には問い合わせあることはほとんどありませんが）をご記入ください。

ご提出頂いたメタデータの一部は、S-Net (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) 上で「機関情報」「データセット」として公開しています。

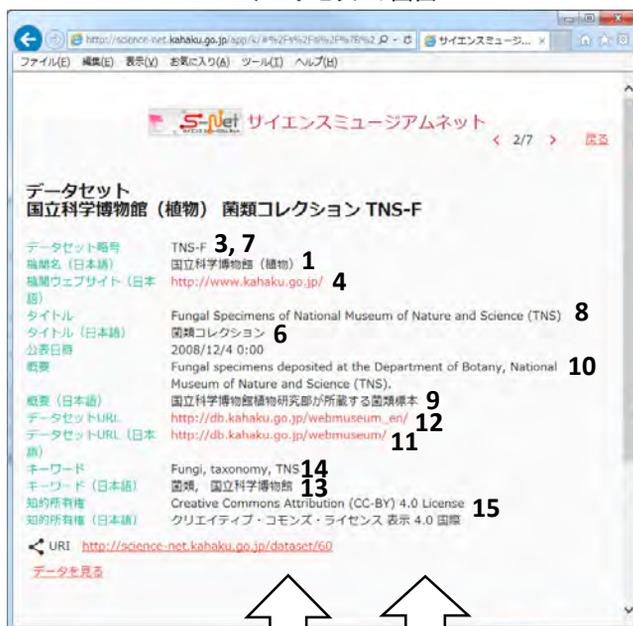
例えば、S-Netの「データセット略号」はメタデータ登録票の「3.機関コード(機関略号)」と「7.コレクションコード」を組み合わせたものを、「タイトル(日本語)」は「6.コレクション名」を表示しています。

### S-Net画面項目とメタデータ登録票項目の対応例

S-Net機関情報の画面



S-Netデータセットの画面



\*メタデータ登録票でいただいた機関が所在している県です。

【様式 7】 **メタデータ登録票** 入力年月日： 年 月 日

機関情報		項目	入力欄
1	機関名(和)		
2	機関名(英/文名(英))		
3	機関コード(機関略号)		
4	機関の日本語サイトURL		
5	機関の英語サイトURL		
データセット情報		項目	入力欄
6	コレクション名		
7	コレクションコード		
8	データセットのタイトル(英)		
9	内容(和)		
10	内容(英)		
11	データセットの日本語サイトURL		
12	データセットの英語サイトURL		
13	キーワード(和)		
14	キーワード(英)		
15	ライセンス	別途【様式8】データ利用権回答書でご提出ください。	
16	担当者名(和)		
17	担当者名(英)		
18	担当者名(姓:英)		
19	担当者肩書き		
20	担当者肩書き(英)		
21	担当者メールアドレス		
22	技術担当者名(和)		
23	技術担当者名(英)		
24	技術担当者名(姓:英)		
25	技術担当者肩書き		
26	技術担当者肩書き(英)		
27	技術担当者メールアドレス		
料荷担当使用欄			
28	データセット略号		
29	データセット管理番号		
30	データセットUUID		

※ライセンスCC-BYの場合は、【様式8】データ利用権回答書の CCBY にチェックをして提出します。

英語の情報は、GBIF (<http://www.gbif.org/>) のデータセット情報として公表されています。

令和3年6月1日

データ提供機関各位

国立科学博物館 標本資料センター

神保 宇嗣

データ利用条件設定へのご協力をお願い

平素はS-Net/GBIF事業へのご協力ありがとうございます。貴機関より提供されたデータはS-Netのサイトを通じて国内で公開・利用されると同時に、GBIFに提供され国際的にも公開・利用されています。これらのデータは、いずれもインターネットを通じて利用されることを前提に公開されています。S-Netでは、データ利用規程を定めておりますが、S-Net全体の総論的なことのみで、データセット（各機関から提供される標本・観察情報のコレクション）ごとの利用条件については、それぞれの機関に設定していただくことにしております。現在、S-NetおよびGBIFでは、データの利用を促進するために、その利用条件として、国際的によく使われているクリエイティブ・コモンズ・ライセンス（以下、CCライセンス）に従い、CC0、CC BY、CC BY-NCの3種類から選んでいただいております（別紙にて詳しく説明します）。データを提供いただく際には、CCライセンスに基づく利用条件が設定されていることが条件となります。そこで、データの提供機関におかれましては、【様式8】データ利用権回答書にて利用条件を設定いただき、ご返答いただきたく存じます。これは、データの利用条件を明確にすることで、気持ちよくデータを提供・利用するためのものをご理解ください。

CCライセンスの利用は国内外で一般化しつつありますが、まだ馴染みがない方も多いものと思います。そこで、別紙において、GBIFからの要請の背景とCCライセンスについて解説しますので、ご理解の上、以下にご協力をお願いします。

**お願いしたいこと：【様式8】データ利用権回答書により、データセットごとに、データの利用条件をご設定いただき、以下までご返送ください。なお、GBIFならびに私たちS-Netからのおすすめは、CC BYです。**

**返送先：**

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1  
国立科学博物館 標本資料センター  
神保 宇嗣

**問い合わせ先：**

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 標本資料センター 神保 宇嗣  
TEL：029-853-8277 / 8278 FAX：029-853-8401 Email：s-net\_info(at)kahaku.go.jp

※(at)こちらを@に変更してください

大変お手数をお掛けしまして、申し訳ありませんが、よろしく申し上げます。

## 【別紙】

### ■CC ライセンスとは

著作物には基本的に著作権が発生し、それを保護するため法律（著作権法など）によって、勝手な利用や改変が制限されます。しかし、著作物の中には最初から利用してほしいために公開するものもあるため、事前に「このような改変はいいよ」「利用に許可は必要ないよ」といった意思を宣言できれば、利用する側も安心して利用できます。このようなことを普及するため、クリエイティブ・コモンズという団体（国際的非営利組織）が活動しており、著作権を持つ方が利用の意思表示を行う方法として、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CC ライセンス）というルールを提供しています。

CC ライセンスでは、利用条件を表1のように整理しています。

表1

表示	意味
BY	出典を表示してください
NC	商用を目的とした利用を禁止します
SA	再利用の際には、同じ CC ライセンス条件を継承してください
ND	内容の改変を禁止します

CC ライセンスは、上記の要素の組み合わせによって定義されており、以下の6つがあります：CC BY、CC BY-SA、CC BY-ND、CC BY-NC、CC BY-NC-SA、CC BY-NC-ND。CC BYならば、「著作物を利用するには、出典を表示してください」、CC BY-NCならば「著作物を利用する場合には、出典を表示してください。商用を目的とした利用は禁止です」という意味になります。

CC ライセンスに関係した概念として、パブリック・ドメインと、CC0があります。パブリック・ドメインは、著作物に著作権などが発生していないか消滅している状態を指します。たとえば、著作権の保護期間が過ぎた著作物は、著作権が消滅しておりパブリック・ドメインになります。CC0は、著作物に対して、出典の表示も含めあらゆる制限無しでの利用を意思表示する方法で、宣言された著作物は、パブリック・ドメインとして提供されることになります。

CC ライセンスのような表示によって、提供者だけでなく、利用者にとってもどのようなことが許されるのかを明確に知らせることができます。また、CC ライセンスの利用許諾条項は、法律の専門家によって書かれており、トラブル等にも対応できます。お互いに安心してデータを提供・利用できるため、新しい時代の知的マナーの一つとも考えられます。そのような状況の中、CC ライセンスは、著作物利用に関する世界中で標準的なライセンスの一つとして認知されています。

生物多様性データ自体は、著作物ではない（事実データ）ので、基本的に著作権は発生しませんが、利用規程を定めることで利用の条件を設定することが一般的です。しかし、たくさんのデータベースの情報を利用する際に、利用規程がそれぞれのデータベースで異なっていると、利用者がやらないといけない要件の確認や利用許諾手続きなどの作業が膨大になってしまい、利用者が意図せず利用規程を外れた使い方をしてしまったり、利用を諦めてしまったりするおそれがある

ります。また、利用規程が不明確なため、せっかく公開しても利用できないデータもあります。CC ライセンスという同一かつ広く認知されたライセンスを与えることによって、利用条件の確認が簡単になり、許諾手続きも不要となります。これによって、利用条件に従ったデータの利用を促進することができます（なお、GBIF では、どのようにデータが利用されたのかを調べるための仕組みもあわせて作っていますが、詳細はここでは省略させていただきます）。

そこで、GBIF では、生物多様性に関わる情報の利用方法を検討し、上記のライセンスのうち、CC0（データは制限なく利用できる）、CC BY（データの出典を表示する）、CC BY-NC（データの出典を表示し、商用目的利用は禁止）の3種類から選定していただくことを想定しています。

なお、CC ライセンスについては、以下のサイトも参考になります。

クリエイティブ・コモンズ・ジャパン（日本で CC ライセンスの普及を行う団体）

<http://creativecommons.jp/>

CC ライセンスの解説

<http://creativecommons.jp/licenses/>

CC0 の要旨（専門的なライセンス本文を一般向けにわかりやすくまとめた文書）

<http://creativecommons.org/publicdomain/zero/1.0/deed.ja>

CC BY の要旨

<http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

CC BY-NC の要旨

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja>

機関コードについて GRSciColl (旧 GRBio) でのチェックと登録のお願い

2021.6.1

国立科学博物館 神保 宇嗣

S-Net/GBIF 事業にはいつもご協力ありがとうございます。このたびは、機関コードにつきまして注意を喚起させていただきたく、お知らせさせていただきます。

データを出していただく際には、機関コード (旧: 機関略号) とコレクションコード (旧: 標本コード) を決めていただいております。特に、重要なのは機関コードです。機関コードは、GBIF をはじめとした世界規模のデータベースで、世界の様々な博物館・大学等をはじめとする標本保存機関を区別する役割をもっています。そのため、機関コードは世界レベルで重複していないことが理想です。新たに決めるためには、すでにある標本保存機関がどのような機関コードを持っているかを知る必要があります。また、現在使われている機関コードが、他の機関と重複していないかどうかを知ることも重要です。

これまで、機関コードを重複しないように登録する仕組みは不十分でした。植物・菌類の主要な標本保存機関については、すでに Index Herbariorum (IH) という目録が整備されており、全世界の約 3000 の機関が登録され、重複しないように略号が付されています。しかし、IH に登録されていない植物・菌類の標本保存機関、および動物の標本保存機関の目録は存在せず、また、膨大な機関の情報を世界的にとりまとめるような活動もありませんでした。

そこで立ち上げられたプロジェクトが、2013 年に公開された GRBio (The Global Registry of Biorepositories) です (<http://grbio.org/>)。GRBio は、全世界の自然史標本の生物コレクションの情報を整理する活動です。現在までに、IH で扱われている標本庫も含めて、7000 機関あまりが登録されていました (IH で登録・更新された情報は、自動的に GRBio に反映されます)。その後、この活動は一旦休止した後、GBIF に引き継がれ、2019 年 3 月より、Global Registry of Scientific Collection (<https://www.gbif.org/ja/grscicoll>)として GBIF のサイト内で見ることができるようになりました。

なお、2020 年 6 月現在、GRBio (<http://grbio.org/>) にアクセスすると、GRSciColl (<https://www.gbif.org/grscicoll>) へリダイレクトされます。

今後、様々な標本データベースに標本情報を登録する前提として、標本を所蔵している機関が GRSciColl に登録されていることが前提になる可能性があります。また、機関コードが重複していると利用上混乱してしまいますが、GRSciColl に登録することで、今後の重複を回避しやすくなります。

そこで、S-Net では、GRSciColl に、各機関の情報と、これまで S-Net、GBIF へのデータ提供の際に使用していただいた機関コードを登録していただきたいと考えております。つきましては、以下のようにご確認と、必要に応じて新規の登録をお願いします。

## 世界の自然史標本コレクション統合ポータル GRSciColl (旧 GRBio) への登録について

GRSciColl (Global Registry of Scientific Collections) <https://www.gbif.org/ja/grscicoll>

は、世界の自然史関係機関の自然史コレクションについての情報集積センターです。

- ▶ コレクションの機関コード、コレクションコード、担当者などの情報が検索できます (現在、GRBio からの移管が完了していないため、情報は限られるようです)。
- ▶ 既存の3つの登録機関: Index herbariorum (IH), Biodiversity Collections Index (BCI), Consortium for the Barcode of Life (CBOL) が共同で出資しています。
- ▶ 2020年6月現在、世界の自然史関連の8,046機関が登録しています。

<https://www.gbif.org/ja/grscicoll/institution/search>

S-Net/GBIF で使っていたらいる機関コード (旧: 機関略号) は、自動では GRSciColl には登録されません。機関コードに重なりが無いうちに (他機関に登録されないうちに) 登録していただくことをお勧めします (GRSciColl は Index Herbariorum の機関コードを取り込んでいるため、Index Herbariorum と同じ機関コードをお使いの機関は、すでに GRSciColl に登録されている場合があります)。

◎ 自館の機関コードが登録されているかどうかを確認する方法 (別紙)

<https://www.gbif.org/ja/grscicoll/institution/search> のページで、自館の機関コードを入力して、ヒットするかどうかを見る。

◎ 自館の機関コードを登録する方法

2020年6月現在、GRSciColl (<https://www.gbif.org/ja/grscicoll>) のデータは表示のみとなり、登録の際には GBIF のヘルプデスク [helpdesk@gbif.org](mailto:helpdesk@gbif.org) へメールにて依頼することとなっております。GRSciColl での機関コードのご登録をご希望の機関は、【様式9】GRSciColl 機関登録依頼票に記入して登録内容をご検討いただき、下記連絡先までご相談ください。

ご連絡先:

国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当

[s-net\\_info\(at\)kahaku.go.jp](mailto:s-net_info(at)kahaku.go.jp)

TEL: 029-853-8277 / 8278

神保・水沼・江守・高田

※(at)こちらを@に変更してください

## 機関コードの登録の有無を確認する方法

https://www.gbif.org/ja/grscicoll/institution/search



機関

機関は科学のコレクションを所有し管理するあらゆる機関や組織、バイオバンクなどが含まれます。機関は複数のコレクションの欄に個別の名称を記入し、大元の機関へのリンクを付けてください。

古いデータセットを統合するため、また機関コードの重複を避けるために、すべてのIndex Herbariorumの植物標本コードに<IH>を付け加える必要があります。

機関コードを入れる(例:TNS)

TNS

8,047 結果

コード	名前	City/Town	State/Province	国	ステータス
SCMN	Shiojiri City Museum of Natural History				無活動



機関

機関は科学のコレクションを所有し管理するあらゆる機関や組織のことを指します。植物標本、博物館、動物園、植物園、バイオバンクなどが含まれます。機関は複数のコレクションを持つことがあるため、その際は機関/プロジェクトのコレクションの欄に個別の名称を記入し、大元の機関へのリンクを付けてください。

古いデータセットを統合するため、また機関コードの重複を避けるために、すべてのIndex Herbariorumの植物標本コードに<IH>を付け加える必要があります。

「TNS」を含んだ機関が表示される。

TNS

6 結果

コード	名前	City/Town	State/Province	国	ステータス
TNSC	Thierry Neef de Sairval			ベルギー	活動中
TNSC	Traitide Nature and Science Center			アメリカ合衆国	活動中
TUAT	Tokyo University of Agriculture	Setagaya-ku	Tokyo	日本	無活動
Ti	University of Tokyo	Tokyo	Tokyo	日本	活動中
TKB	University of Tsukuba	Tsukuba	Ibaraki	日本	無活動
TNS	National Museum of Nature and Science	Tsukuba		日本	活動中

## S-Net/GBIF データ利活用例（平成29年度、17事例）

整理番号	報告者氏名	報告者所属	目的
H29-01	仲川 邦広	南相馬市博物館	①対象種の大ざっぱな国内・県内分布傾向を調べるために検索。 ②対象種が県内に分布しているか確認する。
H29-02	町田 善康	美幌博物館	美幌町の鳥類相リストを作成するために利用。
H29-03	藤井 俊夫	兵庫県立人と自然の博物館	大阪府におけるハイノキの実在調査
H29-04	野上 達也	石川県生活環境部自然環境課（石川県白山自然保護センター）	日本におけるオキナグサの分布図を作成するため。
H29-05	堀内 弦	一般財団法人弘前市みどりの協会	稀少・絶滅危惧植物種の調査・保護活動事業に関し ・フサタヌキモ及びタヌキモ類、ガシャモク等を中心にした水草類 ・アオハリガネワラビ（シロジクハリガネワラビ）等について標本の所在、状況を確認
H29-06	中島 千晴	三重大学大学院生物資源学研究科	日本産Peronosporaceae（ストラミニピラ界）の標本の収蔵状況とその貸し出しの依頼先を知るため。
H29-07	中島 千晴	三重大学大学院生物資源学研究科	日本産および台湾産Cercospora 属とその関連属菌（菌界）の標本の収蔵状況とその貸し出しの依頼先を知るため。
H29-08	石田 祐子	長野県環境保全研究所	長野県の希少種に関する標本調査の事前調査として、調査候補の標本庫の収蔵標本の確認を行う。
H29-09	石田 祐子	長野県環境保全研究所	長野県、および隣接県の外来植物数種の標本情報の有無を確認し、近隣県も含めた外来植物の分布図を作る
H29-10	土屋 慶丞	鉦路市立博物館	鉦路市立博物館企画展「知られざる鉦路湿原」（2016）開催にあたり、ミズグモ類の分布記録を調べた。
H29-11	土屋 慶丞	鉦路市立博物館	鉦路地方でみられる昆虫を紹介する一般向けの冊子を作成する。
H29-12	加藤 ゆき恵	鉦路市立博物館	企画展「スゲの世界～初夏のスゲまつり」開催に際し、カヤツリグサ科植物標本の所蔵状況を調査した。
H29-13	加藤 ゆき恵	鉦路市立博物館	論文執筆のための「ムセンスゲ」「ウキヤガラ」「イワキアブラガヤ」の分布状況、標本収蔵状況の調査。
H29-14	伊藤 彩乃	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	春の企画展、「変形菌展」で使用するマルヒメキノコムシの標本を借用するため。
H29-15	藤井 俊夫	兵庫県立人と自然の博物館	日本におけるチャボイの分布および現状調査に先立ち、標本調査を行う際の収蔵施設を検索。
H29-16	藤井 俊夫	兵庫県立人と自然の博物館	日本のアメリカオニアザミの分布概要、および標本の収蔵施設を検索。
H29-17	中江 雅典	国立科学博物館動物研究部	S-Net データをもとに沖縄本島に出現する魚類の仮リストを作成し、既存の奄美大島産の魚類リストと比較した。

※詳細な内容はS-Netサイトの下記URLにある事例集の冊子をご覧ください。  
[http://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/SNet\\_GBIF\\_cases\\_H29.pdf](http://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/SNet_GBIF_cases_H29.pdf)

## S-Net/GBIF データ利活用例（平成30年度、6事例）

整理番号	報告者氏名	報告者所属	目的
H30-01	海老原 淳	国立科学博物館	「琉球の植物データベース」のための、島単位の植物標本探索。
H30-02	大熊 千晶	公益財団法人 日本野鳥の会 豊田市自然観察の森	昆虫（ヘビトンボ目ヘビトンボ科）分布調査のためのデータ探索
H30-03	説田 健一	岐阜県博物館	特別展「理科室からふるさとの自然を見つめて～知れば知るほど面白い標本の世界～」で展示するヨーロッパビズイ、チャバラアカゲラ、タカサゴクロサギ、キガシラシトド、ズグロチャキンチョウの国内の標本記録を調査した。
H30-04	大槻 達郎	滋賀県立琵琶湖博物館	来館者が生物分布情報を知るための手引きに利用。
H30-05	井上 雅仁	島根県立三瓶自然館	環境省レッドリスト改訂のための維管束植物の現地調査に先立ち、島根県内のRDB種の標本情報を集約する。
H30-06	太田 道人	富山市科学博物館	Ophioglossaceaeを研究しているスイスの研究者からGBIFに掲載されている当館のエゾフユノハナワラビ（TOYA 93561）の葉片をDNA調査のために欲しいとのリクエストがあり、対応した。

※詳細な内容はS-Netサイトの下記URLにある事例集の冊子をご覧ください。  
[http://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/SNet\\_GBIF\\_cases\\_H30.pdf](http://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/SNet_GBIF_cases_H30.pdf)



# 地理院地図で標本データの分布図を作成

S-Netから日本で採集された標本データをダウンロードし、国土地理院の地理院地図を使って分布図を作成します。以下では「タヌキ」標本の分布図を例に説明します。

## 1. 日本の緯度・経度が指定されている標本情報をダウンロード



- 緯度 (十進数表記) ←必須
  - 経度 (十進数表記) ←必須
  - 和名
  - 機関名 (日本語)
  - コレクションコード
  - カタログ番号
- などをチェック

① [詳しく検索]を選択して、[和名]に「タヌキ」を「完全一致」で指定し、[緯度]と[経度]に日本の範囲\*を指定して検索します。

\*日本の緯度と経度の範囲はおおよそ北緯20～46度、東経123～154度です。

② 検索されたタヌキの標本の一覧が表示されます。上部の[ダウンロード]を選択します。

③ [ファイル形式]に「CSV形式」を、[文字コード]には「S-JIS」を選択し、[項目名]は[全て]をオフにして緯度と経度 (必須) と和名や機関名など\*\*をチェックした後、[実行]してダウンロードされた.csvファイルを保存\*\*\*します。

\*\*チェックした項目は地理院地図上で各ポイントの属性として表示して確認できます。

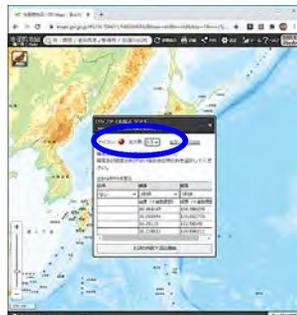
\*\*\*ファイル名には和名を入れ「タヌキ\_specimen\_20191108031457.csv」とするとわかりやすくなります。

## 2. ダウンロードした標本情報を国土地理院の地理院地図に投入

【地理院地図】 <http://maps.gsi.go.jp>



① 1.で保存した.csvファイルをドラッグします。



② [拡大率]から「0.5」を選択し、[読み込み開始]を行います。



③ 地図上にタヌキの採集地点が●で表示されます。



④ [設定]の[中心十字線]をOFFにします。

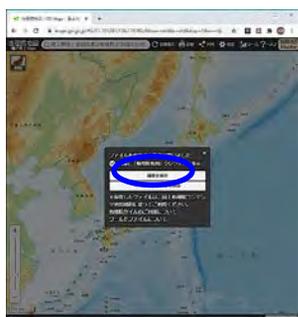
## 3. 画像を保存して標本の分布図が完成



① [共有]の[画像として保存]を選びます。



② [範囲を固定]を選択し、●が見える範囲を赤い枠を広げて囲み「OK」とします。



③ 画像が生成されたら、[画像を保存]\*します。  
\*ファイル名には和名を入れておくとわかりやすくなります。



④ 保存した.pngファイルを「ペイント」ツールなどで開いて確認し、タイトルを追加して完成です。

※ [印刷]を選んで直接印刷したり、pdfファイルに保存したりすることもできます。

※ 分布図を白地図上に表したい場合には左上の[地図]から「白地図」を選択します。また、「English」を選択すると英語の分布図も作成できます。

.pngファイルの画像は「ワード」や「パワーポイント」に挿入してご利用いただけます。

## ■ 自館の標本情報だけの分布図を作成したい場合

前ページの1. - ①で[全ての機関]のリストボックスからご自分の機関名を選択して検索を行うか、1. - ②で左の[機関名（日本語）]からご自分の機関名を選択して検索結果を絞り込みます。1. - ③以降は同じ手順です。



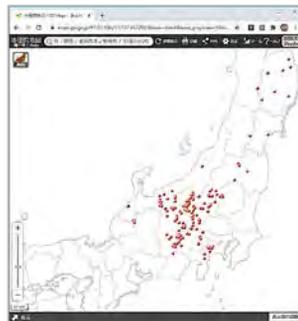
例：川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）のタヌキ標本の分布図  
地理院地図では左上の[地図]から「淡色地図」を選択。

## ■ 複数の種の分布図を作成したい場合

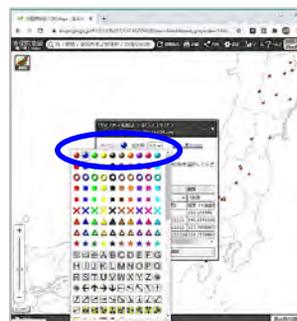
前ページの1. の手順で表示したい種それぞれをダウンロードを行い、2. の手順で csv ファイルを一つずつ地理院地図に投入し、種ごとにアイコンの色を変えます。



① 1つ目の種の.csvファイルをドラッグし、[拡大率]から「0.5」を選択して、[読込開始]を行います。



② 1つ目の種の採集地点が●で表示されます。

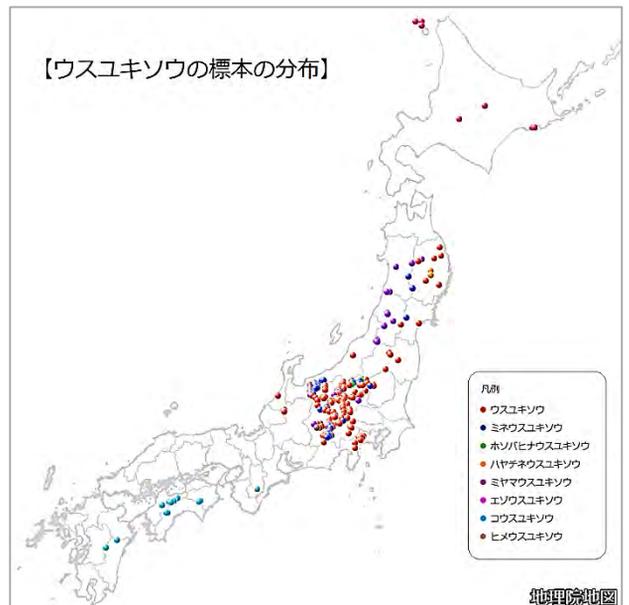


③ 2つ目の種の.csvファイルをドラッグし、[アイコン]の●を●に変え、[読込開始]します。



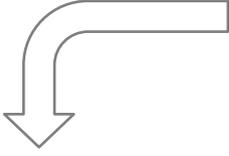
④ 1つ目の種の●の上に2つ目の種の採集地点が●で表示されます。

⑤ 3つ目の種以降も同様に色を変えて行います。



例：複数種のウスユキソウ標本の分布図  
地理院地図では左上の[地図]から「白地図」を選択。

## S-Net/GBIF データ提供に関する事務手続きについて

	国立科学博物館	協力機関	提出物
1	データ変換のための予算(NBRPの外部資金による)が確保できましたら、S-Net/GBIF 関係者宛のメーリングリストを通じ、今年度のデータ提供についてのアンケートフォームをご連絡します。【4月】	データ提供が可能な機関の窓口担当の方は、フォームから提供可能件数と関連する情報をご回答ください。【回答期限：5月10日】 ※データ提供数は、当年度の予算額に応じて調整させていただきます。ご希望の件数に添えない場合がございますことを、ご了承ください。	【Web フォーム】データご提供可能件数アンケート
2	アンケートに回答いただいた提供可能件数を調整後、各機関へ今年度のご提供依頼件数を連絡します。 ※見積依頼書およびその他依頼書が必要と回答された機関へは追って依頼書を郵送します。	データ提供の同意書(新規にご参加いただく機関のみ)と見積書をご郵送ください。 【提出期限：8月末】 ※見積書は【様式2】の課税、非課税の例に従ってご記入ください。	【様式1】データ提供同意書(新規機関のみ) 【様式2】見積書(必須)
3	見積書を受領後、契約書が必要な機関へは見積りに基づく科博と機関間の契約書の文案をお送りします。文案が確定しましたら、契約書を作成して郵送します。	契約書の文案をご確認いただき、変更の有無をご連絡ください。また、郵送された契約書の原本に押印して一部をご返送ください。 ※契約書は総額100万円以上の場合は必須です。100万円未満の場合でも必要があれば締結可能です。	【科博より送付】契約書(100万円以上の機関もしくは必要な機関のみ)
4	 送付されたご提供データについて形式や掲載済みデータとの重複有無を調べ(受付チェック)、確認や修正が必要な場合はご連絡します。	S-Netの登録データ形式に変換したデータをデータチェックリストとともにメール添付かファイル転送システム等でご送付ください。 【送付期限：第1次:8月末, 第2次:10月末】 ※新しい分類群のデータセット(コレクション)をご提供いただく場合は、メタデータ登録票とデータ利用権回答書を併せてご送付ください(詳細は、【参考資料A-1】と【参考資料A-2】を参照)。 ※新規参加機関でGRSciColl(旧GRBio)に登録が必要な場合はGRSciColl 機関登録依頼票もご送付ください(詳細は、【参考資料A-3】を参照)。 ※受付チェックで問題があった場合は、登録データを修正し、再提出をお願いします。	【ファイル】提供データ(詳細は次頁を参照) 【様式5】データチェックリスト 【様式7】メタデータ登録票 【様式8】データ利用権回答書 【様式9】GRSciColl 機関登録依頼票
5	ご提供データに問題がなければ「データ受領のご連絡」のメールをお送りし確定した件数をお知らせします。	受領連絡日以降の日付で確定した件数の完了通知書と請求書を作成し、請求書類チェックリストでチェックの上、原本をご郵送ください。また、確定件数が見積書の件数と異なる場合は見積書も再発行ください。	【様式3】完了通知書 【様式4】請求書 【様式6】請求書類チェックリスト
6	不備のない請求書類が到着しましたら、約1か月後にご指定の口座に請求金額を振り込みます。	※納入通知書による振り込みは会計処理が難しくなりましたので、今年度よりご遠慮くださいますようお願いいたします。	

※S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページにデータ提供に関する手順やツール類をまとめています。データ変換ツールおよびマニュアルはこのページの最新版をご利用ください。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)



## 【書類送付先】

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1  
国立科学博物館 標本資料センター  
神保 宇嗣

※その他ご不明な点は随時お問い合わせください。

国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当: 神保・水沼・江守・高田  
E-MAIL: s-net\_info(at)kahaku.go.jp ※(at)は@へ変更  
TEL: 029-853-8277 / 8278 FAX: 029-853-8401

# 自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータの提供方法について

## 1. データ提供の概要

独立行政法人国立科学博物館（以下「当館」という。）では、「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」の事業を実施するため、文部科学省から令和3年度研究開発施設共用等促進費補助金（ナショナルバイオリソースプロジェクト）の交付を受けています。この事業の一環として、当館は、地球規模生物多様性情報機構（GBIF）における日本のノード（活動拠点）の1機関として、博物館等の各参加機関が有する標本資料の所在情報などの電子データを国際標準フォーマットに変換し、GBIFの枠組みにおいて集成・公開しています。また、収集した情報を活用し、国内のデータベース（サイエンスミュージアムネット：S-Net）の構築や拡充にも貢献しています。

本件は、参加機関が有する標本資料に関わるデータ（以下、データ）の提供を目的とするものです。その業務仕様を以下のように定めます。

## 2. 業務の履行期限

令和4年3月末日までを最終期限とします。データ提出の期限は別に定めます。

## 3. 仕様

### (1) 仕様

- Excelブック（.xlsx）またはカンマ区切りテキストファイル（.csv）の入力ファイルを用意し、当館より提供するデータ変換ツールを利用して作成したS-Net用のフォーマット（S-Net形式）を用いて、登録データを整備すること。
- 標本に関するデータを、S-Netで定めた項目を利用して入力すること。項目とその詳細についてはデータ変換ツールのマニュアルを参照のこと。
- データに用いる数字については、原則として半角英数で入力すること。
- データの1行目には、フィールド名（データ項目）を入力すること。
- 各データには、提供元となる機関名を定められた形で記入した上で、標本番号（重複しないこと）、データ種別（保存標本・化石標本）、種の学名（未同定でもかまわない）、界名（学名と日本語名）を必ず入力すること。
- 館内のデータベースなど、ウェブページへのリンクとして定められた項目も、可能な範囲で情報を入力すること。
- 可能な範囲で、住所の入力名は詳細に記入し、緯度経度（世界測地系；十進数表記）ないし3次地域メッシュコードも入力すること（ただし以下の場合を除く）。
- 希少な種を保存する観点から、環境省および各都道府県のレッドリスト掲載種に該当する種の場合には、基本的に市区町村より詳細な地名情報および位置情報を削除してから提出すること。
- 個人情報保護の観点から、S-Netにおいては採集者情報を公開していないため、提出データからは削除すること。
- 日付は、西暦4桁、月2桁、日2桁の順に8桁の半角数字で入力すること（例：19851025）。年・月・日が不明の場合は、半角アスタリスクを使って以下のように入力する（日が不明な場合の例：198510\*\*, 月が不明な場合の例：1985\*\*\*\*, すべて不明な場合：\*\*\*\*\*）。期間による入力も可能とする。

### (2) 受領時前提条件

- 参加機関より提供されるデータの件数および提供時期は、年度初めの提供計画に従って当館より通知される。
- 特別に合意がある場合を除き、データ変換ツールを通した後のExcelブック（.xlsx）（「〇〇\_登録データ.xlsx」）を提出用データとする。
- 本データが仕様を満たさない場合には、保証期間内（納品から1年間）において、すみやかに修正すること。

## 4. 成果品

- 自然史標本情報データファイル（Excelブック）一式
  - データ提供同意書（新規参加機関のみ）
  - メタデータ登録票およびデータ利用権回答書（新規データセットのみ）
- をメール添付や郵送などにより送付。

## 5. その他

- 提供したデータベースの使用権に関しては当館および参加機関が有するものとし、提供したデータの著作権については参加機関が有します。
- データの利用ライセンスは、参加機関からの希望により定めるものとします。
- その他詳細については、当館担当職員と協議の上で決定します。

以上

## データ提供についての同意書

国立科学博物館の S-Net（サイエンスミュージアムネット）事業からの、S-Net および関連する GBIF（地球規模生物多様性情報機構）事業・OBIS（海洋生物地理情報システム）事業・ジャパンサーチ事業に対するデータ提供依頼に基づき、当館より提供したデータが S-Net・GBIF・J-OBIS (OBIS)・ジャパンサーチ等で公開され、それぞれの利用規定に従って利用される旨について同意いたします。

機関名：

データ提供責任者：

令和3年 月 日

(署名)

印

実務担当者

- 氏名：
- E-mail：
- Tel.：
- Fax：

## 【様式5】

## 標本情報データ提出前チェックリスト

○ S-Netサイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページにデータ提供に関する手順やツール類をまとめています。「データ変換ツール」および「マニュアル」はこのページの最新版をご利用ください。  
[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##dataconv)

※2021年6月中旬リリース予定のデータ変換ツールでは各項目のチェック機能が強化されます。

○ 登録用ファイルの各項目のデータ型や入力データの例はデータ変換ツールの[項目マッピング]シート、または、データ変換ツールのマニュアルの「4.1 S-Net形式のデータ項目について」をご参照ください。

チェックポイント	[ ]はxlsxファイル1行目の項目名	チェック
1	提出用データはデータ変換ツール(データ変換ツール.xlsx)でマッピングを行って作成し、ファイル名は「〇〇_登録データ.xlsx」とされていますか？ 「〇〇」には[機関名]と[コレクション名]または[機関コード]と[コレクションコード]を含めるようにお願いします。 【例】科博_菌類コレクション_登録データ.xlsx、NSMT-A_登録データ.xlsx	<input type="checkbox"/>
2	マッピング後に提出用データを修正した場合にもう一度データ変換ツールで検証を行っていますか。 データ修正により別のエラーが発生していることがあります。データ変換ツールで登録データファイルを指定して、「検証」を行うとエラーがないかどうか確認できます	<input type="checkbox"/>
3	標本情報データに法律等で所有や保管が規制されている種が含まれていませんか？	<input type="checkbox"/>
4	登録データ.xlsxファイルに入力されている標本情報データの行数は見積書に記載されているデータ提供件数と一致していますか？	<input type="checkbox"/>
5	[機関名]、[機関名(日本語)]、[機関コード]、[コレクションコード]には、メタデータ登録票で提出されている名前やコードが正しく入力されていますか？ 登録されているメタデータの情報はS-Netサイトの「機関・データセット一覧」( <a href="http://science-net.kahaku.go.jp/app/k">http://science-net.kahaku.go.jp/app/k</a> )で確認できます。	<input type="checkbox"/>
6	[カタログ番号](旧:[標本番号])の形式は統一されていますか？以前に同じデータセットの標本情報を提出している場合、カタログ番号の形式は以前と同じですか？ たとえば、前年度はアルファベット付きのカタログ番号「VS00001」～「VS10025」のデータで、今年度は数字だけのカタログ番号「10026」～「15000」のデータといったケースが見られます。	<input type="checkbox"/>
7	S-Netに掲載中のデータとカタログ番号に重複はありませんか？ 以前に同じデータセットの標本情報を提供している場合は、以前のカatalog番号と重複しないようにご注意ください。掲載中のデータはS-Netサイトの「機関・データセット一覧」( <a href="http://science-net.kahaku.go.jp/app/k">http://science-net.kahaku.go.jp/app/k</a> )でデータセットを選択し、「データを見る」で表示できます。	<input type="checkbox"/>
8	特殊文字が「?」や「_」になっていたり、ハイフン付きの数字が日付に変換されたりしていませんか？ ・特殊文字が「?」などに置き換えられていることがあります。 【例】[学名の著者]の「Hultén」が「Hult?n」になっている。 →通常の英字で「Hulten」と入力することをお勧めしています。 ・[カタログ番号]などのハイフン付きの数字が日付型に変換されていることがあります。 【例】[カタログ番号]の「2017-10」が「0ct 2017」になっている。 →列の分類が「標準」のとき、エクセルで自動変換が行われるので、列の分類を「文字列」に変更して再入力します。	<input type="checkbox"/>

チェックポイント	[ ]はxlsxファイル1行目の項目名	チェック
9	<p>[和名] に標準和名が入っていますか？</p> <p>レッドデータチェックのため、不明でない場合は入力してください。 [和名] には標準和名をひとつだけ示し、標準和名以外の情報は各備考欄に入力してください。</p> <p>【正しい例】「ベニテングタケ」「コムラサキ」「ニホンイイズナ」「コレラタケ」 【誤りの例】「ベニテングタケ（ベニテングダケ、紅天狗茸）」「コムラサキ 黒色型」 「ニホンイイズナ（本州亜種）」「コレラタケ＝ドクアジログサ」 →【正しい例】 [和名] に「ベニテングタケ」、[分類群に関する備考（日本語）] に「ベニテングタケ（ベニテングダケ、紅天狗茸）」と入力します。 【誤りの例】「ヒメネズミ（頭蓋骨）」 →【正しい例】 [和名] に「ヒメネズミ」、[オカレンス備考（日本語）] に「ヒメネズミ（頭蓋骨）」と入力します。</p> <p>雑種式は、全角の” × ”（掛け算記号）をお使いください。 【正しい例】「ミヤマチョウジザクラ×タカネザクラ」</p>	□
10	<p>「綱（こう）」を「網”（あみ）」と入力、「リ（カタカナ）」を「り（ひらがな）」と入力など、OCR変換などが原因と思われる誤入力はありますか？</p> <p>[綱名（日本語名）]や[和名]などにしばしば見られます。 【誤りの例】「昆虫網」（”網”が”綱”）、「ムカゴニンジン」（”ニ”が漢字） →ゴシック体ではわかりにくいですが、フォントを明朝体などに変えるとわかる場合があります。</p>	□
11	<p>「属名＋種小名」まで同定できていない場合、[学名]には同定できた一番下の階級の値が入力されていますか？また、[分類群ランク]にその階級が記載されていますか？</p> <p>たとえば、[科名]まで同定できた場合は、[学名]には「Brachytheciaceae sp.」（アオギヌゴケ科の一種）などを入力します。また、同定できない昆虫や菌類などの場合は、[学名]を「Insecta」や「Fungi」、[分類群ランク]を「class」や「family」とします。</p> <p>クエスチョンマーク(?)やアスタリスク(*)はデータを検索する際に問題が起きることがあるので、入力しないでください。「affinis」などの情報は[同定に関する補足情報]、[同定に関する補足情報（日本語）]に入力できます。</p>	□

次ページ以降の項目は2021年6月中旬リリース予定のデータ変換ツールをお使いの場合はチェック不要です。  
古いバージョンのデータ変換ツールを使ったり、MacやLinuxなどで独自にデータ整形を行っている方は以下のチェックもお願いします。

※エクセルのブック形式 (.xlsx) ではなく、カンマ区切りCSVファイル(.csv)やエクセルの旧97-2003ブック形式 (.xls) での提出をご希望の場合はご相談ください。

※その他ご不明な点は随時お問い合わせください。

国立科学博物館S-Net/GBIF 担当：神保・水沼・高田・江守  
E-MAIL:s-net\_info@kahaku.go.jp  
T E L :029-853-8277 / 8278 F A X :029-853-8401

	チェックポイント	[ ]はxlsxファイル1行目の項目名	チェック
A1	xlsxファイルの1行目には、S-Netのデータ項目名が正しく入力されていますか？ また、項目（列）の数は173個（エクセルで表示した場合はA～FQ列まで）ありますか？		<input type="checkbox"/>
A2	[GBIF公開フラグ]には「1(GBIFで公開する)」、[地名公開レベル]には「0」が入力されていますか？  [地名公開レベル]には「0」以外入力することができません。 GBIFで公開できないデータは提出いただけません。基本的には公開するデータのみご提供ください。[郡・市区町村]～[経度（十進数表記）]の公開を制限したい場合はデータを削除するか、[郡・市区町村（非公開）]～[経度（十進数表記）（非公開）]に移してください。		<input type="checkbox"/>
A3	次の項目には決められた文字列が入力されていますか？ [レコード種別]、[タイプ標本種別]、[界名（学名）]、[界名（日本語）]  【例】保存標本の場合は[レコード種別]は「PreservedSpecimen」、化石標本の場合は[レコード種別]は「FossilSpecimen」です。 【例】昆虫のデータセットの場合には、[界名]は「Animalia」、[界名（日本語）]は「動物界」です。		<input type="checkbox"/>
A4	データ型が「文字列（半角英数字）」の項目に全角文字や半角カタカナが含まれていませんか？  [和名]を除き、項目の名前が「～（日本語）」でない項目は日本語は入力できません。 【例】[性別]には「male」、「female」などと入力します。 【例】[生活型・世代型]には「nymph」、「summer-form adult」などと入力します。 【誤りの例】[性別]に「♂」など全角の記号は入力できません。 →【正しい例】[性別]に「male」と入力し、[性別（日本語）]に「♂」と入力とします。		<input type="checkbox"/>
A5	データ型が「文字列（日本語可）」の項目の日本語の文字は全角で入力されており、半角カタカナが含まれていませんか？  項目の名前が「～（日本語）」の項目は日本語の全角文字が入力できますが、半角カナ文字は入力できません。		<input type="checkbox"/>
A6	[国（日本語）]、[都道府県（日本語）]が入力されていますか？  レッドデータチェックのため、不明でない場合は入力してください。  都道府県が複数である場合「山梨県／静岡県」のように入力してください。		<input type="checkbox"/>
A7	[記録年月日（始め）]と[記録年月日（終わり）]には正しい年月日が西暦、月、日の順に入力され、不明の個所以降には半角アスタリスク(*)が入力されていますか？  【例】（年、月、日がすべて明らかな場合）「19851024」 【例】（日が不明な場合には日の2桁を*に）「198510**」 【例】（月が不明な場合には月・日の4桁を*に）「1985****」 【例】（年が不明な場合には年・月・日の8桁を*に）「*****」 【誤りの例】（未来）「21070614」、（存在しない）「20150431」、（古すぎる）「17580131」 【誤りの例】（途中にアスタリスク）「2010**24」、「****0923」 →【正しい例】「2010****」、「*****」  もともとの標本ラベルの日付が誤って記載されている場合は、記録年月日には正しい部分の情報を入力し、オリジナルの日付の情報は[記録年月日オリジナル表記]や[記録年月日に関する備考]、[記録年月日に関する備考（日本語）]などに記載するようにしてください。採集期間が1日だけの場合、[記録年月日（始め）]に入力。 【例】ラベルが「20150431」の場合、[記録年月日（始め）]は「201504**」などを入力し、 [記録年月日オリジナル表記]に「20150431」と入力		<input type="checkbox"/>

チェックポイント	[ ]はxlsxファイル1行目の項目名	チェック
A8	<p>範囲を取る値が逆になっていませんか？</p> <p>[記録年月日（始め）]と[記録年月日（終わり）]  →[記録年月日（始め）] ≤ [記録年月日（終わり）]としてください。  [最低海拔]と[最高海拔]  → [最低海拔] ≤ [最高海拔]としてください。  [最浅水深]と[最深水深]  → [最浅水深] ≤ [最深水深]としてください。</p> <p>値が範囲でない場合は、先頭末尾両方の項目、または先頭項目のほうに値を入れてください。</p>	<input type="checkbox"/>
A9	<p>[最浅水深]と[最深水深]が「-50」など負の値になっていませんか？</p> <p>「50」のように符号なしで数値のみ入力してください。</p>	<input type="checkbox"/>
A10	<p>[緯度（十進数表記）]と[経度（十進数表記）]が逆になっていませんか？</p> <p>逆の列を指定しているケースがしばしば見られますのでご注意ください。  度分秒表示は以下の式で十進法に変換できます。  A度B分C秒 = A+B/60+C/3600  （小数点以下6桁程度の表示でよい）。</p>	<input type="checkbox"/>
A11	<p>[緯度（十進数表記）]、[経度（十進数表記）]、[メッシュコード]が不明な場合、「0」を入力していませんか？</p> <p>地図表示で意図せぬ場所がマークされてしまいます。不明な場合は値を入れしないでください。</p>	<input type="checkbox"/>
A12	<p>[メッシュコード]に「-」が含まれていませんか？</p> <p>メッシュコードは「-」（ハイフン）を除いて入力してください。  【正しい例】「544020」「54402078」  【誤りの例】「5440-20」</p>	<input type="checkbox"/>

## 請求書類提出前チェックリスト

	チェックポイント	チェック
1	日付は平日ですか？ (土日祝日は手続きの都合で不可のため)	<input type="checkbox"/>
2	完了通知書と請求書の日付は、受領連絡日以降の日付になっていますか？	<input type="checkbox"/>
3	住所欄に住所が記載されていますか？	<input type="checkbox"/>
4	氏名欄に機関名・役職名・氏名が記載されていますか？	<input type="checkbox"/>
5	氏名欄に機関の角印と代表者の印(館長印、委員長印など)が押印されていますか？	<input type="checkbox"/>
6	表内の備考に事業者の課税の区別が記載されていますか？  貴事業所が「①免税事業者」か「②課税対象となる事業者」か、あるいは「③課税対象となる事業者だが本件は非課税となる事業者」かを財務会計担当などにご確認の上、記載をお願いします。 ※この項目の記載漏れで再提出をお願いするケースが多くなっております。記入忘れのないようにお願いします。	<input type="checkbox"/>
7	表内の数量、金額に間違いはありませんか？  ※免税事業者の場合、消費税分は請求できません。 ※課税事業者で本件が課税対象の場合、件名に「消費税」を追加し、総額の消費税を記載してください。消費税込みでの単価表示とされたい場合は、単価欄に税込みの金額を記入してください。	<input type="checkbox"/>
8	左中央の合計金額欄に金額が記載されていますか？	<input type="checkbox"/>
9	振込先、口座名、口座番号(口座種別含)が記載されていますか？	<input type="checkbox"/>
10	納入通知書によるお振込みは、ご遠慮いただけますようお願いいたします。	<input type="checkbox"/>

【様式7】

## メタデータ登録票

入力年月日： 年 月 日

## 機関情報

	項目	入力欄
1	機関名(和)	
2	機関名英文名(英)	
3	機関コード(機関略号)	
4	機関の日本語サイトURL	
5	機関の英語サイトURL	

## データセット情報

	項目	入力欄
6	コレクション名	
7	コレクションコード	
8	データセットのタイトル(英)	
9	内容(和)	
10	内容(英)	
11	データセットの日本語サイトURL	
12	データセットの英語サイトURL	
13	キーワード(和)	
14	キーワード(英)	
15	ライセンス	別途「【様式8】データ利用権回答書」でご提出ください。
16	担当者名(和)	
17	担当者名(名:英)	
18	担当者名(姓:英)	
19	担当者肩書き	
20	担当者肩書き(英)	
21	担当者メールアドレス	
22	技術担当者名(和)	
23	技術担当者名(名:英)	
24	技術担当者名(姓:英)	
25	技術担当者肩書き	
26	技術担当者肩書き(英)	
27	技術担当者メールアドレス	

## 科博担当使用欄

28	データセット略号	
29	データセット管理番号	
30	データセットUUID	

	入力例	説明
1	国立科学博物館(動物)	機関名を日本語で記入。
2	National Museum of Nature and Science	機関名を英語で記入。
3	NSMT	機関略号を入力。
4	http://www.kahaku.go.jp/	機関の日本語サイトURLを記入。
5	http://www.kahaku.go.jp/english/	機関の英語サイトURLを記入。

	入力例	説明
6	鱗翅目コレクション	コレクション名を記入。
7	I-L	コレクションコード(=標本コード)を記入。
8	Lepidoptera collection of National Museum of Nature and Science	機関名とコレクション名を含めて英語で記入。
9	国立科学博物館動物研究部が所蔵する鱗翅目標本	コレクションの概要(機関名・コレクション名、プロジェクト名など)を日本語で記入。
10	Lepidoptera specimens deposited at the Department of Zoology, National Museum of Nature and Science	コレクションの概要(機関名・コレクション名、プロジェクト名など)を英語で記入。
11	http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/	機関サイト以外に本データセット公表をメインとした日本語サイトがあればURLを記入。
12	http://db.kahaku.go.jp/webmuseum_en/	機関サイト以外に本データセット公表をメインとした英語サイトがあればURLを記入。
13	鱗翅目, 分類学, 多様性, 分布	キーワードを日本語で記入。それぞれのキーワードは、半角カンマとスペース" "で区切る。
14	Lepidoptera, taxonomy, diversity, distribution	キーワードを英語で記入。それぞれのキーワードは、半角カンマとスペース" "で区切る。
15	CCBY	別途「【様式8】データ利用権回答書」でご提出ください(<CC0><CCBY><CCBY-NC>のいずれか)
16	神保 宇嗣	本データセットの担当者名を日本語で記入。
17	Utsugi	本データセットの担当者名(名)を英語で記入。
18	Jinbo	本データセットの担当者名(姓)を英語で記入。
19	研究主幹	本データセットの担当者肩書きを日本語で記入。
20	Senior Curator	本データセットの担当者肩書きを英語で記入。
21	ujinbo@kahaku.go.jp	本データセットの担当者メールアドレスを記入。
22	神保 宇嗣	本データセットの技術者(入力専門者)名を日本語で記入。
23	Utsugi	本データセットの技術者(入力専門者)名(名)を英語で記入。
24	Jinbo	本データセットの技術者(入力専門者)名(姓)を英語で記入。
25	研究主幹	本データセットの技術者(入力専門者)肩書きを日本語で記入。
26	Senior Curator	本データセットの技術者(入力専門者)肩書きを英語で記入。
27	ujinbo@kahaku.go.jp	本データセットの技術者(入力専門者)メールアドレスを記入。

令和3年 月 日

国立科学博物館・標本資料センター  
神保 宇嗣

機関名：

## データ利用権について（回答書）

提供したデータセットについて以下のとおり回答いたします。

### コレクション

コレクション名： \_\_\_\_\_

機関コード（機関略号）： \_\_\_\_\_

CC0\*CC BY\*\*CC BY-NC\*\*\*

※上記に当てはまらない場合は、別紙（書式問わず）に記載

担当者氏名： \_\_\_\_\_

（署名または印鑑；署名の場合PDFで送付可）

\* 無条件で、許諾無しの利用を認める

\*\* 発行者のクレジットを表示することで、営利・非営利目的を問わず許諾無しの利用を認める

\*\*\* 発行者のクレジットを表示することで、非営利目的であれば許諾無しの利用を認める（営利目的であれば許可無く利用を認めない）

## GRSciColl 機関コード登録依頼票

※青字部分を加筆修正してご利用ください。

機関名	〇〇博物館
希望機関コード	ABCD
担当者名	博物 太郎
担当者メールアドレス	taro@abcd.lg.jp
担当者電話番号	012-345-6789
依頼年月日	2021年7月1日

※希望機関コードは下記 URL で確認し、既存の機関のコードと重複するコードは避けるようにしてください。

<https://www.gbif.org/ja/grscicoll/institution/search>

## 1. Institution details 機関の詳細

機関および代表者の情報を英字で記載してください。\*印の項目は必須項目です。赤字の項目はなるべく記載するようにしてください。それ以外の項目は、書ける部分だけお書きください。

<b>Name*</b> 機関名	ABCD City Museum
<b>Description</b> 説明 (英文)	ABCD City Museum is ... ※難しいときはご相談ください。
<b>Code*</b> 機関コード	ABCD
<b>Type</b> タイプ (選択肢①から1つを選択)	MUSEUM
<b>Active</b> 活動状態 (yes/no のいずれか、登録前は no)	no
<b>Homepage</b> ホームページ	<a href="http://www.aaa.lg.jp">http://www.aaa.lg.jp</a>
<b>Catalogue URL</b> 標本情報の URL	
<b>API URL</b> API の URL	
<b>Institutional governance</b> 機関の 運営 (選択肢②から1つを選択)	
<b>Disciplines</b> 分野 (選択肢③から選択して列記)	

<b>Latitude 緯度</b> ※十進法による表記	36.10
<b>Longitude 経度</b> ※十進法による表記	140.11
<b>Additional names 追加の機関名</b> ※別の呼称や旧名などがあれば記載	
<b>Founding date 創設日</b>	西暦 年 月 日 ※日付がわからなければ、年だけでも、年月だけでも結構です。
<b>Geographic description 地理的な説明</b>	
<b>Taxonomic description 分類学的説明</b>	
<b>Number specimens 標本数</b>	
<b>Herbarium record</b>	
<b>Logo URL</b>	
<b>Cites permit number</b>	
<b>Mailing Address 郵送時の宛先</b>	
<b>Address 詳細地名</b>	Sakura 1-2-3
<b>City /Town 市区町村名</b>	Abcd
<b>Province 都道府県名</b>	IBARAKI
<b>Country 国名</b>	JAPAN
<b>Postal code 郵便番号</b>	100-2345
<b>Physical Address 現住所</b> ※Mailing Address と異なる場合は記載してください。	
<b>Address 詳細地名</b>	
<b>City /Town 市区町村名</b>	
<b>Province 都道府県名</b>	
<b>Country 国名</b>	
<b>Postal code 郵便番号</b>	
<b>Person details 担当者情報</b> ※1名以上の担当を記載してください。3名以上の場合は担当2をコピーしてご利用ください。 ※代表者（館長様など）と実務担当者（学芸員の方など）をご記入されることをお勧めします。	
<b>担当1（必須）</b>	
<b>First name* 名</b>	Taro
<b>Last name* 姓</b>	Hakubutsu
<b>Position 役職</b>	Director

<b>Email*</b> メールアドレス	taro@abcd.lg.jp
<b>Area responsibility</b> 担当領域	
<b>Research pursuits</b> 研究対象	
担当 2	
<b>First name*</b> 名	Hanako
<b>Last name*</b> 姓	Shizenshi
<b>Position</b> 役職	Curator
<b>Email*</b> メールアドレス	hanako@abcd.lg.jp
<b>Area responsibility</b> 担当領域	
<b>Research pursuits</b> 研究対象	

## 2. Collection details コレクションの詳細（コレクションを限定したい場合のみ）

この部分はコレクションを限定したい場合のみ、記載してください。通常は不要です。記載する場合、\*印の項目は必須項目です。

<b>Name*</b> コレクション名	
<b>Description</b> 説明	
<b>Content Types</b> (選択肢④から該当するものを選択)	
<b>Code*</b> コレクションコード	
<b>Homepage</b> ホームページ	
<b>Catalogue URL</b> 標本情報の URL	
<b>API URL</b> API の URL	
<b>Institution</b> 機関名	
<b>Preservation type</b> 保存タイプ (選択肢⑤から該当するものを選択)	
<b>Accession status</b> 受入状況	
<b>Active</b> 活動状態 (yes/no のいずれか、登録前は no)	no
<b>Personal collection</b> 個人コレクション (yes/no、登録前は no)	no
<b>Digital Object Identifier (DOI)</b> デジタルオブジェクト識別子	

## 【別紙】項目の選択肢

### 選択肢① : **Type** タイプ (以下から1つを選択)

BIOMEDICAL\_RESEARCH\_INSTITUTE, BOTANICAL\_GARDEN, HERBARIUM,  
LIVING\_ORGANISM\_COLLECTION, MEDICAL\_RESEARCH\_INSTITUTE, MUSEUM,  
MUSEUM\_HERBARIUM\_PRIVATE\_NON\_PROFIT, OTHER\_INSTITUTIONAL\_TYPE,  
OTHER\_TYPE\_RESEARCH\_INSTITUTION\_BIOREPOSITORY, UNIVERSITY\_COLLEGE,  
ZOO\_AQUARIUM

( <http://api.gbif.org/v1/enumeration/basic/InstitutionType> より)

### 選択肢② : **Institutional governance** 機関の運営 (以下から1つを選択)

ACADEMIC\_FEDERAL, ACADEMIC\_FOR\_PROFIT, ACADEMIC\_LOCAL,  
ACADEMIC\_NON\_PROFIT, ACADEMIC\_STATE, FEDERAL, FOR\_PROFIT, LOCAL,  
NON\_PROFIT, OTHER, STATE

( <http://api.gbif.org/v1/enumeration/basic/InstitutionGovernance> より)

### 選択肢③ : **Disciplines** 分野 (以下から選択して列記)

ARCHAEOLOGY, ARCHAEOLOGY\_PREHISTORIC, ARCHAEOLOGY\_HISTORIC,  
ARCHAEOLOGY\_UNDERWATER, ANTHROPOLOGY, ANTHROPOLOGY\_BIOLOGICAL,  
ANTHROPOLOGY\_CULTURAL, ANTHROPOLOGY\_LINGUISTIC, SPACE,  
SPACE\_ASTRONOMY, SPACE\_ASTROPHYSICS, SPACE\_COSMOLOGY,  
SPACE\_PLANETARY\_SCIENCE, ATMOSPHERIC, ATMOSPHERIC\_PHYSICS\_DYNAMICS,  
ATMOSPHERIC\_CLIMATOLOGY, ATMOSPHERIC\_METEOROLOGY, CHEMICAL,  
CHEMICAL\_ANALYTICAL, CHEMICAL\_ASTROCHEMISTRY,  
CHEMICAL\_ATMOSPHERIC\_CHEMISTRY, CHEMICAL\_BIOCHEMISTRY,  
CHEMICAL\_BIOGEOCHEMISTRY, CHEMICAL\_COSMOCHEMISTRY,  
CHEMICAL\_INORGANIC\_CHEMISTRY, CHEMICAL\_NUCLEAR\_CHEMISTRY,  
CHEMICAL\_ORGANIC\_CHEMISTRY, CHEMICAL\_PHYSICAL\_CHEMISTRY, GEOLOGICAL,  
GEOLOGICAL\_ECONOMIC\_GEOLOGY\_MINERAL\_RESOURCES,  
GEOLOGICAL\_ENERGY\_RESOURCE\_GEOLOGY, GEOLOGICAL\_GEOCHEMISTRY,  
GEOLOGICAL\_GEOLOGY, GEOLOGICAL\_GEOPHYSICS\_SEISMOLOGY,  
GEOLOGICAL\_HYDROLOGY\_WATER\_RESOURCES,  
GEOLOGICAL\_MINERALOGY\_PETROLOGY, GEOLOGICAL\_PALEONTOLOGY,  
GEOLOGICAL\_VOLCANOLOGY, OCEAN,  
OCEAN\_MARINE\_BIOLOGY\_AND\_BIOLOGICAL\_OCEANOGRAPHY,  
OCEAN\_MARINE\_GEOLOGY\_AND\_PALEOCEANOGRAPHY,  
OCEAN\_OCEANOGRAPHY\_CHEMICAL\_PHYSICAL, PHYSICS, PHYSICS\_ACOUSTICS,  
PHYSICS\_APPLIED\_PHYSICS, PHYSICS\_ATOMIC\_MOLECULAR\_CHEMICAL\_PHYSICS,

PHYSICS\_BIOPHYSICS, PHYSICS\_MEDICAL\_RADIOLOGICAL,  
PHYSICS\_NUCLEAR\_PHYSICS, PHYSICS\_OPTICS\_PHOTONICS,  
PHYSICS\_PARTICLE\_PHYSICS, AGRICULTURAL, AGRICULTURAL\_ANIMAL\_SCIENCE,  
AGRICULTURAL\_ANIMAL\_SCIENCE\_POULTRY,  
AGRICULTURAL\_AGRICULTURAL\_ANIMAL\_BREEDING,  
AGRICULTURAL\_AGRICULTURAL\_HORTICULTURAL\_PLANT\_BREEDING,  
AGRICULTURAL\_AGRONOMY\_CROP\_SCIENCE,  
AGRICULTURAL\_ENVIRONMENTAL\_SCIENCE,  
AGRICULTURAL\_FISHING\_FISHERIES\_SCIENCE,  
AGRICULTURAL\_FOOD\_SCIENCE\_AND\_TECHNOLOGY,  
AGRICULTURAL\_FOREST\_SCIENCES\_AND\_FORESTRY,  
AGRICULTURAL\_HORTICULTURAL\_SCIENCE, AGRICULTURAL\_NATURAL\_RESOURCES,  
AGRICULTURAL\_PLANT\_SCIENCES, AGRICULTURAL\_SOIL\_CHEMISTRY\_MICROBIOLOGY,  
AGRICULTURAL\_SOIL\_SCIENCES, AGRICULTURAL\_WILDLIFE\_RANGE\_MANAGEMENT,  
AGRICULTURAL\_WOOD\_SCIENCE\_AND\_PULP\_TECHNOLOGY, BIOLOGICAL,  
BIOLOGICAL\_ANATOMY\_AND\_PHYSIOLOGY,  
BIOLOGICAL\_CELLULAR\_BIOLOGY\_AND\_HISTOLOGY,  
BIOLOGICAL\_DEVELOPMENT\_BIOLOGY\_EMBRYOLOGY, BIOLOGICAL\_ECOLOGY,  
BIOLOGICAL\_ENVIRONMENTAL\_TOXICOLOGY, BIOLOGICAL\_EVOLUTIONARY\_BIOLOGY,  
BIOLOGICAL\_GENETICS\_GENOMICS,  
BIOLOGICAL\_MICROBIOLOGY\_BACTERIOLOGY\_VIROLOGY,  
BIOLOGICAL\_MOLECULAR\_BIOLOGY,  
BIOLOGICAL\_NEUROSCIENCES\_AND\_NEUROBIOLOGY, BIOLOGICAL\_PARASITOLOGY,  
BIOLOGICAL\_PATHOLOGY\_ANIMAL\_PLANT, BIOLOGICAL\_TAXONOMY,  
BIOLOGICAL\_ZOOLOGY, HEALTH, HEALTH\_BIOMEDICAL\_SCIENCE,  
HEALTH\_ENVIRONMENTAL\_HEALTH, HEALTH\_EPIDEMIOLOGY\_PUBLIC\_HEALTH,  
HEALTH\_GENETICS\_GENOMICS, HEALTH\_MICROBIOLOGY\_BACTERIOLOGY\_VIROLOGY,  
HEALTH\_NEUROSCIENCES\_AND\_NEUROBIOLOGY, HEALTH\_NUTRITION\_SCIENCES,  
HEALTH\_PATHOLOGY\_HUMAN, HEALTH\_PHARMACEUTICAL\_MEDICINAL\_SCIENCES,  
HEALTH\_PHARMACOLOGY\_HUMAN\_AND\_ANIMAL, HEALTH\_TOXICOLOGY,  
HEALTH\_VETERINARY\_SCIENCES, MATERIA

( <http://api.gbif.org/v1/enumeration/basic/Discipline> より )

**選択肢④ : Content Types 機関の運営 (以下から選択)**

ARCHAEOLOGICAL\_OTHER, ARCHAEOLOGICAL\_HUMAN\_REMAINS,  
ARCHAEOLOGICAL\_FAUNAL\_REMAINS, ARCHAEOLOGICAL\_FLORAL\_REMAINS,  
ARCHAEOLOGICAL\_C14, ARCHAEOLOGICAL\_COPROLITES,  
ARCHAEOLOGICAL\_CERAMIC\_ARTIFACTS, ARCHAEOLOGICAL\_FAUNAL\_ARTIFACTS,

ARCHAEOLOGICAL\_FLORAL\_ARTIFACTS, ARCHAEOLOGICAL\_LITHIC\_ARTIFACTS,  
ARCHAEOLOGICAL\_METAL\_ARTIFACTS, ARCHAEOLOGICAL\_TEXTILES\_BASKETRY,  
ARCHAEOLOGICAL\_TECHONOLOGICAL\_PROCESSES\_REMAINS,  
ARCHAEOLOGICA\_WOODEN\_ARTIFACTS, BIOLOGICAL\_OTHER,  
BIOLOGICAL\_LIVING\_ORGANISMS, BIOLOGICAL\_LIVING\_CELL\_OR\_TISSUE\_CULTURES,  
BIOLOGICAL\_PRESERVED\_ORGANISMS, BIOLOGICAL\_ANIMAL\_BUILT\_STRUCTURES,  
BIOLOGICAL\_ANIMAL\_DERIVED, BIOLOGICAL\_BIOFLUIDS, BIOLOGICAL\_CELLS\_TISSUE,  
BIOLOGICAL\_ENDOSKELETONS, BIOLOGICAL\_EXOSKELETONS, BIOLOGICAL\_FECES,  
BIOLOGICAL\_MOLECULAR\_DERIVATES, BIOLOGICAL\_PLANT\_DERIVED,  
HUMAN\_DERIVED\_OTHER, HUMAN\_DERIVED\_BIOFLUIDS\_HUMAN,  
HUMAN\_DERIVED\_BLOOD\_HUMAN, HUMAN\_DERIVED\_CELLS\_HUMAN,  
HUMAN\_DERIVED\_FECES\_HUMAN, HUMAN\_DERIVED\_MOLECULAR\_DERIVATIVES,  
HUMAN\_DERIVED\_TISSUE\_HUMAN, EARTH\_PLANETARY\_OTHER,  
EARTH\_PLANETARY\_ASTEROIDS, EARTH\_PLANETARY\_COMETS,  
EARTH\_PLANETARY\_COSMIC\_INTERPLANETARY\_DUST, EARTH\_PLANETARY\_GAS,  
EARTH\_PLANETARY\_GEMS, EARTH\_PLANETARY\_ICE,  
EARTH\_PLANETARY\_LUNAR\_MATERIALS, EARTH\_PLANETARY\_METALS\_ORES,  
EARTH\_PLANETARY\_METEORITES, EARTH\_PLANETARY\_MINERALS,  
EARTH\_PLANETARY\_ROCKS, EARTH\_PLANETARY\_SEDIMENTS,  
EARTH\_PLANETARY\_SOILS, EARTH\_PLANETARY\_SPACE\_EXPOSED\_MATERIALS,  
EARTH\_PLANETARY\_WATER, PALEONTOLOGICAL\_OTHER,  
PALEONTOLOGICAL\_CONODONTS, PALEONTOLOGICAL\_INVERTEBRATE\_FOSSILS,  
PALEONTOLOGICAL\_INVERTEBRATE\_MICROFOSSILS,  
PALEONTOLOGICAL\_PETRIFIED\_WOOD, PALEONTOLOGICAL\_PLANT\_FOSSILS,  
PALEONTOLOGICAL\_TRACE\_FOSSILS, PALEONTOLOGICAL\_VERTEBRATE\_FOSSILS,  
RECORDS\_OTHER, RECORDS\_SEISMOGRAMS, RECORDS\_RADIOGRAPH,  
RECORDS\_IMAGES, RECORDS\_DOCUMENTS, RECORDS\_DOCUMENTATION,  
RECORDS\_DERIVED\_DATA, RECORDS\_ASSOCIATED\_DATA, RECORDS\_MAPS,  
RECORDS\_RECORDINGS

( <http://api.gbif.org/v1/enumeration/basic/CollectionContentType> より)

**選択肢⑤ : Preservation type 保存タイプ** (以下から該当するものを選択)

STORAGE\_OUTDOORS, STORAGE\_INDOORS, STORAGE\_CONTROLLED\_ATMOSPHERE,  
STORAGE\_FROZEN\_MINUS\_20, STORAGE\_FROZEN\_MINUS\_80,  
STORAGE\_FROZEN\_BETWEEN\_MINUS\_132\_AND\_MINUS\_196, STORAGE\_OTHER,  
STORAGE\_REFRIGERATED, STORAGE\_RECORDED, STORAGE\_VACUUM,  
SAMPLE\_CRYOPRESERVED, SAMPLE\_DRIED, SAMPLE\_EMBEDDED,  
SAMPLE\_FLUID\_PRESERVED, SAMPLE\_PINNED, SAMPLE\_PRESSED,

SAMPLE\_SKELETONIZED, SAMPLE\_SLIDE\_MOUNT, SAMPLE\_SURFACE\_COATING,  
SAMPLE\_TANNED, SAMPLE\_WAX\_BLOCK, SAMPLE\_OTHER, SAMPLE\_FREEZE\_DRYING  
( <http://api.gbif.org/v1/enumeration/basic/PreservationType> より )

## GBIF/S-Net へのデータ提供にあたっての関連資料

2021.6.1

国立科学博物館・標本資料センター

神保 宇嗣

S-Net（サイエンスミュージアムネット）および GBIF（地球規模生物多様性情報機構）事業へのご協力にあたり、文書を起票する際などにご参照いただけるよう関連資料をまとめました。

本事業はオープンな生物多様性情報の利用を目指しており、主要なメリットとしては、①自機関以外のデータも同じ規格で利用でき、標本の情報を最大化できる。②自身のサーバーがなくても、データを公開・利用できる、点が挙げられます。

協力機関から収集された生物多様性情報データは、国内向けには S-Net サイトから、世界へは GBIF から発信されます（JBIF のパンフレット <http://www.gbif.jp/v2/pdf/GBIFpanf.pdf> の 5 ページをご参照ください）。また、S-Net は、内閣府が進めるジャパンサーチ（文化財・書籍・標本資料など様々な情報の一元検索システム）とも連携しており、S-Net の標本データはジャパンサーチからも検索・利用ができます。また、海洋生物地理情報システム OBIS（ユネスコ傘下で世界の海洋の生物情報を集約・公開している組織）の日本ノード J-OBIS とも連携をしており、S-Net から公開されている海洋生物標本情報の一部は、OBIS ウェブサイトからも検索・利用ができます。

## 1) サイエンスミュージアムネット S-Net

サイエンスミュージアムネット パンフレット

[http://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/S-Net\\_leaflet.pdf](http://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/S-Net_leaflet.pdf)

サイエンスミュージアムネットデータ利用規程

<http://science-net.kahaku.go.jp/contents/document/riyoukitei.pdf>

## 2) 地球規模生物多様性情報機構 GBIF

地球規模生物多様性情報機構日本ノード JBIF パンフレット

<http://www.gbif.jp/v2/pdf/GBIFpanf.pdf>

GBIF 利用規約、覚書

[http://www.gbif.jp/v2/library/library\\_nov2017.html#agreement](http://www.gbif.jp/v2/library/library_nov2017.html#agreement)

3) 海洋生物地理情報システム OBIS

OBIS データポリシー

<http://www.godac.jamstec.go.jp/j-obis/j/guideline.html>

J-OBIS について

<http://www.godac.jamstec.go.jp/j-obis/j/about.html>

4) ジャパンサーチ

<https://jpsearch.go.jp/>

5) その他関連資料

生物多様性国家戦略 2012-2020」の閣議決定について（お知らせ）

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15758>

生物多様性国家戦略 2012-2020（本文）

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/20763.pdf>

生物多様性国家戦略 2012-2020 GBIF 関連事項抜粋（上記本文より抜粋）

[http://science-net.kahaku.go.jp/contents/hint/NBSJ2012-2010\\_GBIF.pdf](http://science-net.kahaku.go.jp/contents/hint/NBSJ2012-2010_GBIF.pdf)

## 2. 新 S-Net システムについて

S-Net は、国立科学博物館によって運営されている日本国内の標本情報共有のためのホームページで、2018 年 4 月に大幅リニューアルされました。本章では、S-Net のホームページにおけるデータの検索とデータのダウンロード、地図へのプロットなどの利用法について紹介します。

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##renewal2018](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##renewal2018)



使ってみよう S-Net

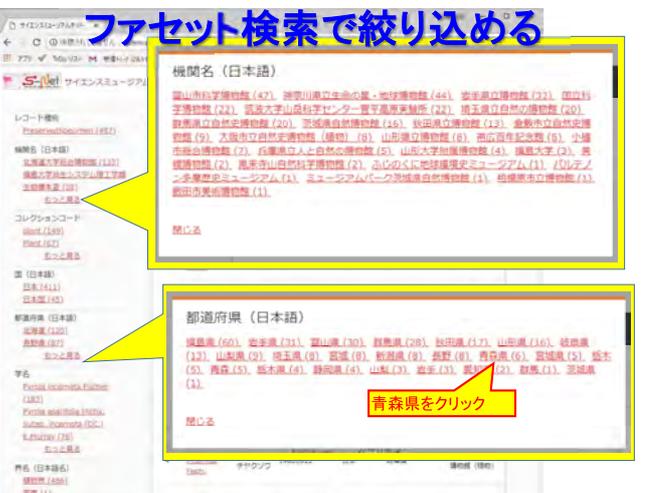
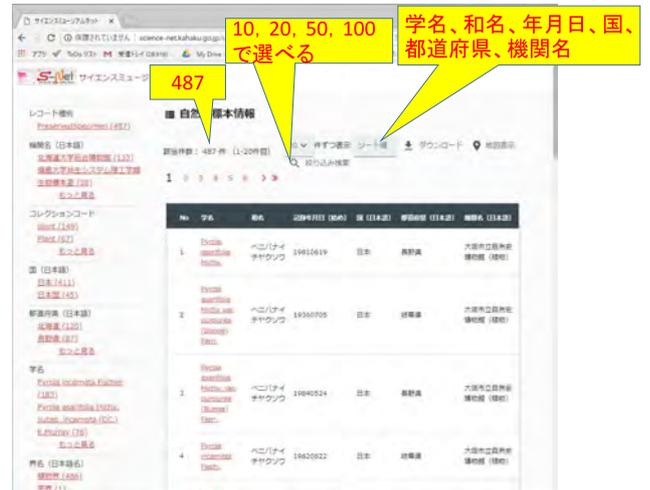
# とりあえず、和名で探す

S-Net事務局

2018.12.1.

# はじめに

1. 和名で検索するのはもっとも基本的なS-Netの使い方です。検索窓に和名などを入れることによって簡単に実施できます。
2. このスライドでは、「ベニバナイチヤクソウ」を和名で探し、ファセット検索で絞り込んでデータを表示させます。
3. 応用編として、「地図に表示させる」、「詳細検索を使う」も御覧ください。





注意：地図表示は2,000件までのデータを対象としています。  
 [地図表示]がメニューにないときは[絞り込み検索]で  
 対象を2,000件以下に絞り込んでください。

使ってみよう S-Net

## 地図に表示させる

S-Net事務局

2018.12.1.

## はじめに

1. 検索結果を地図に表示させるのは、わかりやすい利用法の一つです。
2. このスライドでは「青森県のベニバナイチヤクソウ」の分布を地図に表示させる方法を学びます。
3. 前提として「とりあえず、和名で検索」、応用として、「データをダウンロードする」、「詳細検索を使う」も御覧ください。

### 和名で検索し、ファセット検索で青森県のものに絞り込んだベニバナイチヤクソウのデータ

これをクリック

No.	学名	和名	記録年月日 (年)	種 (日本産)	採集地 (日本産)	採集者 (日本産)
1	<i>Penstemon spicatus</i> Siebold	ベニバナイチヤクソウ	19460928	日本産	青森県	岩手県立自然史博物館 岩手県植物標本館
2	<i>Penstemon spicatus</i> Siebold, <i>Penstemon spicatus</i> Siebold	ベニバナイチヤクソウ	19460917	青森産	青森県	国立科学博物館
3	<i>Penstemon spicatus</i> Siebold	ベニバナイチヤクソウ	19500712	日本	青森県	ミュージアムパーク宮城県自然史博物館
4	<i>Penstemon spicatus</i> Siebold	ベニバナイチヤクソウ	195007**	日本	青森県	ミュージアムパーク宮城県自然史博物館
5	<i>Penstemon spicatus</i> Siebold, <i>Penstemon spicatus</i> (DC.) E. Murray	ベニバナイチヤクソウ	19460917	青森産	青森県	国立科学博物館
6	<i>Penstemon spicatus</i>	ベニバナイチヤクソウ	19560707	日本	青森県	国立科学博物館

### 近い地点のものはまとめて点数が表示されます

6点の全体が表示されます

全画面表示 (ESCキーで元に戻ります)

### 全画面表示し、+ボタンで拡大した例「6」点が分解されて「3」「2」「1」になっています

+ボタンで拡大。  
-ボタンで縮小表示

### さらに拡大すると...

この2点は同じ場所で採集されており、分解されることはありません

ドラッグして任意の場所に置くと、その現場の様子を見ることができる。

注意：ダウンロードは5,000件までのデータを対象としています。  
[ダウンロード]がメニューにないときは[絞り込み検索]で  
対象を5,000件以下に絞り込んでください。

### はじめに

1. 検索結果をダウンロードすると、エクセルなどで、利用することができます。S-Netのデータはすべて同じ形になっていますので、他のデータを追加して利用することもできます。
2. このスライドでは「ベニバナイチヤクソウ」のデータをダウンロードする方法を学びます。
3. 前提として「とりあえず、和名で検索」、応用編として、「地図に表示させる」、「詳細検索を使う」も御覧ください。

使ってみよう S-Net

## データをダウンロードする

S-Net事務局

2018.12.1.

### 和名で検索したベニバナイチヤクソウのデータ

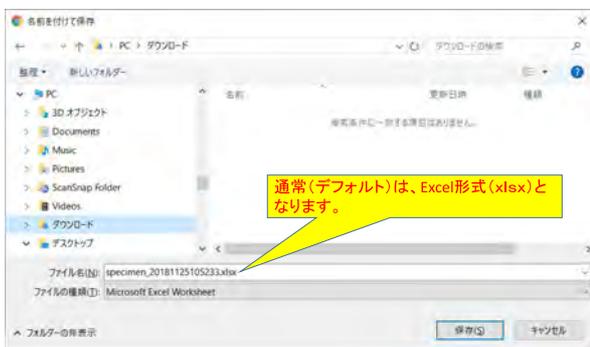


### 必要な項目を選ぶことができます

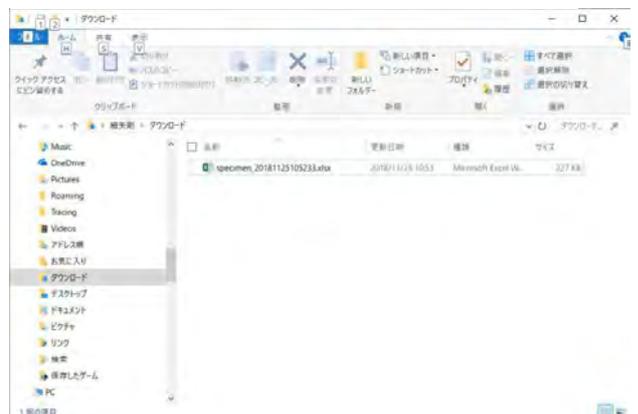


複数のデータを連結して使うのであれば、後でまとめて整形したほうが無難でしょう。

### 適当なダウンロード先を指定します



### ダウンロードされたファイルを開きます





# はじめに

1. 詳細検索を利用することによって、複数の条件をかけ合わせた検索が可能になります。
2. このスライドでは、詳細検索を利用した検索法を学びます。
3. 応用編として、「地図に表示させる」、「データをダウンロードする」も御覧ください。

使ってみよう S-Net

# 詳細検索を使う

S-Net事務局  
2018.12.1.

# 詳細検索を選ぶ

この「サイエンスミュージアムネット」は、全国の自然史博物館の標本情報について、和名・学名・分類・記録年月日\*、地域・海拔\*、水深\*、緯度\*、経度\*、古生物の推定年代、古生物の産出層、その他の項目\*は範囲指定可能です。

検索条件: テングタケ

検索結果: 1件

検索条件: 2010年以降

検索結果: 1件

検索条件: 茨城

検索結果: 1件

検索条件: 部分一致

検索結果: 1件

# 詳細検索: 複数項目による条件の掛け合わせ(AND検索)

検索条件: テングタケ

検索結果: 1件

検索条件: 2010年以降

検索結果: 1件

検索条件: 茨城

検索結果: 1件

検索条件: 部分一致

検索結果: 1件

学名、和名(カナ)、分類、記録年月日\*、地域、海拔\*、水深\*、緯度\*、経度\*、古生物の推定年代、古生物の産出層、その他の項目\*は範囲指定可能

# 茨城県で2010年以降採集された「テングタケ類」(菌類)

検索条件: テングタケ

検索結果: 1件

検索条件: 2010年以降

検索結果: 1件

検索条件: 茨城

検索結果: 1件

検索条件: 部分一致

検索結果: 1件

# 完全・部分・前方・後方一致

選び方によって、検索される範囲が異なります。

「カラス」を検索語として、それぞれの条件で検索した場合

和名	完全	部分	前方	後方
カラス	○	○	○	×
オキナワカラス	×	○	×	○
カラスザンショウ	×	○	○	×
リュウキュウカラスガメ	×	○	×	×
カワガラス	×	×	×	×

※「サクラ」などの検索には注意が必要です(多くは「○○ザクラ」です)。

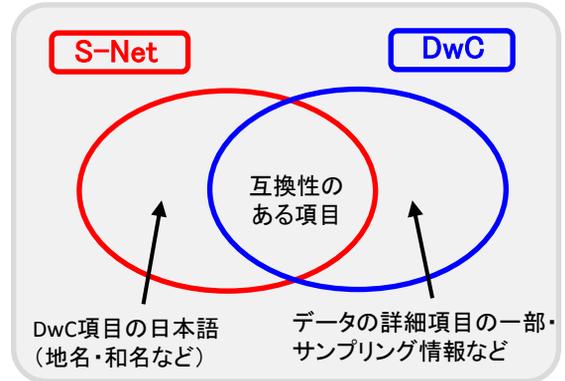




# サイエンスミュージアムネットが変わりました

## ■ ダーウィンコアにより近く、多数の項目が扱えるようになりました

- 新しいS-Netの標本データ形式は、**ダーウィンコア(DwC)最新版の項目と互換性**を図り、生息環境、成熟状況、ホスト情報や処理・保存情報、塩基配列の情報などより多くの項目が扱えるようになりました。
- DwCと互換性のある項目には**対応する日本語の項目**を設けました。性別や生活型・世代型などはこれまで英語のみの項目でしたが、日本語でも情報を記録できるようになりました。
- **古生物**に関する情報として、推定年代や産出層などの項目が追加され、化石標本の**データが扱える**ようになりました。
- **タイプ**の標本の命名情報として、原記載や命名規則など項目が追加され、**新種記載の情報**を記録できるようになりました。



## ■ 機関コードを指定して、提供機関ごとの標本情報検索ページが作れます

<http://science-net.kahaku.go.jp?dic=XXXX> (XXXXは機関コード)



「国立科学博物館 (動物)」の標本を検索するページは機関コード「NSMT」を指定  
<http://science-net.kahaku.go.jp?dic=NSMT>

標本を検索する機関のリストに機関名をあらかじめ表示すると、S-Netのページを**提供機関独自の標本情報検索ページとして使う**ことができます。標本データベースを独自に公開していない機関では、所蔵標本を公開するツールとして活用できます。

機関のホームページから標本情報検索ページをリンクする際には、S-Netのバナーをご利用ください。



- ① 機関コードは「機関・データセット一覧」から確認できます。
- ② S-Netのバナーは「サイエンスミュージアムについて」のページからダウンロードできます。  
<http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/termsfuse.html>

## ■ コレクションや機関についての情報(メタデータ)も公開できます

<p><b>機関情報</b>  <b>国立科学博物館 (動物) NSMT</b></p> <p>機関コード: NSMT                  機関名: National Museum of Nature                  機関名 (日本語): 国立科学博物館 (動物)                  都道府県 (日本語): 茨城県                  機関ウェブサイト (日本語): <a href="http://www.kahaku.go.jp/">http://www.kahaku.go.jp/</a></p> <p>URI: <a href="http://science-net.kahaku.go.jp/institution/443">http://science-net.kahaku.go.jp/institution/443</a></p> <p><b>データセット一覧</b></p> <p>クモ綱コレクション (NSMT-Ar) →                  毛類動物コレクション (NSMT-Ch)                  鱗翅目コレクション (NSMT-I-L)                  甲殻目 (ハジラミ類) (NSMT-I-Ma)                  原索動物コレクション (NSMT-Pc)                  有鬚動物コレクション (NSMT-Pog)</p>	<p><b>データセット</b>  <b>国立科学博物館 (動物) クモ綱コレクション NSMT-Ar</b></p> <p>データセット略号: NSMT-Ar                  機関名 (日本語): 国立科学博物館 (動物)                  機関ウェブサイト (日本語): <a href="http://www.kahaku.go.jp/">http://www.kahaku.go.jp/</a>                  タイトル: The Araneae Collection of the National Museum of Nature                  タイトル (日本語): クモ綱コレクション                  公表日時: 2013/11/27 0:00                  概要: Specimens of Araneae which the Department of Nature and Science, holds</p> <p>データセットURL: <a href="http://db.kahaku.go.jp/webmuseum_en/">http://db.kahaku.go.jp/webmuseum_en/</a>                  データセットURL (日本語): <a href="http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/">http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/</a>                  キーワード: Arachnida, Araneae, spiders, taxonomy                  知的所有権: Creative Commons Attribution (CC-BY) 4.0 License                  知的所有権 (日本語): クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示 4.0 国際</p> <p>URI: <a href="http://science-net.kahaku.go.jp/dataset/300">http://science-net.kahaku.go.jp/dataset/300</a></p>
--	---

データセット(コレクション)に含まれる自然史標本情報の一覧が表示されます。

データを見る

## ■ 利用を促進する機能が充実しました

- インターフェイスを大幅に刷新し、「**ファセット検索**」を取り入れました。標本の属性ごとの件数を把握できます。また、採集地や分類階級をたどって検索ができ、目的の標本が探しやすくなりました。
- 地図表示では「**クラスタ(まとめ込み)表示**」ができるようになり、周辺にいくつ標本があるか件数でわかるようになりました。
- **検索スピードが大幅に高速化**されました。検索時に大量のデータがヒットしても、ストレスなく表示されます。

**【注意】「ダウンロード」は該当件数が5,000件以下の場合のみに表示されます。また、モバイル端末など画面の幅が狭い場合には「ダウンロード」は表示されません。**

URL: <http://science-net.kahaku.go.jp/Specimen/1021949>

- 「**固定アドレス**」を導入し、機関、データセット、自然史標本の情報を直接参照できるようになりました。URI\*はS-Netシステムの中では半永久的に使えるパーマリンクを提供しています。

\* URI(Uniform Resource Identifier)は一定の書式によってリソース(資源)を指し示す識別子です。

## ■ エクセルファイルが使えるようになり、データが提出しやすくなりました

- 従来データの提出と加工にはカンマ区切り形式(csv)に変換する必要があり、変換時に文字化けするなどの課題がありました。新しいシステムでは**エクセル形式(xlsx)**がそのまま使えるようになり、課題も解消されました。
- 提出する時に所蔵標本のデータをS-Netの標本データ形式に変換する「**データ変換ツール**」がシンプルで使いやすくなりました。
- 半角の項目に含まれる全角英数字は自動的に半角に変換するなど、**データのクリーニング機能が強化**されました。
- データ検証時のエラー情報は**エクセルシートで入力データと同じ行に出力**されます。エラーの項目も**マーキング**され、**データの修正が容易**になりました。

カンマ区切り形式(csv)に加え、エクセル形式(xlsx)にも対応。

すべての項目をひとつの画面で対応付け。

項目の指定は、「入力ファイルの項目を指定」するか「固定値を直接入力」

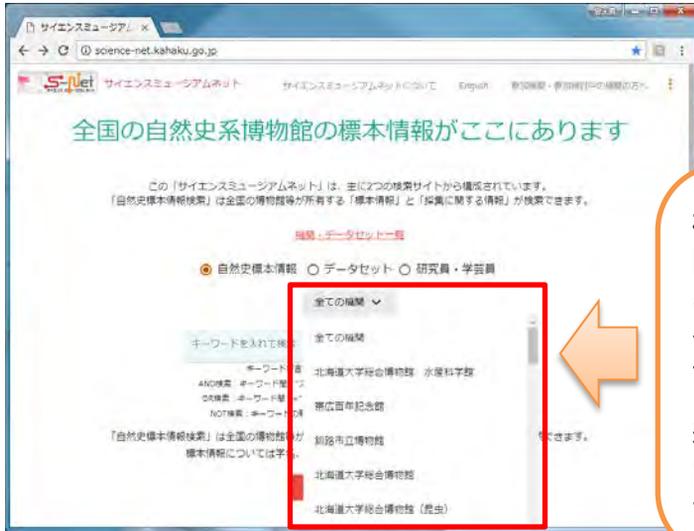
## ■ ホームページに説明資料やツール類がまとめられ、参照しやすくなりました

**データ提供関連:**「参加機関・参加検討中の機関の方へ」[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)  
**事例・参考資料:**「活動実績・資料」<http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/activity.html>



# 機関を指定してS-Netサイトへリンクするには

S-Netの新システムでは検索ページの検索窓の上に参加機関のリストが現れ、機関を選択して検索ができるようになっています。



機関のリストにご自身の機関名をデフォルトで指定してホームページにリンクすることによって、S-Netのページを、あたかも提供機関独自のデータ公開のために用意したように作ることが可能になります。

独自の公開サーバーをお持ちでない機関にとっては公開のためのツールとして活用できます。

機関のリストにデフォルトで機関名を指定するには、S-NetのURLに機関コードを追加して指定します。

<http://science-net.kahaku.go.jp?dic=XXXX> (XXXXは機関コード)



たとえば、「国立科学博物館(動物)」を指定する場合は、機関コード「NSMT」を指定します。

<http://science-net.kahaku.go.jp?dic=NSMT>

機関コードは「機関・データセット一覧」から機関名をクリックし、「機関情報」を表示して確認できます。



ホームページへリンクする際には、S-Netのバナーもご利用ください。



バナーはS-Netサイトの「サイエンスミュージアムについて」のページからダウンロードできます。



# データ変換ツールが新しくなりました

## ■ 主な特長

### シンプルで使いやすくなりました

すべての項目をひとつの画面で対応付け、登録データ形式に変換できます。

項目は次の2つの方法で指定します。

①項目指定: 入力ファイルの項目を指定すると、ファイルの値がコピーされます。

②直接入力: 共通の値は直接固定値を入力することができます。

### 入力ファイルとしてエクセル形式に対応しました

従来のカンマ区切り形式(csv)に加え、エクセル形式(xlsx)にも対応しました。

### データのクリーニング機能を強化しました

半角の項目に含まれる全角英数字を自動的に半角に変換したりできます。

### データのエラーがよりわかりやすくなりました

データのエラー情報は入力ファイルと同じ行にエクセル形式で出力され、エラーの項目は色付けされて識別できます。

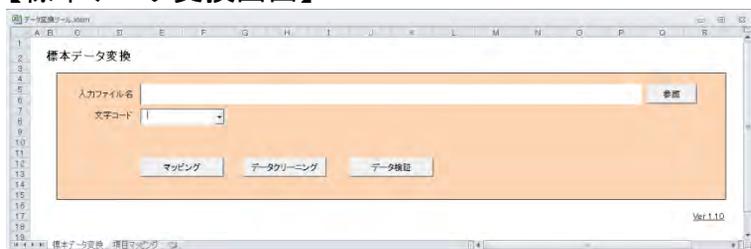
## ■ データ変換ツール.xlsmを使うには

新しいデータ変換ツールはExcelマクロ有効ブックファイルで、2つのシートで構成されています。従来のような設定ファイル(.ini)は不要ですが、項目の対応付け(マッピング)の情報が直接保存されるため、データセット(コレクション)ごとにコピーしてお使いすることをお奨めします。

データ変換ツールと利用者マニュアルはS-Netサイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」からダウンロードできます。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)

### 【標本データ変換画面】



csv形式またはxls形式の入力ファイルを指定して、[マッピング]を選択し、項目の対応付け、データ検証後、S-Netの登録形式ファイルへの変換を行います。csv形式の場合は、[文字コード]から「UTF-8」「Shift-JIS」が選択できます。

また、S-Netの登録形式ファイルを指定して、[データクリーニング]、[データ検証]を行うこともできます。

### 【項目マッピング画面】

S-Netの項目に入力ファイルの項目を対応付けます。機関名など共通の項目は、[直接入力]を選択し、機関名などの値を直接指定することができます。対応付けができたなら、[設定保存]で項目マッピングの情報を保存しておきます。



## 【入力ファイルの例】

S-Net項目のデータ型、入力形式に合わせて入力ファイルを用意します。  
データの整形には「事前整形支援ツール」やエクセルの式などをご利用ください。

SNHM-Aves\_2.xlsx

A	B	C	D	E	F	G	H	I	
1	カタログ番号	学名	和名	目名(日本語名)	科名(日本語名)	属名(学名)	種小名	亜種以下のタクソン	学名の著者
2	18676	Gallinago hardwickii (Gray)	オオジシギ	チドリ目	シギ科	Gallinago	hardwickii		(Gray)
3	18677	Gallinago hardwickii (Gray)	オオジシギ	チドリ目	シギ科	Gallinago	hardwickii		(Gray)
4	18678	Gallinago mekala	チュウジシギ	チドリ目	シギ科	Gallinago	mekala		
5	18679	Limosa limosa melanuroides	オグロシギ	チドリ目	シギ科	Limosa	limosa	melanuroides	
6	18680	Limosa limosa melanuroides	オグロシギ	チドリ目	シギ科	Limosa	limosa	melanuroides	

(続き)

SNHM-Aves\_2.xlsx

J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1	性別	性別(日本)	国(日本語)	都道府県	都道府県(日本語)	都・市区町村	都・市区町村(日本語)	詳細地名(日本語)	記録年月日(始め)
2	male	♂	Japan	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19200801
3	female	♀	Japan	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19200801
4	male	♂	Japan	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19260910
5	male	♂	Japan	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19210919
6	female	♀	Japan	Miyagi	宮城県	Kurihara-gun	栗原郡	若柳	19210919

## 【S-Net登録データファイルの例】 マッピングと変換が完了すると登録用のファイルが作成されます。

SNHM-Aves\_2\_登録データ.xlsx

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	管理ID	登録日時	更新日時	データセットグループ	バリエーションID	登録日時	公開レコード種	機関名	機関コード	コレクションカタログ番号	採集者番号	オカレンスID	オカレンスID	性別	性別(日本)		
2								PreservedSato	Natua	18676				male	♂		
3								PreservedSato	Natua	18677				female	♀		

BD	BE	BF	BG	BH	BI	BJ	BK	BL	BM	BN	BO	BP	BQ	BR	BS
1	鳥(日本語)	国(日本語)	国地域コード	都道府県	都道府県(日本語)	都・市区町村	都・市区町村(日本語)	詳細地名	詳細地名(日本語)	地名オリジン	最低海拔	最高海拔	最浅水深	最深水深	メッシュコード
2	Japan	日本		Miyagi	宮城県	Kurihara-g	栗原郡	若柳							
3	Japan	日本		Miyagi	宮城県	Kurihara-g	栗原郡	若柳							

CG	CH	CI	CJ	CK	CL	CM	CN	CO	CP	CQ	CR	CS	CT	
1	学名	カテゴリー	界名(学名)	界名(日本語)	門名(学名)	門名(日本語)	綱名(学名)	綱名(日本語)	目名(学名)	目名(日本語)	科名(学名)	科名(日本語)	属名(学名)	属名(日本語)
2	Gallinago hardwickii	(GAnimalia)	動物界	動物界	Chordata	脊索動物門	Aves	鳥綱	チドリ目	チドリ目	シギ科	シギ科	Gallinago	Gallinago
3	Gallinago hardwickii	(GAnimalia)	動物界	動物界	Chordata	脊索動物門	Aves	鳥綱	チドリ目	チドリ目	シギ科	シギ科	Gallinago	Gallinago

LI	FC	FD	FE	FF	FG	FH	FI	FJ	FK	FL	FM	FN	FO	FP	FQ
1	層群	層群(日本語)	層	層(日本語)	部層	部層(日本語)	単層	単層(日本語)	オリジナル(原記載)	原記載出所	オリジナル(命名規約)	命名規約	分類学的命名規約		

(続き)

(続き)

(続き)

## 【検証データファイルの例】

データ検証でエラーがあった場合は入力ファイルにエラー情報が付加された検証データファイルが作成されます。赤いセルのエラーを修正し、修正された入力ファイルをもう一度、読み込んでマッピングを実行します。

SNHM-Aves\_3\_検証データ.xlsx

A	B	C	D	E	F	G	
1	エラー件数	エラー内容	カタログ番号	学名	和名	目名(日本語名)	科名(日本語名)
2	0		18676	Gallinago hardwickii (Gray)	オオジシギ	チドリ目	シギ科
3	0		18677	Gallinago hardwickii (Gray)	オオジシギ	チドリ目	シギ科
4	2	MW013:警告カタログ番号 必須項目を入力してください。M		Gallinago mekala	チュウジシギ	チドリ目	シギ科
5	1	MW016:警告記録年月日(始め) 日付を入力してください。18679		Limosa limosa melanuroides	オグロシギ	チドリ目	シギ科
6	2	MW014:警告学名 半角英数字を入力してください。MW02018680			ヤマシギ		

## ■ データ変換ツールでできないこと

### 項目からの抽出や日付・緯度経度などの形式変換はできません

旧データ変換メインツールにあった属名、種小名などを「学名から抽出」する機能、種々の形式の「日付」や「緯度・経度」を変換する機能はなくなりました。エクセルの関数などを利用して、登録データ形式に変換するようにお願いします。もし、お困りの場合は、事務局までお問い合わせください。

### 学名などの綴りのチェックはできません

種名リストなどの辞書をご利用いただき、正しい綴りの情報を入力してください。

「データ入力のためのヒント」を参照  
「生物リストで和名から学名を取得」  
「日本産生物リスト一覧」

### 機関コード、コレクションコードはチェックできません

機関コード(機関略号)・コレクションコード(標本コード)は変換ツールではチェックできません。S-Netサイト( <http://science-net.kahaku.go.jp> )の「機関・データセット一覧」で確認し、正しいコードを指定してください。

### 掲載済みの標本データとの重複をチェックすることはできません

入力ファイルに同じカタログ番号(標本番号)のデータがないかどうかチェックすることはできますが、掲載済みの標本データのカタログ番号とチェックすることはできません。掲載済みの標本データはS-Netサイト( <http://science-net.kahaku.go.jp> )の「機関・データセット一覧」からデータセットを選択後、「データを見る」で表示できますので、カタログ番号に重複がないかどうかご確認ください。



# GBIF / S-Net / JBIF 関連のURL

## ■ GBIF 地球規模生物多様性情報機構

<https://www.gbif.org/ja/>

世界最大の生物多様性情報サイト。GBIF全体では16.5億件を公開。日本からは8.4百万件を公開。標本情報としてはアジア最多数。

- 査読付き論文の年次レビュー:「サイエンスレビュー」  
<https://www.gbif.org/ja/science-review>
- GBIF日本について  
<https://www.gbif.org/ja/country/JP/summary>



## ■ S-Net サイエンスミュージアムネット

<http://science-net.kahaku.go.jp/>

※S-Netサイトの流れは裏面を参照

科博が運営する標本情報サイト。104機関から6百万件を公開。

- 使い方・事例・参考資料:「活動実績・資料」  
<http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/activity.html>
- データ提供について:「参加機関・参加検討中の機関の方へ」  
[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)
- 上記の各項目を直接表示するには:「サイトマップ」  
<http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/sitemap.html>



## ■ JBIF 日本生物多様性情報イニシアチブ

<http://www.gbif.jp/v2/>

遺伝研が運営する日本生物多様性情報イニシアチブ「JBIF」のサイト。活動状況を広報。S-Netに加え、観察情報などを公開。8.4百万件を公開。

- GBIF利用規約、覚書、サイエンスレビューなど(和訳含む):「ライブラリ」  
[https://www.gbif.jp/v2/library/library\\_nov2017.html](https://www.gbif.jp/v2/library/library_nov2017.html)
- Darwin Core の項目について:「データ形式」  
[https://www.gbif.jp/v2/datause/data\\_format/index.html](https://www.gbif.jp/v2/datause/data_format/index.html)



## ■ ジャパンサーチ(正式版2020～; ベータ版2018～)

<https://jpsearch.go.jp/>

国立国会図書館が運営するデジタルアーカイブ。S-Netのデータを連携して公開。

- 連携データベース:「サイエンスミュージアムネット」  
[https://jpsearch.go.jp/database/s\\_net](https://jpsearch.go.jp/database/s_net)



## ■ 動画集( NBRP情報センター YouTube チャンネル)



<https://www.youtube.com/channel/UCH8bZSf0mffxh6IG4EjwZtw/videos>



【参考資料E21】（この資料）が開きます



サイエンスミュージアムネットワーク  
<http://science-net.kahaku.go.jp/>

参加機関・参加検討中の機関の方へ

全国の自然史系博物館の標本情報がここにあります

活動実績・資料

過去のお知らせ

参加機関・参加検討中の機関の方へ

はじめに

S-Net/GBIFへのデータ提供

新S-Netシステムについて

ツール・辞書

データ入力のための

検索

キーワードを入れて検索

詳しく検索

サイトマップ

サイトマップ

サイエンスミュージアムネットワークを使う

サイエンスミュージアムネットワークについて

お知らせ・活動実績・資料を見る

個々の見出し

活動実績・資料

S-Netの使い方

リンク集

S-Net/GBIFデータ活用事例

パンフレット等

21世紀の生物多様性研究ワークショップ

自然史標本データ研究会

その他

各リンクから資料を表示・ダウンロードできます。

### 3. ツール・辞書

S-Net/GBIF へのデータ提供にあたっては、第 1 章で述べたようなダーウィンコアに準拠したデータ提供が求められます。実際に多くの機関が行うのは、エクセルのようなソフトでデータを用意し、これを編集することだと思います。この作業を効率的に進めるために、「データ変換ツール」が用意されています。本章では、このツールの使い方を説明します。また、S-Net で扱われるデータ項目のリストも付与しました。

自然史標本は、所在に関する位置情報を伴っていると価値が上がります。しかし、絶滅危惧種などについては、意識的にそのデータ精度を落としたり、隠したりする必要があります。この時に役に立つのが「レッドデータチェッカー」です。本章の後半では、このシステムの利用についても説明します。

【S-Net サイトの URL】

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##tool](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##tool)



サイエンスミュージアムネット

データ変換ツール  
利用者向けマニュアル

2021年6月  
国立科学博物館

## 改版履歴

版	改版日付	改版内容	備考
1.0	2018/03/13	初版作成	インフォコム株式会社
1.1	2018/03/29	「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」修正	インフォコム株式会社
1.2	2018/05/11	全体を見直し修正	国立科学博物館
1.3	2018/06/20	「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」を一部修正	国立科学博物館
1.4	2018/11/07	Excel オプションの保存形式について補足を追加 トラブルシューティングに Visual Basic のエラー発生時の対応について追加	国立科学博物館
1.5	2018/11/27	Excel 形式の入力ファイルのフィルタについて補足を追加 トラブルシューティングに環境情報の提供依頼と報告済みのエラーの情報を追加	国立科学博物館
1.6	2019/01/15	トラブルシューティングに Visual Basic コンパイルエラーの情報を追加	国立科学博物館
1.7	2019/01/25	「3.トラブルシューティング」に「3.1.4 その他のトラブル」を追加	国立科学博物館
1.8	2019/02/06	トラブルシューティングに拡張子が大文字の入力ファイルに対する警告の情報を追加	国立科学博物館
1.9	2020/02/06	トラブルシューティングに入力ファイル項目名が S-Net 項目名と異なると形式が正しくないという警告となる情報を追加	国立科学博物館
1.10	2020/06/30	「2 データ変換ツールを利用する」に説明を追加 「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」にデータ型と補足説明を追加	国立科学博物館
1.11	2021/06/30	データ検証の改修に伴い、「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」の説明を加筆・修正 「2.3 変換元データを用意する」に説明を追加 「3. トラブルシューティング」に既知の原因を追加	国立科学博物館

## 目次

1	はじめに.....	4
1.1	目的.....	4
1.2	全体の流れ.....	4
2	データ変換ツールを利用する.....	5
2.1	データ変換ツールについて.....	5
2.2	データ変換ツールをインストールする.....	5
2.3	変換元データを用意する.....	6
2.4	マッピング(データ項目の割り当て)する.....	7
2.5	データクリーニング.....	10
2.6	データ検証.....	11
2.7	データ変換における注意事項.....	12
3	トラブルシューティング.....	13
3.1	各種トラブルと対処法.....	13
3.1.1	メッセージレベルが「警告」の場合.....	13
3.1.2	メッセージレベルが「エラー」の場合.....	14
3.1.3	Visual Basic のエラーが発生した場合.....	14
3.1.4	その他のトラブル.....	16
4	その他.....	17
4.1	S-Net 形式のデータ項目について.....	17

# 1 はじめに

## 1.1 目的

データ変換ツールは、保有しているデータを S-Net システム対応の項目に変換するためのツールです。  
データ変換ツールでは、S-Net システム対応項目への変換に加え、データクリーニング及びデータフォーマットのチェックも同時に行います。

## 1.2 全体の流れ

データ変換までの流れは以下の通りになります。

1. データ変換ツールをインストールします。
2. 変換元データを用意します。
3. データ変換ツールで、S-Net システム対応の項目へマッピングを行います。
4. データ変換ツールでデータの変換を行います。

## 2 データ変換ツールを利用する

### 2.1 データ変換ツールについて

データ変換ツールでは、既に保有しているデータを S-Net 形式のデータに変換することができます。  
データ変換ツールで提供する主な機能は以下の通りです。

機能	説明
データマッピング（データ項目の割り当て）機能	標本データを S-Net 形式のデータに変換します。 ※データ変換前に、データクリーニングとデータ検証を行います。
データクリーニング機能	データクリーニングでは以下の処理を行います。 <ul style="list-style-type: none"><li>・各項目のデータ前後にある半角・全角スペース、タブ、改行コードの削除</li><li>・半角カナを全角カナに変換</li><li>・半角英数字指定のフィールドに全角英数字・記号・スペースが存在した場合、対応する半角文字に変換</li><li>・データ内に挿入されている改行記号・タブ文字を半角スペースに変換</li><li>・連続するスペースを 1 文字のスペースに変換</li></ul>
データ検証機能	各項目が S-Net システムの形式のフォーマットかどうか、値の範囲が正しいかなどをチェックします。エラーが検出された場合は、エラー項目が赤でマーキングされ、エラー件数とエラー内容が付加されたデータ検証レポートが出力されます。

データ変換ツールでは Excel ブック (\*.xlsx) 形式でファイルを書き出します。変換ツールの実行前に Excel のオプションで保存形式が「Excel ブック (\*.xlsx)」であることを確認しておいてください。保存形式が「Excel97-2003 ブック (\*.xls)」など異なる形式の場合はエラーになってしまいます。

### 2.2 データ変換ツールをインストールする

データ変換ツール「データ変換ツール.xlsm」を S-Net サイト (<http://science-net.kahaku.go.jp>) からダウンロードします。

以前にインストールしている場合もバージョンを確認し、なるべく最新のバージョンのツールをご利用ください。

ローカル PC の適当なフォルダへ配置します。



## 2.3 変換元データを用意する

変換元のデータを以下のフォーマットで用意する必要があります。

フォーマット情報	フォーマットの説明
ファイル形式 (拡張子)	Excel ブック (.xlsx) 、カンマ区切り (.csv)
文字コード	UTF-8、Shift-JIS
先頭行	項目名
2 行目以降	データ行 (1 行 1 標本)

※1 ファイル 1 データセットとしてください。

※変換元のデータの項目名は任意ですが、S-Net システム登録用の項目名と同じ名前にするとデータ変換ツールで自動的に初期マッピング (データ項目の割り当て) が行われます。

※S-Net システム登録用のデータフォーマットについては「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」を参照してください。

※変換元のデータが Excel ブック形式 (.xlsx) のとき、フィルタを使った絞り込みが行われているとマッピングの実行でエラーとなります。Excel の並べ替えとフィルタから「クリア」を選択して、フィルタによる絞り込みを解除しておいてください。

※変換元データが Excel ブック形式 (.xlsx) の場合、エクセルの操作中に列や行が増えてファイルが予期せず大きくなることがあります。データの最後の列、最後の行をチェックし、余分な列や行が含まれていないことをご確認ください。

※変換元データのファイルのファイル名や上位のフォルダ名に環境依存文字や Windows 以外のコードの文字が含まれているとファイルを読み込むことができません

※変換元データのフォルダ名を含むファイルのパスは 256 文字以内である必要があります。

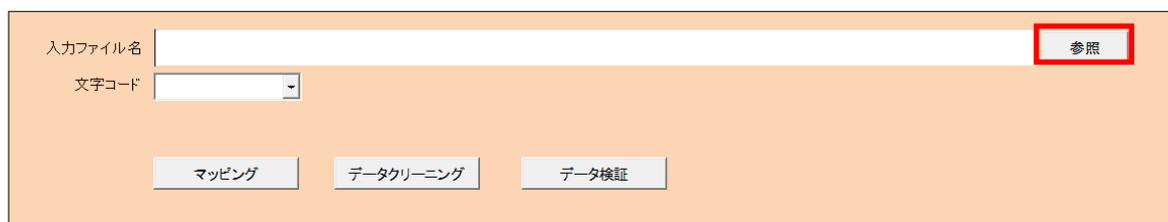
※変換元データファイルがネットワークドライブ上にあるとデータ変換ツールの動作が不安定になることがあります。変換元データはデータ変換ツールを動かす PC 上にご用意ください。

## 2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する

マッピングとは、元のファイルのどの項目が提出用ファイルのどのデータ項目に当たるのかを割り当てる作業です。この対応情報はデータ変換ツールの xism ファイル上に記録されます。インストールした「データ変換ツール.xism」をコピーして名前を変更し、変換元データごとに決めた専用のデータ変換ツールファイルを用意してください（たとえば、「データ変換ツール\_植物コレクション用.xism」など）。変換元データ用のデータ変換ツールをダブルクリックすることで、変換ツールが起動します。

- ① 標本データ変換画面：「参照」ボタンをクリックします。

標本データ変換

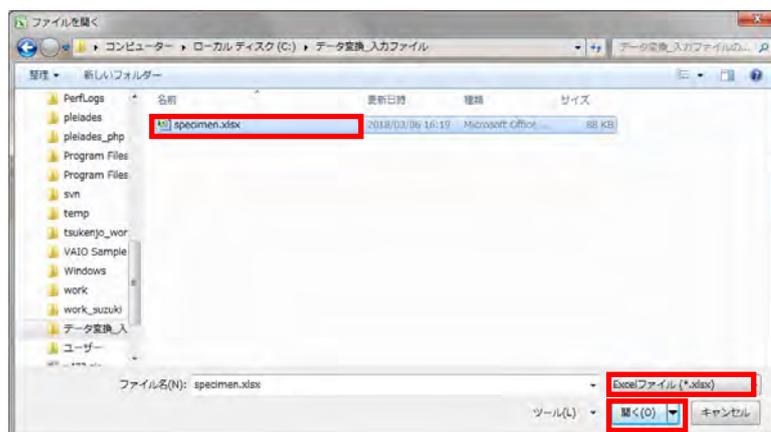


入力ファイル名  参照

文字コード

マッピング      データクリーニング      データ検証

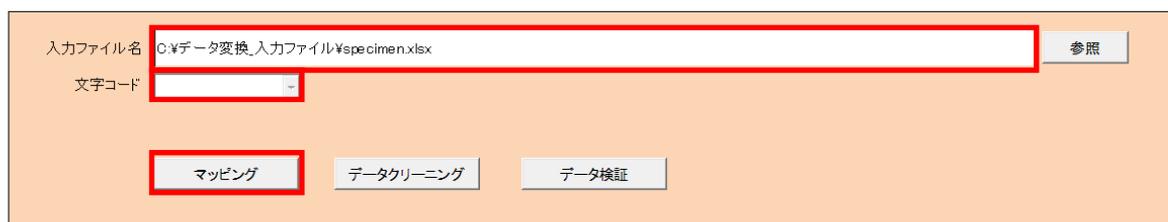
- ② ファイルダイアログ：ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



- ③ 選択したファイル名が反映される。文字コードを選択して、「マッピング」ボタンをクリックします。

※Excel ファイル（.xlsx）を選択した場合は、文字コードの選択は不要です。

標本データ変換



入力ファイル名 C:\データ変換\_入力ファイル\specimen.xlsx 参照

文字コード

マッピング      データクリーニング      データ検証

④ 項目マッピング画面：初期表示

S-Net 項目名と入力ファイル項目名が一致した場合は、「入力ファイル項目名」へ項目名が自動的に設定されます。

一致しない場合は、手動でマッピングします。

※手動マッピングの方法：「入力ファイル項目名」のプルダウンメニューから S-Net 項目名に該当する項目名を選択します。

項目マッピング

<b>実行</b>	マッピング処理を実行し、S-Net形式のファイルを作成します。	<b>表示</b>	非表示となっている項目を全て表示します。
<b>設定保存</b>	現在のマッピング情報を保存します。	<b>非表示</b>	表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。
<b>設定読み込み</b>	保存したマッピング情報を読み込みます。	状態: 表示 <span style="float: right;">赤字: マッピング必須項目</span>	

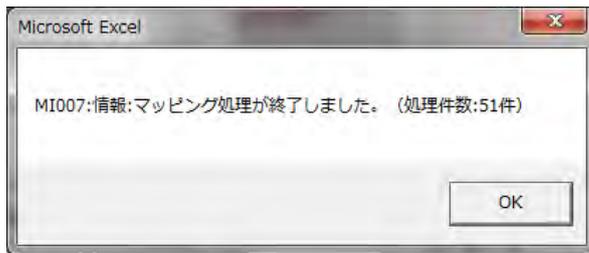
分類	S-Net項目名	データ型	項目説明	入力ファイル項目名	値の直接入力	表示項目
システム管理情報	管理ID	整数		管理ID		<input type="radio"/>
システム管理情報	データセット管理番号	整数		データセット管理番号		<input type="radio"/>
システム管理情報	登録日時	日時		登録日時		<input type="radio"/>
システム管理情報	更新日時	日時		更新日時		<input type="radio"/>
システム管理情報	グローバルユニーク番号	文字列(半角英数字)		グローバルユニーク番号		<input type="radio"/>
基本情報	データ登録日時	日時		データ登録日時		<input type="radio"/>
基本情報	GBIF公開フラグ	論理(真偽)型		GBIF公開フラグ		<input type="radio"/>
基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)		直接入力		<input type="radio"/>
基本情報	機関名	文字列(日本語可)		機関名		<input type="radio"/>
基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)		機関名(日本語)		<input type="radio"/>
基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)		機関コード		<input type="radio"/>
基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)		コレクションコード		<input type="radio"/>
基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)		カタログ番号		<input type="radio"/>
オカレンス情報	採集者番号	文字列(半角英数字)		採集者番号		<input type="radio"/>
オカレンス情報	オカレンス備考	文字列(半角英数字)		オカレンス備考		<input type="radio"/>
オカレンス情報	オカレンス備考(日本語)	文字列(日本語可)		オカレンス備考(日本語)		<input type="radio"/>
オカレンス情報	性別	文字列(半角英数字)		性別		<input type="radio"/>
オカレンス情報	性別(日本語)	文字列(日本語可)		性別(日本語)		<input type="radio"/>
オカレンス情報	生活型・世代型	文字列(半角英数字)		生活型・世代型		<input type="radio"/>
オカレンス情報	生活型・世代型(日本語)	文字列(日本語可)		生活型・世代型(日本語)		<input type="radio"/>
オカレンス情報	成熟状況	文字列(半角英数字)		成熟状況		<input type="radio"/>
オカレンス情報	成熟状況(日本語)	文字列(日本語可)		成熟状況(日本語)		<input type="radio"/>

項目マッピング画面：各ボタンの説明

No	機能	内容
1	「実行」ボタン	現在のマッピング情報を基に S-Net 形式ファイルを作成します。 ※実行後「データクリーニング」と「データ検証」が自動的に行われます。データのフォーマット等に問題があった場合は検証レポートが出力されます。
2	「設定保存」ボタン	現在のマッピング情報を保存します。 ※次回以降変換ツールを利用される場合、変換ツールのファイルを保存することによって、設定したマッピング情報を再度利用することが可能です。
3	「設定読み込み」ボタン	保存したマッピング情報を読み込みます。
4	「表示」ボタン	非表示となっている項目を全て表示します。
5	「非表示」ボタン	表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。

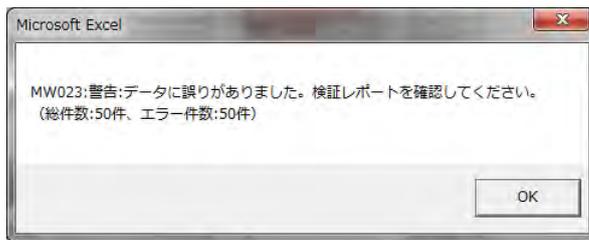
⑤ 「実行」ボタンクリック後、データクリーニングとデータ検証が行われ、（エラーデータなしの場合）S-Net 形式の登録データファイルに変換されて、完了メッセージが出力されます。

完了メッセージの出力後、登録データを保存できます。



- ⑥ 「実行」ボタンクリック後、データクリーニングとデータ検証が行われ、（エラーデータありの場合）検証レポートが作られ、エラー情報のメッセージが出力されます。

エラー情報メッセージの出力後、検証レポートが保存できます。



例) : 検証レポート出力例

エラー件数	エラー内容	管理ID	データセット管理番号	登録日時	更新日時	メッシュコード	緯度(十進数表記)	経度(十進数表記)	測地系	緯度経度換算単位	緯度経度特定に用いる標準
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.01	Seoul refer
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.02	Seoul refer
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.03	Seoul refer
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.04	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.05	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.06	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.07	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.08	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.09	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.10	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.11	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.12	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.13	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.14	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.15	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.16	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.17	Seoul refer
2	MW018 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW018 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。	910	100	2010/01/01	2010/01/01	001	35.6895	139.7611	sdneticD	1.18	Seoul refer

※1

※2

※3

No	内容
1	レコード別にエラー件数が出力されます。
2	レコード別にエラーの内容が出力されます。
3	エラーデータのセルが赤色の背景色で表示されます。

- ⑦ 検証したレポートをもとにして、データをチェックしてください。  
 なお、変換ツールでチェックできるのは、データ形式の間違い（半角数字の項目に全角文字が使用されている、など）や値の範囲の誤りなどのエラーに限られます。学名などの文字列データの項目において、綴りが間違っている、カタカナ表記にひらがなの文字が混在しているなどのエラーは検出できませんので、これらの項目のエラーについては、自己責任で管理をお願いします。

## 2.5 データクリーニング

データクリーニングでは、S-Net 形式のファイル（データ変換後の登録データの形式のファイル）に対し、各項目から余分な空白やタブなどを取り除くなどのデータのクリーニング処理を個別に行うことができます。

マッピングで出力された登録データファイルに対し変更を加えた場合には、余分な空白が増えている可能性もあります。この機能を実行すると確実にデータをクリーニングできます。なお、変更後に再度、マッピングを行う場合はマッピングでデータクリーニングとデータ検証が行われますので、個別に行う必要はありません。

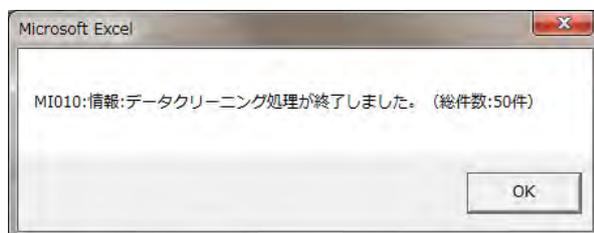
※データクリーニングで行われる処理については、「2.1 データ変換ツールについて」を参照してください。

- ① 標本データ変換：「データクリーニング」ボタンをクリックします。



- ② ファイル出力（データクリーニング済）

完了メッセージが出力され、クリーニング済みのファイルが出力されます。



## 2.6 データ検証

データ検証では、S-Net 形式のファイル（データ変換後の登録データの形式のファイル）に対し、各項目が S-Net システムの形式のフォーマットかどうか、値の範囲が正しいかなどをチェックするデータ検証を個別に行うことができます。

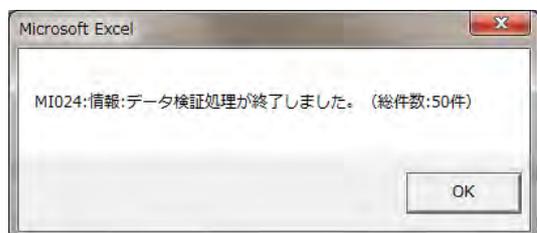
この機能はマッピングで出力された登録データファイルに対し変更を加えた場合、新たにエラーとなった項目がないかどうかチェックするのに有効です。なお、変更後に再度、マッピングを行う場合はマッピングでデータクリーニングとデータ検証が行われますので、個別に行う必要はありません。

- ① 標本データ変換画面：「データ検証」ボタンをクリックします。



- ② ファイル出力（データ検証済）

完了メッセージが出力され、エラーがある場合は検証レポートが出力されます。



検証レポートの内容については、「2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する」の⑥を参照してください。

## 2.7 データ変換における注意事項

- Microsoft Excel 2010, 2013, 2016 をご利用ください。
- データ変換ツールを使用する際は、Excel の保存形式のオプションは「Excel ブック (\*.xlsx) 」としてください。  
Excel97-2003 ブック (\*.xls) など他の形式の場合は処理が正しく行われません。
- Excel 2016 は本来の変換ツールの保証範囲外ですが、事務局においては正常に作動しました。

## 3 トラブルシューティング

### 3.1 各種トラブルと対処法

本ツール使用時にエラーメッセージが出力された場合は、以下の対処をしてください。

#### 3.1.1 メッセージレベルが「警告 (MW～:)」の場合

たとえば、標本データ変換画面で、CSV ファイルを選択し、文字コードを選択せずに「マッピング」ボタンをクリックすると、警告メッセージ「MW004:警告:文字コードを選択してください。」が出力されます。この場合、文字コードを選択して、「マッピング」ボタンをクリックしてください。

メッセージレベルが「警告」であれば、メッセージ内容に従い、再実行すれば処理は継続されます。

なお、次の原因で警告が出るのが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

**原因 1** : 拡張子が大文字 (.CSV または.XLS) の入力ファイルで「MW003:警告:拡張子が「xlsx」、「csv」のファイルを選択してください」が表示される (Ver 1.12 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生) 。

【対応】 最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

**原因 2** : 入力ファイルの項目名が S-Net 形式の項目名と異なる場合に警告メッセージ「MW020」が出力されることがあります。たとえば、「タイプ標本種別」の入力ファイル項目名に「type\_info」を指定してマッピングを行ったとき、「Paratype」のような正しいタイプ標本種別を指定しても「MW020:警告:タイプ標本種別 正しい形式で入力してください。」というエラーがでます。(Ver 1.17 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生) 。

【対応】 最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

※データ変換ツールのバージョンは最初の画面の右下でご確認いただけます。

標本データ変換

入力ファイル名  参照

文字コード

マッピング データクリーニング データ検証

Ver.1.11

### 3.1.2 メッセージレベルが「エラー (ME~:)」の場合

エラーメッセージ「ME~:エラー:~。システム管理者に連絡してください。」が出力されましたら、動作環境の情報とエラーが発生したファイルを下記の連絡先まで、お送りください。

【本ツールについての連絡先】

独立行政法人国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

E-mail : s-net\_info [at] kahaku.go.jp ([at] を@に変えてください)

#### 動作環境

- ・OSの種類 例:Windows
- ・OSのバージョン (ビット数含む) 例:7 professional(64)
- ・メモリ容量 例:8G
- ・Excelのバージョン  
例:Microsoft Office Professional 2010 バージョン:14.0.7214.5000(32ビット)
- ・データ変換ツールのバージョン 例:Ver 1.24 ※確認方法は前ページを参照

なお、次の原因でエラーが起こることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

**原因 1 :** 入力ファイルが Excel ブック形式 (.xlsx) でフィルタを使った絞り込みが行われている。

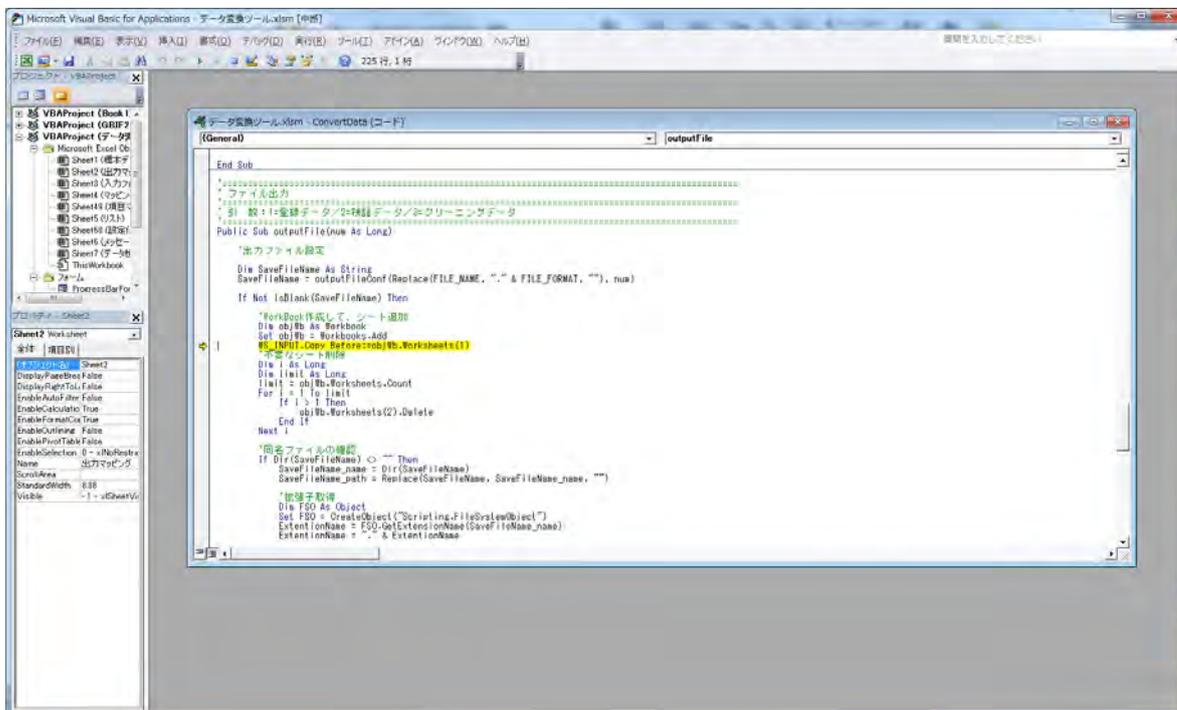
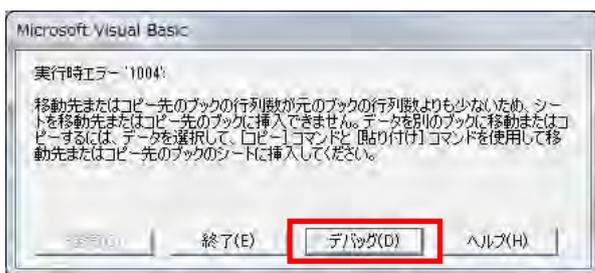
【対応】 Excel メニューの「並べ替えとフィルタ」から「クリア」を選択して、フィルタによる絞り込みを解除してください。

**原因 2 :** 入力ファイルのファイル名や上位のフォルダ名に環境依存文字や Windows 以外のコードの文字が含まれている。

【対応】 ファイル名や上位のフォルダ名を英字などの単純なものに変更してください。

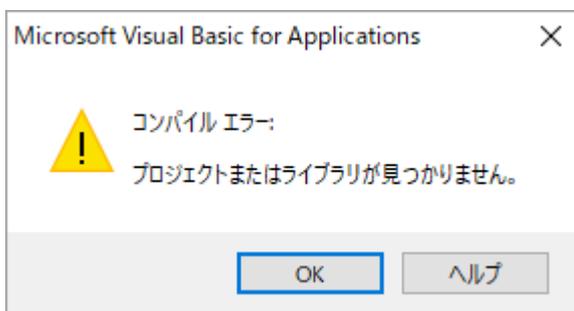
### 3.1.3 Visual Basic のエラーが発生した場合

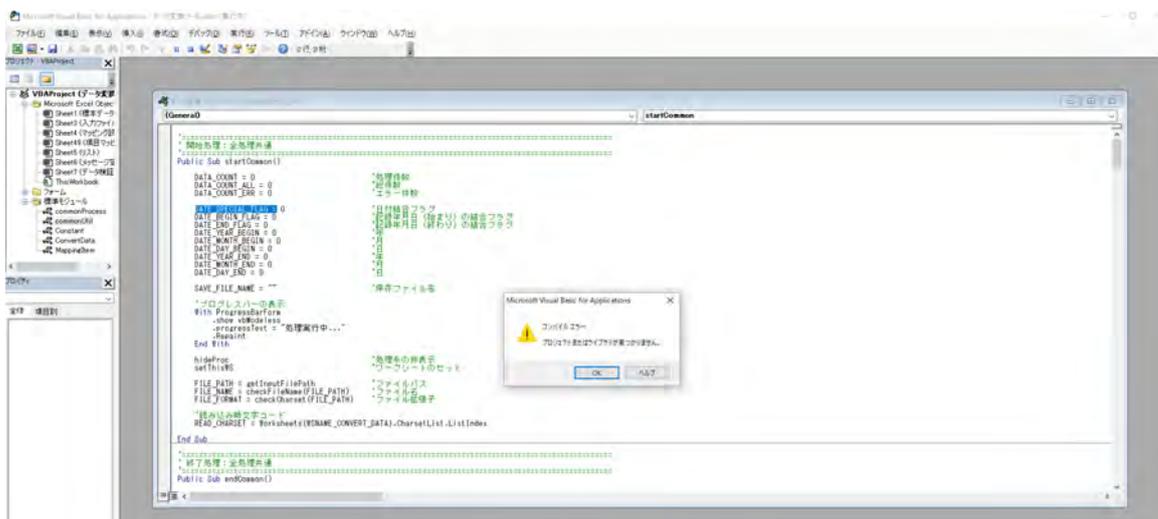
データ変換ツールは Microsoft Visual Basic というツールを使って開発されています。次のような Visual Basic のエラーメッセージが表示された場合は、「デバッグ」ボタンを選択し、表示された Visual Basic の画面のスクリーンショットを動作環境の情報とエラーの番号の情報とともに上記の連絡先まで、お送りください。



[Alt] + [Print Screen/SysRq] キーを押せばアクティブな画面のスクリーンショットがクリップボードにコピーされますので、Microsoft Word や Excel に貼り付けてファイルをお送りください。

なお、Ver 1.10 以前のバージョンのデータ変換ツールをお使いの場合、動作環境によって次のような Visual Basic のコンパイルエラーが起きることが報告されています（データ変換ツールのバージョン情報は「標本データ変換」画面の右下にあります）。このエラーが起きる場合は、**最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。**





また、次の原因でも Visual Basic エラーが起こることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

**原因 1：** Excel のオプションで保存形式が「Excel97-2003 ブック (\*.xls)」など Excel ブック (\*.xlsx) 以外の形式が指定されている。

【対応】 オプションの保存形式を「Excel ブック (\*.xlsx)」に変更してデータ変換ツールを実行してください。

**原因 2：** 入力ファイルにネットワークドライブ上のファイルを指定している。

【対応】 ネットワークドライブ上のファイルを用いると、動作が不安定になったり、登録データや検証データファイルにデータ変換ツールの画面のようなものが出力されたりすることがあります。入力ファイルはデータ変換ツールを動かす PC 上のものをお使いください。

### 3.1.4 その他のトラブル

**状況 1：** 入力ファイルに Mac 環境のファイルシステムで作成されるファイルを指定して「マッピング」を行うと、「ファイルが見つかりません」というエラーになることがあります（Ver 1.11 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生）。

【対応】最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

**状況 2：** マッピング、データクリーニングなどの処理が時間かかりなかなか終わらない。

【対応】 入力ファイルが Excel ブック形式 (.xlsx) の場合、エクセルの操作中に列や行が増えてファイルが予期せず大きくなっていることがあります。データの最後の列、最後の行をチェックし、余分な列や行が含まれている場合はその部分を削除してから、処理を再実行してください。

## 4 その他

### 4.1 S-Net 形式のデータ項目について

S-Net システムで変換後に出力されるデータ項目は以下の通りです。

データ形式の「文字列・半」は半角英数字の文字列、「文字列・日」は日本語入力可の文字列です。

それぞれの項目のデータ形式と値を確認し、正しい値を入力してください。

必須でない項目でデータがない場合は「-」、「\*」、「N/A」、「0」などを入れずに空欄としてください。

また、レコード種別、界名など決められた文字列のどれかを指定するものは、大文字・小文字、全角・半角を区別して正確に入力するようお願いいたします。

なお、すでに S-Net システムで公開されている機関やデータセットの情報は S-Net サイト (<http://science-net.kahaku.go.jp>) の「機関・データセット一覧」からご確認いただけます。

No	項目名	必須	データ形式	値
システム管理情報				
1.	管理 ID		整数	システム管理用項目
2.	登録日時		日時	システム管理用項目
3.	更新日時		日時	システム管理用項目
4.	データセット管理番号		文字列・半	システム管理用項目
5.	グローバルユニーク番号		文字列・半	システム管理用項目
基本情報				
6.	データ登録日時		日時	S-Net/GBIF 事務局管理用項目
7.	GBIF 公開フラグ ※2021年6月現在、「1：GBIFで公開する」のみが指定できます。GBIFでの非公開を希望される場合は事務局にご相談ください。	○	論理（真偽）型	0：GBIFで公開しない、1：GBIFで公開する（既定値）
8.	レコード種別 ※2021年6月現在、「PreservedSpecimen」と「FossilSpecimen」のみが指定できます。	○	文字列・半	PreservedSpecimen、FossilSpecimen、LivingSpecimen、HumanObservation、MachineObservation、MaterialSample、Occurrence のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
9.	機関名 ※S-Netサイトの機関情報を確認し、同じ英語の名称を大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	機関名の英文名称（例：National Museum of Nature and Science）
10.	機関名（日本語） ※S-Netサイトの機関情報を確認し、同じ和文の名称を正しく指定してください。	○	文字列・日	機関名の和文名称（例：国立科学博物館（植物））

11.	機関コード ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ機関コードを大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	標本の機関コード（例：TNS、NMST、KPM）
12.	コレクションコード ※S-Net サイトのデータセット情報を確認し、同じコレクションコードを大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	標本のコレクションコード（例：VS、F、AL）。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる
13.	カタログ番号	○	文字列・半	標本番号（例：153801、A1-0027）
オカレンス情報				
14.	採集者番号		文字列・半	採集者によるオリジナルの標本番号
15.	オカレンス備考		文字列・半	標本等に関する補足説明（例：found dead on the road）
16.	オカレンス備考（日本語）		文字列・日	標本等に関する補足説明（例：路上轢死体）
17.	性別		文字列・半	例：male, female
18.	性別（日本語）		文字列・日	例：オス、メス、♂、♀
19.	生活型・世代型		文字列・半	個体のライフステージ（例：juvenile, adult, sporophyte）
20.	生活型・世代型（日本語）		文字列・日	例：幼虫、成虫、孢子体
21.	成熟状況		文字列・半	例：pregnant, in bloom, fruit-bearing
22.	成熟状況（日本語）		文字列・日	例：妊娠中、開花中、結実中
23.	行動		文字列・半	採集時の個体の振る舞い（例：roosting, foraging, running）
24.	行動（日本語）		文字列・日	例：ねぐらに滞在、摂食中、走っていた
25.	生息環境		文字列・半	例：oak savanna, pre-cordilleran steppe
26.	生息環境（日本語）		文字列・日	例：ブナ林、海岸林
27.	個体群成立過程		文字列・半	例：native, introduced, invasive, naturalised, managed
28.	個体群成立過程（日本語）		文字列・日	例：土着、外来、侵略的外来、帰化、栽培、植栽
29.	処理・保存情報		文字列・半	例：fossil, cast, skin, spirit collection
30.	処理・保存情報（日本語）		文字列・日	例：化石、皮革、骨格、液浸
31.	カタログ旧番号・別番号		文字列・半	標本番号をつけ直す場合、以前の標本番号
32.	画像への外部リンク		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本の画像自体へのリンク（URL）。直接リンク可能な場合のみ入力
33.	参照リンク		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本情報の英語ページへのリンク（URL）
34.	参照リンク（日本語）		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本情報の日本語ページへのリンク（URL）
35.	文献		文字列・半	当該標本に関する文献などの外国語資料（当該種に関するものではない）

36.	文献（日本語）		文字列・日	当該標本に関する文献などの日本語資料（当該種に関するものではない）
37.	塩基配列		文字列・半	DNA シークエンスの DDBJ 等へのアクセッション番号
38.	関連分類群（ホスト情報等）		文字列・半	寄主や共生パートナーなどに関する情報（例：Fagus crenata）
39.	関連分類群（ホスト情報等）（日本語）		文字列・日	寄主や共生パートナーなどに関する情報（例：ブナ）
40.	過去の同定結果		文字列・半	過去の同定による学名。標本ラベルに書かれている学名が現在の学名と異なる場合などに記入
41.	過去の同定結果（日本語）		文字列・日	過去の同定による和名。標本ラベルに書かれている和名が現在の和名と異なる場合などに記入
42.	サンプリング方法		文字列・半	例：UV light trap, mist net
43.	サンプリング方法（日本語）		文字列・日	例：UV ライトトラップ、マレーズトラップ
44.	記録年月日（始め） ※変換元データの年月日が複数の項目に分かれている場合は、複数の項目を結合してマッピングすることもできます。 ※2021年6月現在、1800年以前の日付とデータ変換の当日以降の日付はエラーとなります。1800年以前の場合はご相談ください。			採集年月日（始め）を YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定（例：20140501）。不明な箇所は**で埋めて 8 桁に（例：196708**）。ただし、年が不明の場合は月日も"*"に（例：*****）、月が不明の場合は日も"*"に（例：1924****）。採集期間が 1 日だけの場合、記録年月日（始め）に入れる
45.	記録年月日（終わり） ※変換元データの年月日が複数の項目に分かれている場合は、複数の項目を結合してマッピングすることもできます。 ※2021年6月現在、1800年以前の日付とデータ変換の当日以降の日付はエラーとなります。1800年以前の場合はご相談ください。			採集年月日（終わり）を YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定（例：20140531）。不明な箇所は**で埋めて 8 桁に（例：196708**）。ただし、年が不明の場合は月日も"*"に（例：*****）、月が不明の場合は日も"*"に（例：1924****）
46.	記録年月日オリジナル表記		文字列・日	記録年月日をラベルに書いてある通りに書き下したもの（例：明治 26 年 1 月 23 日、1926 年 12 月、Feb 30, 1906、7.vii.1964）
47.	記録年月日に関する備考		文字列・半	年月日に関するコメント・特定方法等（例：after the recent rains the river is nearly at flood stage）
48.	記録年月日に関する備考（日本語）		文字列・日	年月日に関するコメント・特定方法等（例：宅地造成に先立って調査した）
位置情報				
49.	大陸		文字列・半	例：Africa, Antarctica, Asia, Oceania
50.	大陸（日本語）		文字列・日	例：アフリカ、南極、アジア、オセアニア
51.	水域		文字列・半	例：Indian Ocean, Baltic Sea, Hudson River
52.	水域（日本語）		文字列・日	例：インド洋、バルト海、ハドソン川
53.	島群		文字列・半	例：Alexander Archipelago

54.	島群 (日本語)		文字列・日	例: アレキサンダー諸島
55.	島		文字列・半	例: Isla Victoria
56.	島 (日本語)		文字列・日	例: ビクトリア島
57.	国 ※2021年6月から必須。	○	文字列・半	例: Japan 公海上や採集国が不明の場合は「- (半角ハイフン)」を指定。
58.	国 (日本語) ※2021年6月から必須。	○	文字列・日	例: 日本 公海上や採集国が不明の場合は「- (半角ハイフン)」を指定。
59.	国地域コード		文字列・半	国名のID。日本はJP。ISO 3166-1-alpha-2 country codes ( <a href="http://www.iso.org/iso/country_codes">http://www.iso.org/iso/country_codes</a> ) に従うことが推奨される (入力しなくてもいい)
60.	都道府県		文字列・半	例: Tokyo, Ibaraki, Kyoto 複数都道府県をまたぐ場合は「/ (半角スラッシュ)」で区切って指定。例: Yamanashi/Kanagawa
61.	都道府県 (日本語) ※2021年6月から63. 郡・市区町村 (日本語) が入力されている場合は必須。		文字列・日	例: 東京都、茨城県、京都府 複数都道府県をまたぐ場合は「/ (全角スラッシュ)」で区切って指定。例: 山梨県/神奈川県
62.	郡・市区町村		文字列・半	例: Saimtama
63.	郡・市区町村 (日本語)		文字列・日	例: さいたま市
64.	詳細地名		文字列・半	
65.	詳細地名 (日本語)		文字列・日	例: 南区辻一丁目
66.	地名オリジナル表記		文字列・日	地名のラベル表記をそのまま書き下したもの (例: 浦和市辻町一丁目 (合併前の旧住所)、武蔵国)
67.	最低海拔 ※2021年6月から9000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値 (例: 200, 2.25)。海拔に範囲がない場合、最低海拔だけに入れるか、最低海拔と最高海拔の両方に同じ値を入れる
68.	最高海拔 ※2021年6月から9000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値 (例: 400, 10.2)。最低海拔 ≤ 最高海拔となること
69.	最浅水深 ※2021年6月から12000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値 (例: 10, 1.5)。- (マイナス) は付けない。水深に範囲がない場合、最浅水深だけを入れるか、最浅水深と最深水深に同じ値を入れる
70.	最深水深 ※2021年6月から12000を超える値はエラー。		数値	メートル単位の数値 (例: 20, 4.22)。- (マイナス) は付けない。最浅水深 ≤ 最深水深となること

71.	メッシュコード ※2021年6月から桁数が4桁、6桁、8桁以外と全桁が0はエラー。		文字列・半	二次あるいは三次メッシュコード（ハイフンを除いて表記）（例：544020、54402078）
72.	緯度（十進数表記） ※2021年6月から値が0はエラー。データなしの場合は空欄としてください。		数値	正の値は北半球（北緯）、負の値は南半球（南緯）。-90以上90以下。度+分/60+秒/3600で求められる。日本の場合、おおよそ20~46の範囲
73.	経度（十進数表記） ※2021年6月から値が0はエラー。データなしの場合は空欄としてください。		数値	正の値は東半球（東経）、負の値は西半球（西経）。-180以上、180以下。度+分/60+秒/3600で求められる。日本の場合、おおよそ123~154の範囲
74.	測地系 ※何も指定しないとGBIFでは「WGS84」とみなされます。		文字列・半	例：WGS84、EPSG4326、Tokyo、Tokyo Datum。緯度・経度が旧測地系（日本測地系）の場合はTokyoまたはTokyo Datumを指定
75.	緯度経度誤差半径		数値	緯度経度の誤差。誤差を中心からの円の大きさで表した時の半径（m）。地名やメッシュコードより推定した場合は地図上の誤差、GPSで測定した場合は機器の精度を用いて指定
76.	緯度経度特定に関する備考		文字列・半	標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：assumed distance by road (Hwy. 101)）
77.	緯度経度特定に関する備考（日本語）		文字列・日	標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：国道の位置から推定；オンライン地図を利用して推定；メッシュコードより推定；GPSにて測定）
78.	地名公開レベル ※2021年6月現在、「0：住所情報は全て公開」のみが指定できます。住所情報を非公開にする場合は、62~73の項目を削除するか、121~132の該当する非公開の項目に移してください。	○	数値（コード）	0：住所情報は全て公開（既定値）、1：市区町村情報まで公開、2：都道府県情報まで公開、3：住所情報は全て非公開
79.	非公開情報に関する備考		文字列・半	公開制限している情報に関する追記（例：location information not given for endangered species）
80.	非公開情報に関する備考（日本語）		文字列・日	公開制限している情報に関する追記（例：絶滅危惧種につき地名非表示；採集地保護のため地名非表示）
81.	位置情報に関する備考		文字列・半	例：Under water since 2005
82.	位置情報に関する備考（日本語）		文字列・日	例：2005に水没
分類情報				

83.	タイプ標本種別		文字列・半	Allolectotype, Alloneotype, Allotype, Cotype, Epitype, Exepitype, Exholotype, Exisotype, Exlectotype, Exneotype, Exparatype, Exsyntype, Extype, Hapantotype, Holotype, Iconotype, Isolectotype, Isonotype, Isosyntype, Isotype, Lectotype, Neotype, Notatype, Originalmaterial, Paralectotype, Paraneotype, Paratype, Plastoholotype, Plastoisotype, Plastolectotype, Plastoneotype, Plastoparatype, Plastosyntype, Plastotype, Secondarytype, Supplementarytype, Syntype, Topotype, Type のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
84.	タクソン ID ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・半	当面使用しない
85.	学名	○	文字列・半	該当標本の学名のフルスペル。属も不明の場合は、同定できた一番下の階級（目名、科名など）を書く（例：Aspergillus oryzae、Fagus sp.、Cornaceae、Coleoptera、Anasonorhyncha x A. platyrhynchos）。雑種式は半角小文字の x（エックス）を使用
86.	カテゴリー ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・日	当面使用しない。
87.	界名（学名）	○	文字列・半	Viruses、Bacteria、Archaea、Protozoa、Chromista、Plantae、Fungi、Animalia のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
88.	界名（日本語名）	○	文字列・日	ウイルス界、真正細菌界、古細菌界、原生生物界、クロミスタ界、植物界、菌界、動物界のいずれか。全角文字で正確に入力
89.	門名（学名）		文字列・半	
90.	門名（日本語名）		文字列・日	
91.	綱名（学名）		文字列・半	
92.	綱名（日本語名）		文字列・日	
93.	目名（学名）		文字列・半	
94.	目名（日本語名）		文字列・日	
95.	科名（学名）		文字列・半	
96.	科名（日本語名）		文字列・日	
97.	属名（学名）		文字列・半	
98.	属名（日本語名）		文字列・日	
99.	亜属名（学名）		文字列・半	
100.	亜属名（日本語名）		文字列・日	

101.	種小名		文字列・半	
102.	亜種以下のタクソン		文字列・半	亜種、変種、品種などの学名。ランク自体 (subspecies, variety 等) は「分類群ランク」に書く。複数ある場合には最も下位のランクを書く
103.	分類群ランク		文字列・半	学名 ScientificName に入力された分類群名の分類ランク (例: family, species, variety)
104.	学名の著者		文字列・半	学名の著者
105.	和名		文字列・日	標準和名をひとつだけ示す (例: ペニテングタケ、ナナホシキンカメムシ、イヌブナ、カルガモ×マガモ)。雑種式は全角の× (掛け算記号) を使用
106.	同定に関する補足情報		文字列・半	未同定の場合、近縁種等の情報を書く (例: cf., affinis)
107.	同定に関する補足情報 (日本語)		文字列・日	未同定の場合、近縁種等の情報を書く (例: チャハマキに近縁な別種)
108.	分類群に関する備考		文字列・半	生物分類名に関する補足情報 (例: this name is a misspelling in common use)
109.	分類群に関する備考 (日本語) ※和名の別名や異名はこの項目に記述		文字列・日	生物分類名に関する補足情報 (例: 広く使われている誤った綴りの学名)
参考情報				
110.	備考 1 (公開,日本語)		文字列・日	上記に適切な項目のない補足的情報
非公開情報				
111.	備考 2 (非公開,日本語)		文字列・日	公開しないが、データ変換後、データ保守・管理上、項目として残しておきたいものを記載 (例: ローカル ID、受入 ID、参照番号など)
112.	備考 3 (非公開,日本語)		文字列・日	同上
113.	採集・記録者 (非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
114.	採集・記録者 (非公開,日本語) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
115.	水域 (非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 51.水域を参照。
116.	水域 (非公開,日本語) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 52.水域 (日本語) を参照。
117.	島群 (非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 53.島群を参照。
118.	島群 (非公開,日本語) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 54.島群 (日本語) を参照。
119.	島 (非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 55.島を参照。

120.	島（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 56.島（日本語）を参照。
121.	郡・市区町村（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 61.郡・市区町村を参照。
122.	郡・市区町村（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 62.郡・市区町村（日本語）を参照。
123.	詳細地名(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 63.詳細地名を参照。
124.	詳細地名(非公開)（日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 64.詳細地名（日本語）を参照。
125.	地名オリジナル表記(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 65.地名オリジナル表記を参照。
126.	最低海拔（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 66.最低海拔を参照。
127.	最高海拔（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 67.最高海拔を参照。
128.	最浅水深（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 68.最浅水深を参照。
129.	最深水深（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 69.最深水深を参照。
130.	メッシュコード（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 70.メッシュコードを参照。
131.	緯度（十進数表記）（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 71.緯度（十進数表記）を参照。
132.	経度（十進数表記）（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			住所情報を非公開にする場合に使用。 値の説明は 72.経度（十進数表記）を参照。
古生物情報				
133.	上限の推定年代（累代・累界レベル）		文字列・半	例：Phanerozoic, Proterozoic
134.	上限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）		文字列・日	例：顕生代、原生代
135.	下限の推定年代（累代・累界レベル）		文字列・半	例：Phanerozoic, Proterozoic
136.	下限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）		文字列・日	例：顕生代、原生代
137.	上限の推定年代（代・界レベル）		文字列・半	例：Cenozoic, Mesozoic
138.	上限の推定年代（代・界レベル）（日本語）		文字列・日	例：新生代、中生代

139.	下限の推定年代（代・界レベル）		文字列・半	例：Cenozoic, Mesozoic
140.	下限の推定年代（代・界レベル）（日本語）		文字列・日	例：新生代、中生代
141.	上限の推定年代（紀・系レベル）		文字列・半	例：Neogene, Tertiary, Quaternary
142.	上限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）		文字列・日	例：新第三紀、第三紀、第四紀
143.	下限の推定年代（紀・系レベル）		文字列・半	例：Neogene, Tertiary, Quaternary
144.	下限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）		文字列・日	例：新第三紀、第三紀、第四紀
145.	上限の推定年代（世・統レベル）		文字列・半	例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series
146.	上限の推定年代（世・統レベル）（日本語）		文字列・日	例：完新世、更新世
147.	下限の推定年代（世・統レベル）		文字列・半	例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series
148.	下限の推定年代（世・統レベル）（日本語）		文字列・日	例：完新世、更新世
149.	上限の推定年代（階・期レベル）		文字列・半	例：Atlantic, Boreal, Skullrockian
150.	上限の推定年代（階・期レベル）（日本語）		文字列・日	
151.	下限の推定年代（階・期レベル）		文字列・半	例：Atlantic, Boreal, Skullrockian
152.	下限の推定年代（階・期レベル）（日本語）		文字列・日	
153.	生層序帯（最下位）		文字列・半	
154.	生層序帯（最下位）（日本語）		文字列・日	
155.	生層序帯（最上位）		文字列・半	
156.	生層序帯（最上位）（日本語）		文字列・日	
157.	岩相層序名		文字列・半	
158.	岩相層序名（日本語）		文字列・日	
159.	層群		文字列・半	
160.	層群（日本語）		文字列・日	
161.	層		文字列・半	例：Notch Peak Fromation, House Limestone, Fillmore Formation
162.	層（日本語）		文字列・日	
163.	部層		文字列・半	例：Lava Dam Member, Hellnmaria Member

164.	部層（日本語）		文字列・日	
165.	単層		文字列・半	
166.	単層（日本語）		文字列・日	
命名情報				
167.	オリジナルの学名		文字列・半	標本の学名に変更があった場合の元の学名
168.	原記載		文字列・半	原記載の文献情報（例：Pearson O. P., and M. I. Christie. 1985. <i>Historia Natural</i> , 5(37): 388）
169.	原記載出版年		文字列・半	例：1931、2018
170.	オリジナルの分類群ランク		文字列・半	原記載における学名の分類ランク（例：species, variety）
171.	命名規約		文字列・半	学名が基づいている命名規約（例：ICN、ICZN）
172.	分類学的ステータス		文字列・半	学名の分類学的解釈における扱い（例：accepted, heterotypicSynonym, misapplied）
173.	命名規約上のステータス		文字列・半	学名の命名規約上の扱い（例：ambigua, illegitimum）



# 新レッドデータチェッカーをご利用ください

## ■ 主な特長

### 一致する和名でシンプルにリストをチェックします

環境省および都道府県のレッドリストから指定された和名と一致するものだけを探します。

### チェック結果にはレッドリストのランクと学名が返されます

チェックの結果として、環境省と指定した都道府県のレッドリストのランク、および、本チェッカーの辞書で使用している学名と和名が返されます。

### メールベースなので動作環境に依存しません

従来のチェッカーはエクセル上で動作しており、バージョンに影響されて動作しないことがありました。新チェッカーはメールベースで動作するため、OSやソフトウェアのバージョンに依存することなくどこからでもご利用いただけます。

## ■ 新レッドデータチェッカーの使い方

1. 問い合わせ種の**和名**と**産地(都道府県)**がリストされたCSVファイルを作成し、添付ファイルとして、メールで送信します。ファイル名は任意。本文は不要です。

送信先: [redlist\\_app\(at\)toki-pss.fmecloud.com](mailto:redlist_app@toki-pss.fmecloud.com) \*(at)は@に変えてください。

件名: 問い合わせる種の内容に合わせて以下のように設定。

件名	検索対象
red_animal	動物
red_insect	昆虫
red_plant	植物および菌類

問い合わせ用CSVファイルの例:

ファイル名は任意

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1	id	wamei	sanchi	[id]	:	任意の番号。例:「103062」、「IN-050132」										
2	1	サクラマス	北海道	[wamei]	:	和名(和名だけを全角カタカナで指定)。例:「アユ」										
3	2	ミナミメダカ	宮城県	[sanchi]	:	産地(都道府県名を指定)。例:「東京都」										
4	3	ミナミメダカ	兵庫県													
5	4	ミヤコタナゴ	千葉県													
6	5	バツラマイマイ	高知県													
7	6	ハリセンボン	山口県													

NEW 複数都道府県をまたぐ場合は「/」(全角ハイフン)で区切って指定。  
例:「宮城県/山形県」

※1~3列目にこれらのデータがあれば4列目以降は任意です。また、1行目の項目名も任意です。

2. 折返し、検索結果が[redlistapp\(at\)gmail.com](mailto:redlistapp@gmail.com)から送られてきます。問い合わせ用ファイルの最後の列以降に検索結果が表示されています。

結果のCSVファイルの例:

ファイル名は「問い合わせファイル名\_result.csv」

A	B	C	D	E	F	G	
1	id	wamei	sanchi	[環境省ランク]	[産地都道府県ランク]	[学名]	[環境省和名]
2	1	サクラマス	北海道	準絶滅危惧(N)	[北海道]留意(N)	Oncorhynchus masou masou	サクラマス(ヤマメ)
3	2	ミナミメダカ	宮城県	絶滅危惧II類(VU)	[宮城県]準絶滅危惧(N)	Oryzias latipes	ミナミメダカ
4	3	ミナミメダカ	兵庫県	絶滅危惧II類(VU)	[兵庫県]要注目	Oryzias latipes	ミナミメダカ
5	4	ミヤコタナゴ	千葉県	絶滅危惧I A類(CR)	[千葉県]最重要保護生物(A)	Tanakia tanago	ミヤコタナゴ
6	5	バツラマイマイ	高知県	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)/-	[高知県]-[高知県]絶滅危惧I類(CR+EN)	Discus pauper/Discus pauper	近畿地方以西のバツラマイマイ/バツラマイマイ

[環境省ランク] : 環境省レッドリストにおけるランク

[産地都道府県ランク]: 指定した都道府県レッドリストにおけるランク

[学名] : レッドデータチェッカーの辞書における学名

[環境省和名] : レッドデータチェッカーの辞書における学名

※照会の結果、ランクの該当がない場合は、「-」が記入されます。

※同じ和名の情報が複数見つかった場合は、「/」で区切って複数の情報が返されます。

詳しくは【参考資料B15】新レッドデータチェッカー:注意をご覧ください。

送信データに不備があれば、エラーメッセージが返信されます。エラーを修正後、再度お問い合わせください。受信されていれば、必ず何らかのレスポンスがあります。

## ■ S-Net/GBIF登録用データをチェックするには

S-Net/GBIF登録用データファイル:

A	B	K	L	M	CZ	DA	都道府県	都道府県(日本語)	都・市区町村	
1	管理ID	登録E	日 機関コード	コレクション	カタログ番	採種	学名の著	和名	都道府県	都・市区町村
2			忍舎SNHM	Aves	18676		(Gray)	オオジシギ	Miyagi	Kurihara-gun
3			忍舎SNHM	Aves	18677		(Gray)	オオジシギ	Miyagi	Ishinomaki-shi
4			忍舎SNHM	Aves	18678			チュウジシギ	Yamagata	Yonezawa-shi
5			忍舎SNHM	Aves	18679			コシヤクシギ	Yamagata	Yamagata-shi
6			忍舎SNHM	Aves	18680			シベリアオオハシシギ	Iwate	Morioka-shi

問い合わせ用CSVファイル:

最初の3列に、ID、和名、産地が、この順に書かれていることが必要です。4列目以降には情報があっても問題ありません。

A	B	C	D	E
1	カタログ番号	和名	都道府県(日本語)	
2	18676	オオジシギ	宮城県	
3	18677	オオジシギ	宮城県	
4	18678	チュウジシギ	山形県	
5	18679	コシヤクシギ	山形県	
6	18680	シベリアオオハシシギ	岩手県	

[ID] 標本番号など、そのファイル内でユニークな番号や記号。

S-Net登録用ファイルの「カタログ番号」でよい。

[和名] 全角カタカナで記された和名か、レッドリストに掲載されている和名と完全に同一の和名(例「●●のXX個体群」)。S-Net登録用ファイルの「和名」でよい。

[産地] 都道府県名。「都・道・府・県」の文字は含まれていなくても良いが、都道府県名は漢字で正確に書かれていること。S-Net登録用ファイルの「都道府県(日本語)」でよい。

問い合わせメール: 問い合わせ用CSVファイルを添付して、

[redlist\\_app\(at\)toki-pss.fmecloud.com](mailto:redlist_app(at)toki-pss.fmecloud.com) へ送付  
\*(at)は@に変えてください。



返信メール: 結果ファイルが添付されてくる



レッドデータチェッカー

結果のCSVファイル: 問い合わせ用ファイルの後ろの列にランクと学名が付加されている

A	B	C	D	E	F	G	
1	カタログ番号	和名	都道府県	[環境省ランク]	[産地都道府県ランク]	[学名]	[環境省和名]
2	18676	オオジシギ	宮城県	準絶滅危惧(NT)	[宮城県]準絶滅危惧(NT)	Gallinago hardwickii	オオジシギ
3	18677	オオジシギ	宮城県	準絶滅危惧(NT)	[宮城県]準絶滅危惧(NT)	Gallinago hardwickii	オオジシギ
4	18678	チュウジシギ	山形県	-	[山形県]-	Gallinago megala	チュウジシギ
5	18679	コシヤクシギ	山形県	絶滅危惧 I B類(EN)	[山形県]評価対象外	Numenius minutus	コシヤクシギ
6	18680	シベリアオオハシシギ	岩手県	情報不足(DD)	[岩手県]-	Limnodromus semipalmatus	シベリアオオハシシギ

## ■ レッドチェッカーの辞書について

本チェッカーの辞書は、環境省生物多様性センターより、「いきものログ」の絶滅危惧種検索に使われているレッドデータブック・レッドリストの情報を提供いただき、それを元に作成されたものです。

2021年6月現在、この辞書は環境省レッドリスト2019に対応しています。



## 新レッドデータチェッカーを使う上での注意

本システムでは、環境省から提供された環境省絶滅危惧種と各都道府県別の絶滅危惧種のデータベースを統合したデータ(以下データベース)を使用しています。本システムでは、提供データの「和名」と「都道府県」を頼りに、和名と完全に一致する絶滅危惧種リストの和名が検索されます。たいがいの場合、結果表示は理解しやすいものと思いますが、一部解釈が難しい場合がありますので、それについて解説します。

### ■本システムでの結果表示の読み方

本システムにおける検索では、システムの内部では提供データの「和名」と「都道府県」を頼りに、和名と完全に一致する絶滅危惧種リストの和名が検索されます。ですから、提供データの「●●」を検索するとき、データベースに「●●の一種」とあれば、「●●」が一致していても、無視されてしまいます。また、逆に提供データに「●●(別名××)」のように記載されていると絶滅危惧種リストの和名が「●●」あるいは「××」であれば、ヒットしません。

一方、環境省から提供される絶滅危惧種のリストの中には「○○の△△個体群」のように和名が記されている場合があります、完全一致ではヒットしないことが予想されます。そこで、事務局では「○○の△△個体群」のデータに加え、「○○」も抜き出したレコードをつくり、それを手がかりに和名の「○○」が含まれるすべてのレコードを検索し、その結果が表示されるようになっています。たとえば、「イトヨ」を検索した場合、その結果は次のようになります。

提供データ			レッドデータチェッカーの結果			
カタログ番号	和名	都道府県(日本語)	[環境省ランク]	[産地都道府県ランク]	[学名]	[環境省和名]
1195	イトヨ	福島県	- / 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)(福島県以南) / -	[福島県]情報不足(DD)(ニホンイトヨ) / [福島県]絶滅危惧 I B 類(EN) / [福島県]-	Gasterosteus aculeatus / Gasterosteus aculeatus subsp. 1 / Gasterosteus aculeatus aculeatus	イトヨ降海型 / 太平洋系陸封型イトヨ / 太平洋系降海型イトヨ

この表の意味するのは次のとおりです。

「イトヨ」そのものは環境省では絶滅危惧種として指定されていませんが、このデータベースには和名に「イトヨ」を含む次のような3つのレコードがあります。

[環境省和名]	[学名]	[環境省ランク]
イトヨ降海型	Gasterosteus aculeatus	-
太平洋系陸封型イトヨ	Gasterosteus aculeatus subsp. 1	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)(福島県以南)
太平洋系降海型イトヨ	Gasterosteus aculeatus aculeatus	-

一方、地方のレッドリストでは「イトヨ」が含まれるレコードが複数あり、これらは「イトヨ降海型」、「太平洋系陸封型イトヨ」に対応しています(福島県のレッドリストにどのような和名で掲載されていたかは分かりません)。これをもとに以下のように表示されています。

[環境省和名]	[学名]	[産地都道府県ランク]
イトヨ降海型	Gasterosteus aculeatus	情報不足(DD)(ニホンイトヨ)
太平洋系陸封型イトヨ	Gasterosteus aculeatus subsp. 1	絶滅危惧 I B 類(EN)
太平洋系降海型イトヨ	Gasterosteus aculeatus aculeatus	-

ユーザーはこれらの情報をもとに、該当種がどのようにランクされているかを確認する必要があります。

「あいまい検索」が可能になれば、このような問題は解決すると思われませんが、現状ではシステム開発に非常に経費がかかるため、現実的ではありません。

## ■ 同じ和名の異物同名

もう一つ、注意することは、同じ和名で複数の生物がいる場合です。たとえば、次の生物は要注意です。学名をチェックし、標本データと同じ種のランクを確認してください。

和名	重複する生物群	絶滅危惧のランク
ウミスズメ	魚類と鳥類	魚類は指定なし。鳥類は絶滅危惧種(環境省)、絶滅危惧Ⅱ類(Vu)(北海道)など。
イワヒゲ	被子植物と褐藻	被子植物はCランク(岩手県)など。褐藻は準絶滅危惧(茨城県)など。
ヤマドリ	魚類と鳥類	魚類は指定なし。鳥類は準絶滅危惧(NT)(山形県)など。
ハツカネズミ	哺乳類と貝類	哺乳類は指定なし。貝類は絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)(環境省)、絶滅危惧ⅠA類(CR)(愛知県)など。

他にも多数あり、いきものログにおける同名異種リスト(2015年版)として、以下にまとめられていますので、これらについては、ご注意ください。

[https://ikilog.biodic.go.jp/files/2015\\_doumeiisyu.pdf](https://ikilog.biodic.go.jp/files/2015_doumeiisyu.pdf)

## ■ 複数都道府県のランク<sup>NEW</sup>

2021年6月から都道府県を「/ (全角スラッシュ)」で区切って複数指定できるようになりました。産地都道府県ランクに複数都道府県の情報が「; (全角セミコロン)」で区切って返されます。山岳地帯や海洋での採集で複数都道府県をまたぐ場合にご利用ください。

提供データ			レッドデータチェッカーの結果			
カタログ番号	和名	都道府県(日本語)	[環境省ランク]	[産地都道府県ランク]	[学名]	[環境省和名]
AV01005	ライチョウ	長野県 / 岐阜県 / 富山県	絶滅危惧ⅠB類(EN)	[長野県]絶滅危惧ⅠB類(EN); [岐阜県]絶滅危惧Ⅰ類; [富山県]絶滅危惧Ⅰ類	Lagopus muta japonica	ライチョウ

```
id,wamei,sanchi
1,サクラマス,北海道
2,ミナミメダカ,宮城県
3,ミナミメダカ,兵庫県
4,ミヤコタナゴ,千葉県
5,パツラマイマイ,高知県
6,ハリセンボン,山口県
```

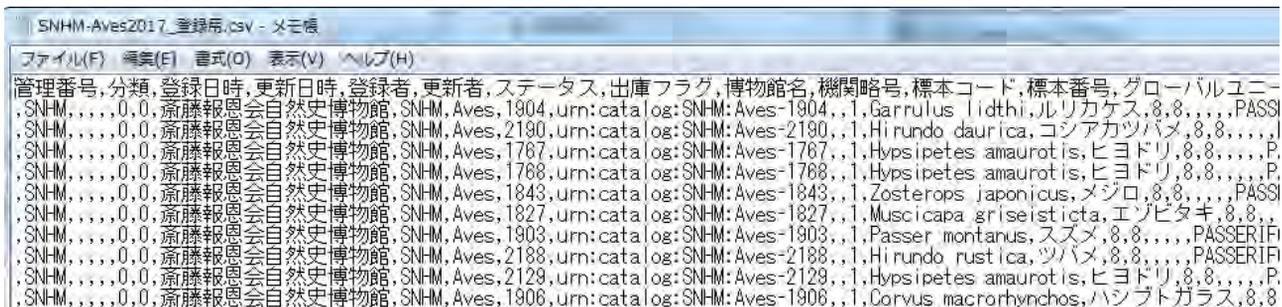


## 旧形式の登録用データを新形式に変換

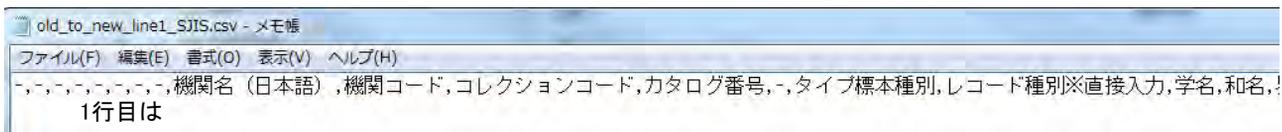
旧形式で作成した登録用データを新形式の登録用データに変換する方法です。

- ①メモ帳などで旧形式の登録用データファイルを読み込み、項目名を置換えます。

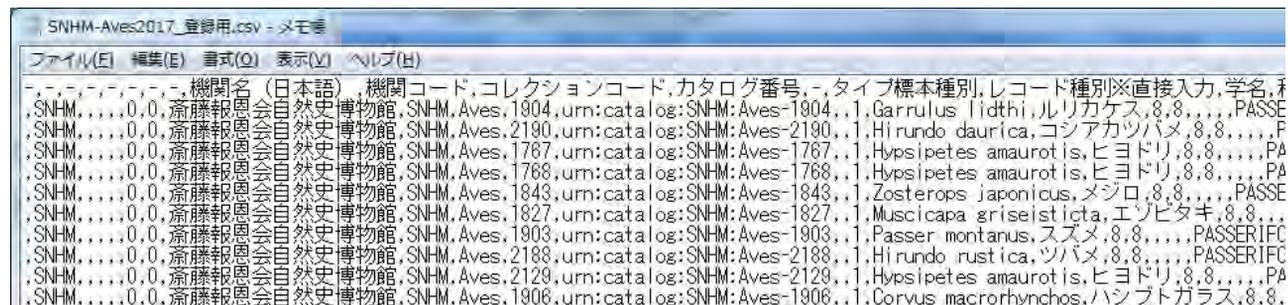
旧形式の登録データファイル(csv)をメモ帳などで開きます。



「old\_to\_new\_line1\_SJIS.csv」または「old\_to\_new\_line1\_UTF8.csv」を開き、1行目をコピーします。



旧形式の登録データファイルの1行目をコピーした行で置き換え、保存します。



補足: 2018.7版の本資料ではエクセルによる変換表を使った手順で説明していましたが、項目に「2001-5」のようなデータが含まれると「May 2001」のような日付形式に自動変換されることがあるため、csvの変換表を使って置き換える手順に変更しました(2018.9)。

- ②S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」から、「データ変換ツール」をダウンロードして解凍します。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)

- ③「データ変換ツール」を起動し、①で保存したファイルを入力ファイルに指定して、[マッピング]を選択します。

標本データ変換

入力ファイル名

文字コード

④S-Net項目名と入力ファイルの項目名を確認し、固定値を指定できる項目に値を直接入力して、新しいS-Net形式の登録ファイルを作成します。

項目マッピングの画面ではS-Net項目名と同じ名前の項目が[入力ファイル項目名]として表示されます。

項目マッピング

実行 マッピング処理を実行し、s-net形式のファイルを作成します。

設定保存 現在のマッピング情報を保存します。

設定読み込み 保存したマッピング情報を読み込みます。

表示 非表示となっている項目を全て表示します。

非表示 表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。

検索・再表示

表示するマッピングは20項目

情報群	S-Net項目名	データ型	項目説明	入力ファイル項目名	値の直接入力	表示項目
6 基本情報	データ登録日時	日時	S-Net/GBIF事務局管理用項目			
7 基本情報	GBIF公開フラグ	採種(真偽)型	0:GBIFで公開しない、1:GBIFで公開する(既定値)	GBIF公開フラグ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)	PreservedSpecimen, FossilSpecimen, LivingSpecimen, HumanObservation, MachineObservation, MaterialSample, Occurrenceのみ許可	直接入力		<input type="checkbox"/>
9 基本情報	機関名	文字列(半角英数字)	機関名の英文名称	直接入力		<input type="checkbox"/>
10 基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)	機関名の和文名称	機関名(日本語)		<input type="checkbox"/>
11 基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)	標本の機関コード(例:TNS, NMST, KPM)	機関コード		<input type="checkbox"/>
12 基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)	標本のコレクションコード(例:VS, F, AL)。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる。	コレクションコード		<input type="checkbox"/>
13 基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)	標本番号	カタログ番号		<input type="checkbox"/>
14 オカシラ情報	採集者番号	文字列(半角英数字)	採集者によるオリジナルの標本番号	採集者番号		<input type="checkbox"/>
15 オカシラ情報	オカシラ備考	文字列(半角英数字)	標本等に関する補足説明(例:found dead on the road)			<input type="checkbox"/>
16 オカシラ情報	オカシラ備考(日本語)	文字列(日本語可)	標本等に関する補足説明(例:路上隕死体)			<input type="checkbox"/>

固定値を直接入力できる項目を確認し、[入力ファイル項目名] のリストから「直接入力」を選択して、値を入力します。

項目(赤字は必須項目)

直接入力の値(例)

基本情報  
分類情報  
分類情報

9.機関名  
87.界名(学名)  
88.界名(日本語)

Saito Natural History Museum  
Animalia  
動物界

情報群	S-Net項目名	データ型	項目説明	入力ファイル項目名	値の直接入力	表示項目
6 基本情報	データ登録日時	日時	S-Net/GBIF事務局管理用項目			
7 基本情報	GBIF公開フラグ	採種(真偽)型	0:GBIFで公開しない、1:GBIFで公開する(既定値)	GBIF公開フラグ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)	PreservedSpecimen, FossilSpecimen, LivingSpecimen, HumanObservation, MachineObservation, MaterialSample, Occurrenceのみ許可	直接入力		<input type="checkbox"/>
9 基本情報	機関名	文字列(半角英数字)	機関名の英文名称	直接入力		<input type="checkbox"/>
10 基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)	機関名の和文名称	機関名(日本語)		<input type="checkbox"/>
11 基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)	標本の機関コード(例:TNS, NMST, KPM)	機関コード		<input type="checkbox"/>
12 基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)	標本のコレクションコード(例:VS, F, AL)。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる。	コレクションコード		<input type="checkbox"/>
13 基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)	標本番号	カタログ番号		<input type="checkbox"/>
14 オカシラ情報	採集者番号	文字列(半角英数字)	採集者によるオリジナルの標本番号	採集者番号		<input type="checkbox"/>
15 オカシラ情報	オカシラ備考	文字列(半角英数字)	標本等に関する補足説明(例:found dead on the road)			<input type="checkbox"/>
16 オカシラ情報	オカシラ備考(日本語)	文字列(日本語可)	標本等に関する補足説明(例:路上隕死体)			<input type="checkbox"/>
17 オカシラ情報	性別	文字列(半角英数字)	例:male, female	性別		<input type="checkbox"/>
18 オカシラ情報	性別(日本語)	文字列(日本語可)	例:オス, メス			<input type="checkbox"/>
19 オカシラ情報	生活型・世代型	文字列(半角英数字)	個体のライフステージ(例:juvenile, adult, sporophyte)	生活型・世代型		<input type="checkbox"/>
20 オカシラ情報	生活型・世代型(日本語)	文字列(日本語可)	例:幼虫, 成虫, 種子体			<input type="checkbox"/>

(中略)

80 分類情報	タイプ標本種別	文字列(半角英数字)	Allolectotype, Alloneotype, Allotype, Cotype, Epitype, Eneotype, Exholotype, Epiotype, Ectolectotype, Emneotype, Eparatype, Epiotype, Ectype, Hapantotype, Holotype, Iconotype, Isolectotype, Isoneotype, Isoeotype, Isotype, Lectotype, Neotype, Notatype, Originalmaterial, Paralectotype, Paraneotype, Paratype, Plastroholotype, Plastrotype, Plastrolectotype, Plastroeotype, Plastroparatype, Plastrotype, Plastrotype, Secondarytype, Supplementaritype, Syntype, Topotype, Typeのみ許可	タイプ標本種別		<input type="checkbox"/>
85 分類情報	学名	文字列(半角英数字)	該当標本の学名のフルスペル。属も不明の場合は、可定できた一番下の階級(属名, 科名など)を書く(例:Aspergillus oryzae, Fagus sp., Coriaceae, Coleoptera)	学名		<input type="checkbox"/>
87 分類情報	界名(学名)	文字列(半角英数字)	Viruses, Bacteria, Archaea, Protozoa, Chromista, Plantae, Fungi, Animaliaのみ許可	直接入力		<input type="checkbox"/>
88 分類情報	界名(日本語)	文字列(日本語可)	ウイルス界, 真正細菌界, 古細菌界, 原生生物界, クロミスタ界, 植物界, 菌界, 動物界のみ許可	直接入力		<input type="checkbox"/>
89 分類情報	門名(学名)	文字列(半角英数字)		門名(学名)		<input type="checkbox"/>
90 分類情報	門名(日本語)	文字列(日本語可)		門名(日本語)		<input type="checkbox"/>
91 分類情報	綱名(学名)	文字列(半角英数字)		綱名(学名)		<input type="checkbox"/>
92 分類情報	綱名(日本語)	文字列(日本語可)		綱名(日本語)		<input type="checkbox"/>
93 分類情報	目名(学名)	文字列(半角英数字)		目名(学名)		<input type="checkbox"/>
94 分類情報	目名(日本語)	文字列(日本語可)		目名(日本語)		<input type="checkbox"/>
95 分類情報	科名(学名)	文字列(半角英数字)		科名(学名)		<input type="checkbox"/>
96 分類情報	科名(日本語)	文字列(日本語可)		科名(日本語)		<input type="checkbox"/>
97 分類情報	属名(学名)	文字列(半角英数字)		属名(学名)		<input type="checkbox"/>
98 分類情報	属名(日本語)	文字列(日本語可)		属名(日本語)		<input type="checkbox"/>
99 分類情報	亜属名(学名)	文字列(半角英数字)		亜属名(学名)		<input type="checkbox"/>

[実行]を選択すると、入力ファイルの項目の値が対応付けられたS-Net項目にコピーされ、新しいS-Net形式の登録データが作成されます。

新S-Netシステム 旧形式登録データ新形式対応表

列	旧形式の項目名	新形式の項目名	備考
A	管理番号	-	
B	分類	-	
C	登録日時	-	
D	更新日時	-	
E	登録者	-	
F	更新者	-	
G	ステータス	-	
H	在庫フラグ	-	
I	博物館名	機関名(日本語)	
J	機関略号	機関コード	
K	標本コード	コレクションコード	
L	標本番号	カタログ番号	
M	グローバルユニーク番号	-	旧形式の[グローバルユニーク番号]は不要になりました。
N	タイプ標本	タイプ標本種別	
O	データ種別	レコード種別※直接入力	項目の値が変わったため、データ変換ツールで直接入力してください。
P	学名	学名	
Q	一般名	和名	
R	界名	界名※直接入力	項目の値が変わったため、データ変換ツールで直接入力してください。
S	界名(日本語)	界名(日本語)※直接入力	項目の値が変わったため、データ変換ツールで直接入力してください。
T	門名	門名(学名)	
U	門名(日本語)	門名(日本語名)	
V	綱名	綱名(学名)	
W	綱名(日本語)	綱名(日本語名)	
X	目名	目名(学名)	
Y	目名(日本語)	目名(日本語名)	
Z	科名	科名(学名)	
AA	科名(日本語)	科名(日本語名)	
AB	属名	属名(学名)	
AC	属名(日本語)	属名(日本語名)	
AD	種小名	種小名	
AE	種小名(日本語)	-	旧形式の[種小名(日本語)]は不要になりました。
AF	亜種以下のランク	分類群ランク	
AG	亜種以下のタクソン	亜種以下のタクソン	
AH	学名の命名者	学名の著者	
AI	採集者	-	
AJ	採集者(日本語)	-	
AK	採集者コード	採集者番号	
AL	採集年月日(始め)	記録年月日(始め)	
AM	採集年月日(終わり)	記録年月日(終わり)	
AN	採集場所:大陸名	大陸	
AO	採集場所:海洋・淡水域	水域	
AP	採集場所:島群名	島群	
AQ	採集場所:国	国	
AR	採集場所:国(日本語)	国(日本語)	
AS	採集場所:都道府県	都道府県	
AT	採集場所:都道府県(日本語)	都道府県(日本語)	
AU	採集場所:市区町村	郡・市区町村	
AV	採集場所:市区町村(日本語)	郡・市区町村(日本語)	
AW	採集場所:詳細	詳細地名	
AX	採集場所:詳細(日本語)	詳細地名(日本語)	
AY	採集地緯度	緯度(十進数表記)	
AZ	採集地経度	経度(十進数表記)	
BA	採集地最低海拔	最低海拔	
BB	採集地最高海拔	最高海拔	
BC	採集地最浅水深	最浅水深	
BD	採集地最深水深	最深水深	
BE	採集地公開レベル	地名公開レベル	
BF	メッシュコード	メッシュコード	
BG	性別	性別	
BH	生活型・世代型	生活型・世代型	
BI	備考1	備考1(公開,日本語)	
BJ	備考2(非公開)	備考2(非公開,日本語)	
BK	備考3(非公開)	備考3(非公開,日本語)	
BL	DBURL	参照リンク(日本語)	
BM	標本公開フラグ	-	旧形式の[標本公開フラグ]は不要になりました。
BN	GBIF公開フラグ	GBIF公開フラグ	

## 4. データ入力のためのヒント

S-Net/GBIF にデータ提供するためには、一定の書式に合わせ、国際利用のために、地名をアルファベットでも書く必要がありますが、最初からこれに合わせてデータが作成されていればともかく、すでにあるデータを編集するためには結構な手間がかかります。これらの作業をラクに進めるため、ツールが用意されています。

本章では日付や住所や学名を切り分けたり、地点から緯度経度を求めるためのツールを紹介します。

**【S-Net サイトの URL】**

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##hint](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##hint)



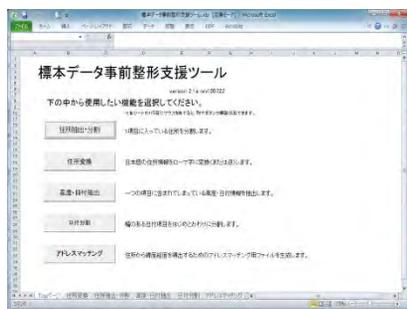


## 日付をS-Net形式(YYYYMMDDの8桁)に変換

サイエンスミュージアムネット(S-Net)のデータ事前整形支援ツールを利用して、日付を「19920824」のようなS-Netの形式にします。「1992/8/24-25」のような幅のある日付の場合は、分割してから変換します。

S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」から、「データ事前整形支援ツール」をダウンロードして解凍します。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)



Topページから、「高度・日付抽出」を選択します。

- ① 件数を入れます
- ② 左側の「日付を含む例」に日付の列をコピーして貼り付けます

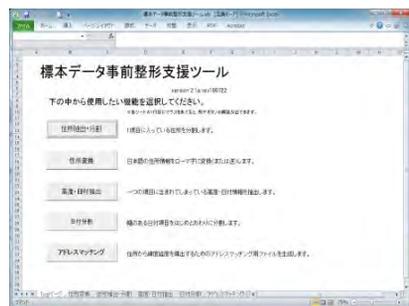
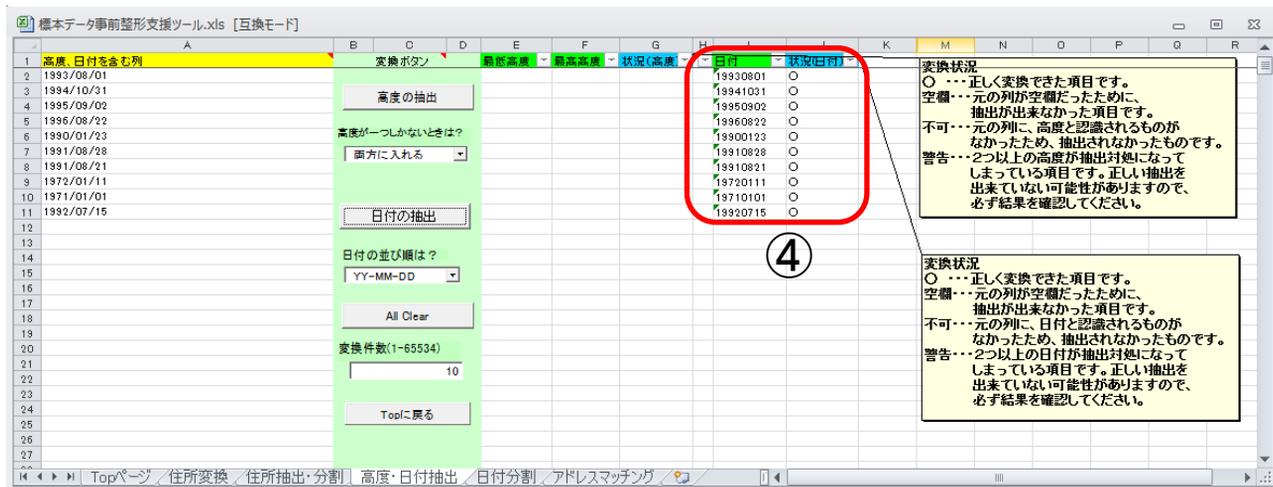
### ③ 日付の並び順を選択します

日付の並び順ごとに、下の表の形式の日付が変換できます。

エクセルの日付形式の列をコピーした場合は、並び順はどれを指定してもかまいません。

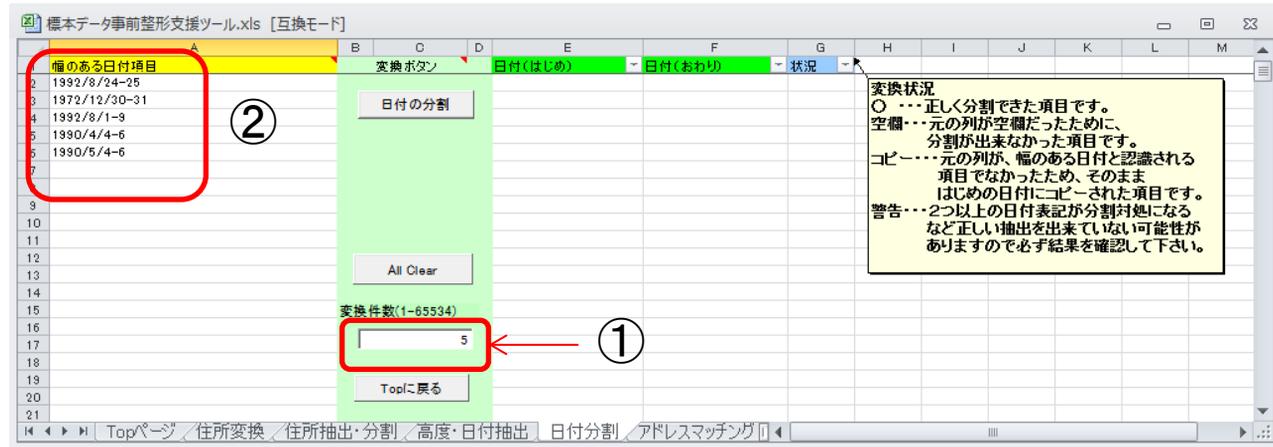
日付の並び順	形式	データ入力例
YY-MM-DD	YYYY.MM.DD	1997.4.30
	YYYY/MM/DD	1997/4/30
	YYYY年MM月DD日	1997年4月30日
	エクセルの日付形式	エクセル上の表示形式(例:1997/4/30,平成9年4月30日)
MM-DD-YY	MM DD YYYY	4 30 1997
	MM/DD/YYYY	4/30/1997
	エクセルの日付形式	エクセル上の表示形式(例:1997/4/30,平成9年4月30日)
DD-MM-YY	DD MM YYYY	30 4 1997
	DD/MM/YYYY	30/4/1997
	DD-MM-YYYY	30-4-1997
	エクセルの日付形式	エクセル上の表示形式(例:1997/4/30,平成9年4月30日)

④ 「日付の抽出」をクリックすると、S-Net形式の日付と変換状況が入ります。

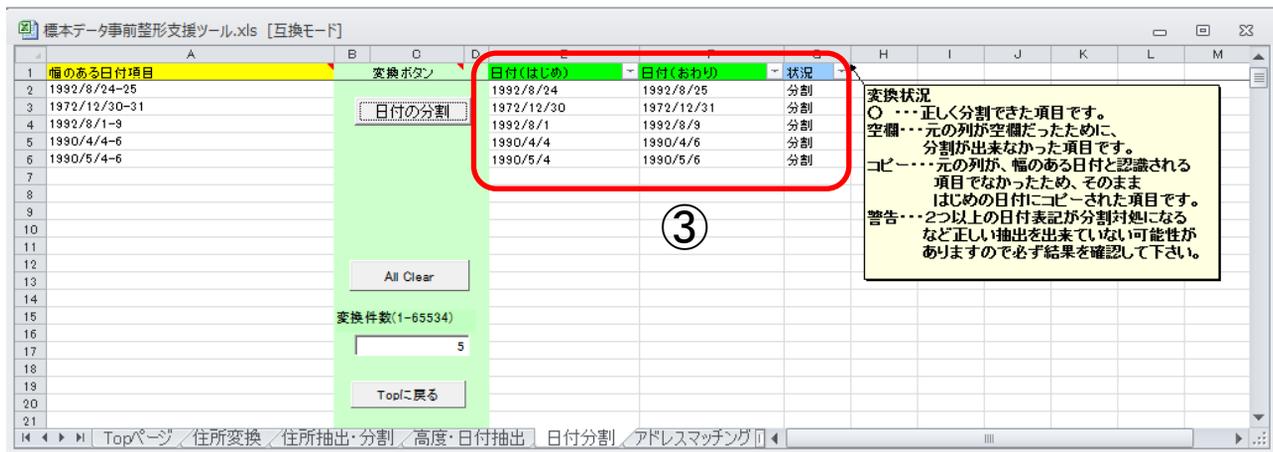


幅のある日付の場合は、「日付分割」を選択します。

- ① 件数を入れます
- ② 左側の「幅のある日付項目」に日付の列をコピーして貼り付けます



③ 「日付の分割」をクリックすると、はじめと終わりの日付と変換状況が入ります。日付の列を「高度・日付抽出」シートにコピーしてS-Net形式に変換します。



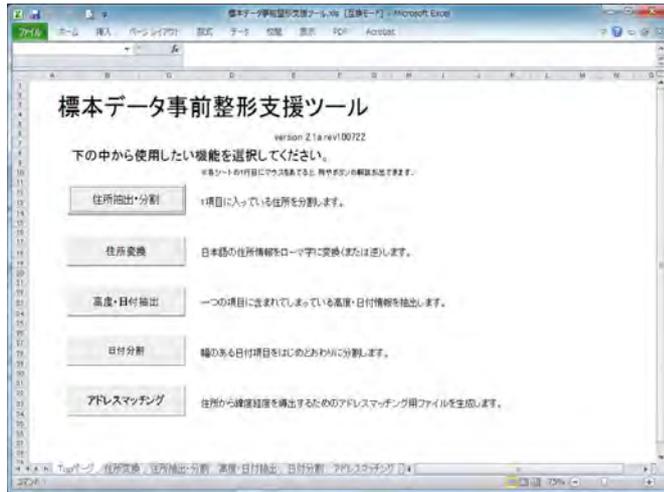


## 住所を都道府県、市区町村などに切り分け

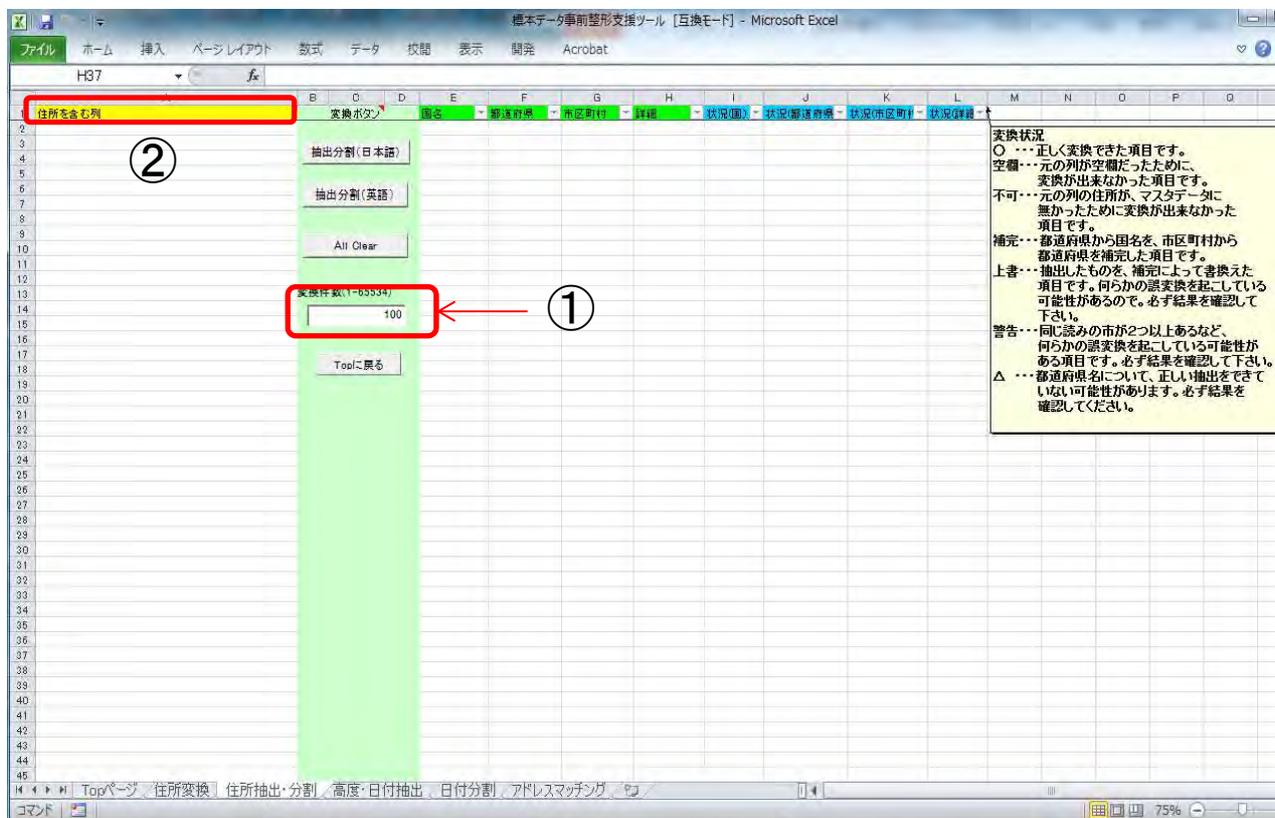
サイエンスミュージアムネット(S-Net)のデータ事前整形支援ツールを利用して、住所を分割し、都道府県、市区町村などを抽出します。

S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」から、「データ事前整形支援ツール」をダウンロードして解凍します。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)

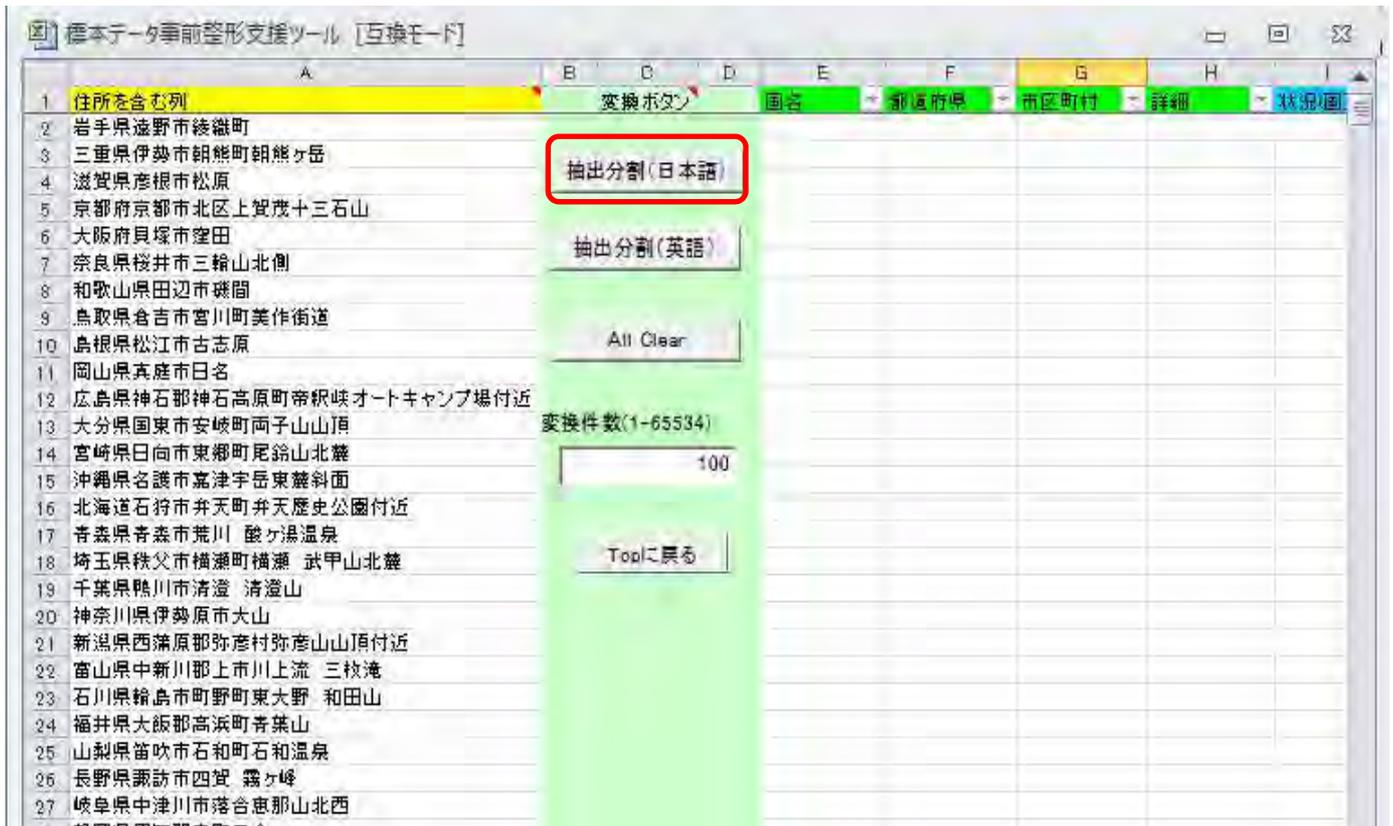


Topページから、「住所抽出・分割」を選択します。

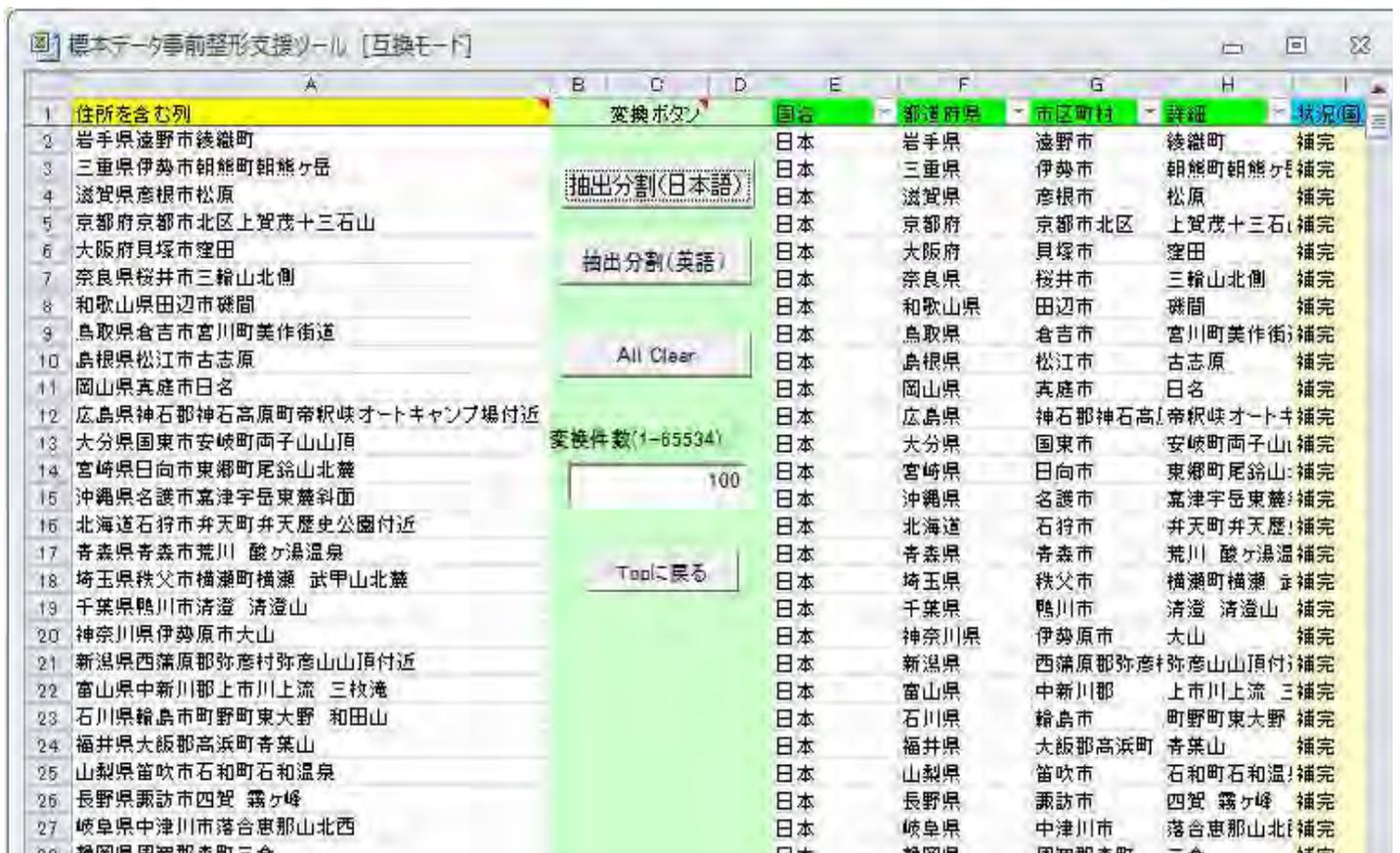


① 件数を入れます

② 左側の「住所を含む例」に、採集場所の列をコピーして貼り付けます



③ 抽出分割(日本語)をクリックすると、順に分割された結果が入ります。「日本」は補完されます。



【ご意見・ご質問の宛先】 s-net\_info(at)kahaku. go. jp

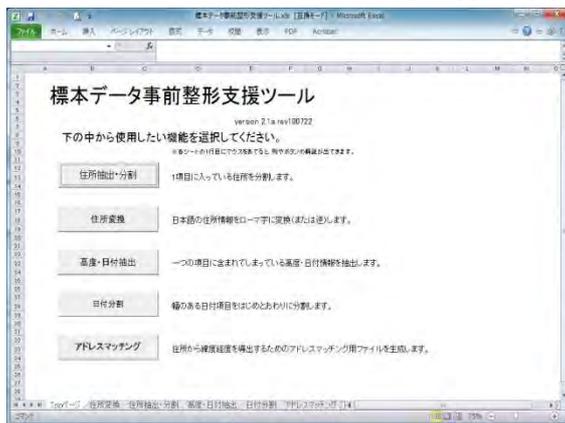


## 国・都道府県・市区町村名を英語に変換

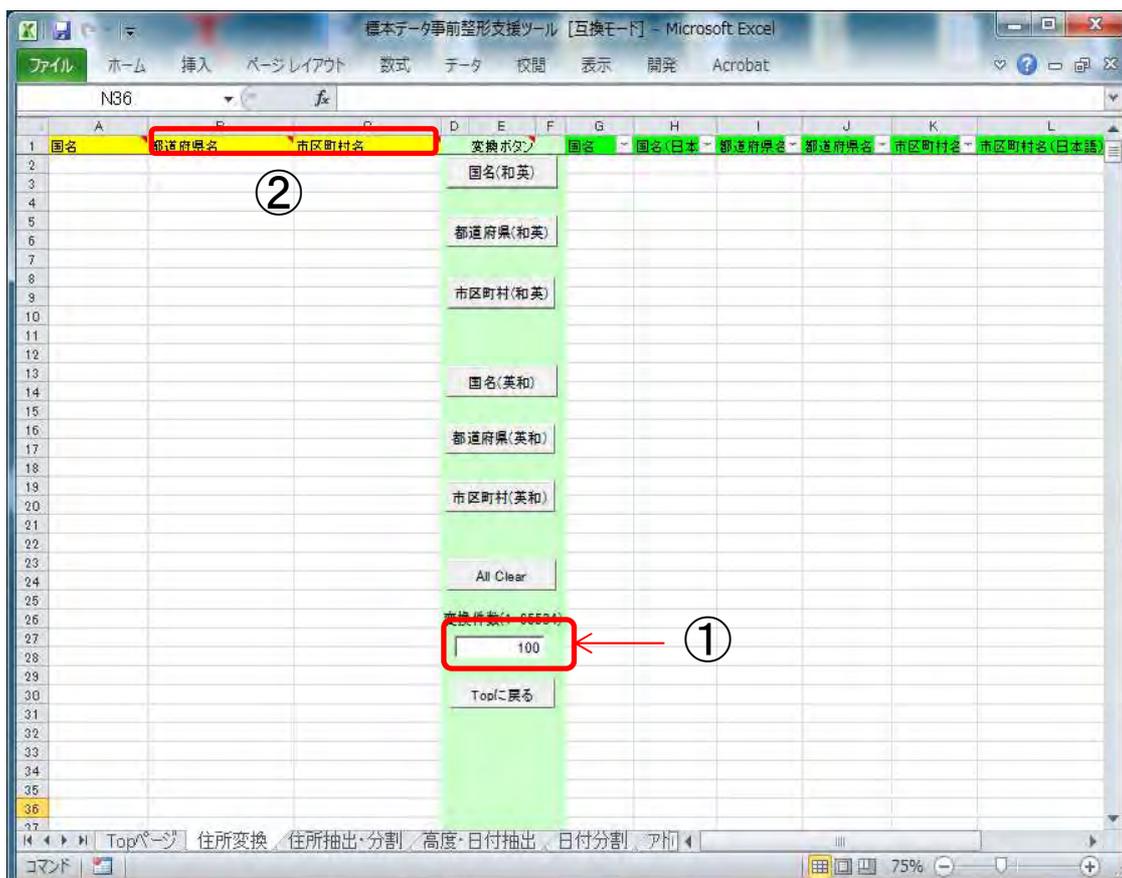
サイエンスミュージアムネット(S-Net)のデータ事前整形支援ツールを利用して、日本語の住所を英語の住所に変換します。

S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」から、「データ事前整形支援ツール」をダウンロードして解凍します。

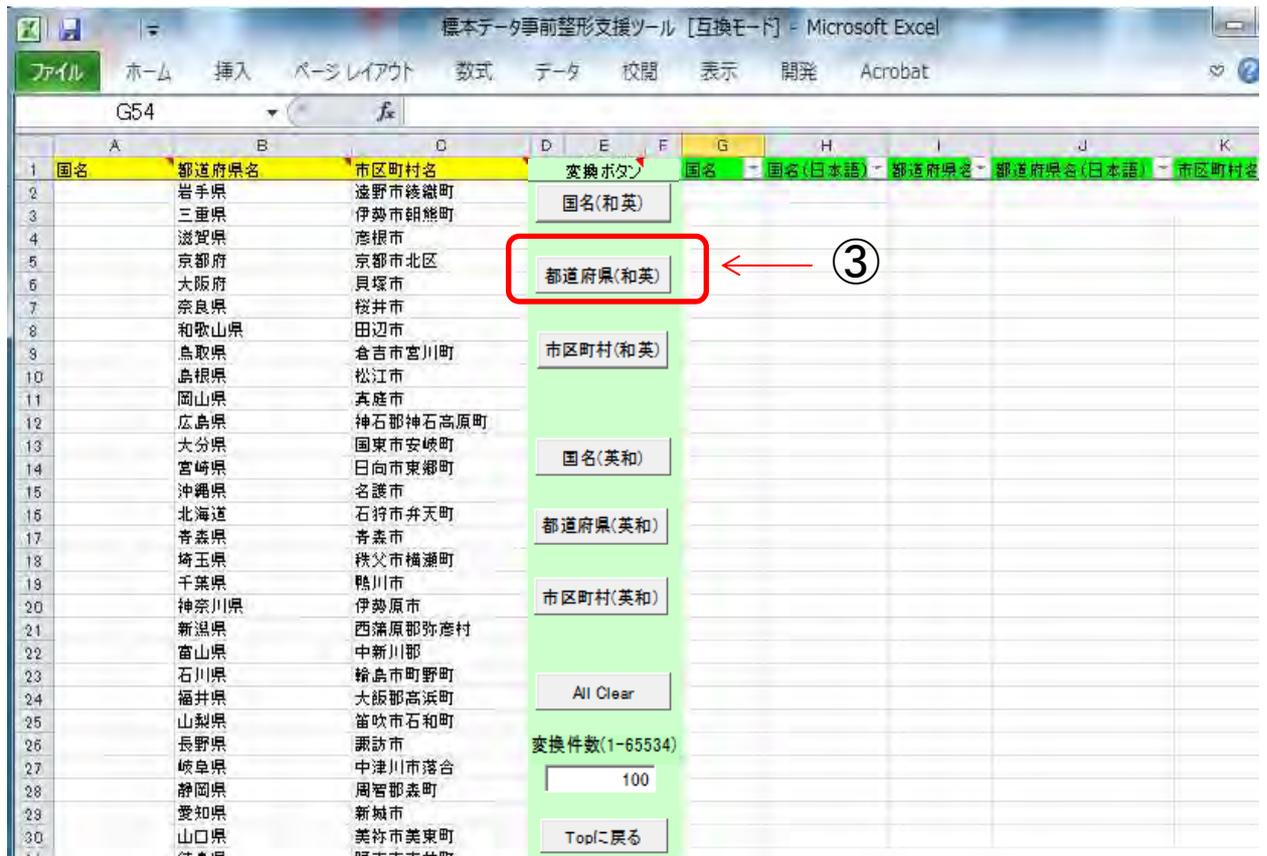
[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)



Topページから、「住所変換」を選択します。



- ① 件数を入れます
- ② 左側の「都道府県名」「市区町村名」に、それぞれの列をコピーして貼り付けます



③都道府県(和英)をクリックすると、以下のように、都道府県名の英語名があらわれます。



④次に市区町村(和英)をクリックすると、市区町村名の英語名があらわれる(市は入ることが多いが、その下の町などは訳されない場合がある)。



※ 「状況」(I列)に変換状況がでるので、警告などが出ている場合は見直して確認します。

※ 国名(和英)で国名を英語にすることもできます。

※ 英語の日本語地名を日本語にする場合、都道府県(英和)などをクリックして日本語に変換することもできます。



# 採集地点の情報から住所・緯度経度を取得

地名辞書を使って採集地点の情報から住所や緯度経度の情報を取り出します。

自然史研究のための地名辞書は、標本のラベル情報を効率的に変換するための地名検索用のサイトです。

<http://info.hitohaku.jp/loc/top.html>

「～山」や「～湖」などの自然地名から所在地の住所を確認したり、地名や地図上の位置から緯度経度情報を取り出したりすることができます。



## 【地名の検索】使い方の一例:「生駒山」の住所を調べる



# 【座標の取得】使い方の一例:「生駒山」の緯度経度を調べる

※座標の取得は、Internet Explorerのみ対応



- ① 「座標の取得」をクリック。
- ② 右の画面で、「クリック地点周辺の地名検索」を選ぶ。



③ 地図を動かして生駒山を探し、その場所をクリックすると、吹き出しに住所と緯度経度がでてる。

④ 上の結果にプラスして、周辺場所の結果が「検索結果の一覧」に示される(各住所をクリックすると、その場所が地図で示される)。

最適な行を選んで、そのままエクセルに貼り付けられる(「貼り付け先の書式に合わせる」を選んで貼付)。

検索結果の一覧			
1	日本, 奈良県生駒市菜畑町 2312-1	135.6787553	34.6786418
2	〒630-0231, 日本	135.6922456	34.6799525
3	日本, 奈良県生駒市菜畑町	135.6922456	34.6799525
4	日本, 生駒山(生駒)	135.680652	34.679569

⑤ なお、この辞書には、検索結果を自動的にエクセルに入れていくツールもある。詳しくは、トップページの「使い方」「ツールの提供」参照。

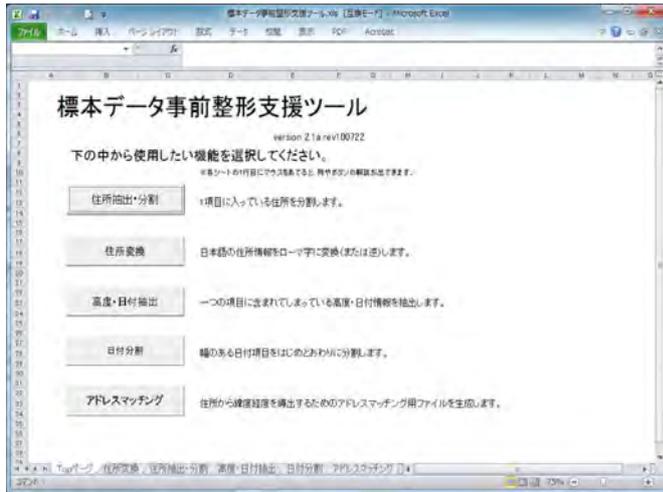


## 住所から緯度経度を取得(アドレスマッチング)

サイエンスミュージアムネット(S-Net)のデータ事前整形支援ツールとアドレスマッチングのWebサイトを利用して、全国の住所から緯度経度情報を取り出します。

- ① S-Net サイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページの「ツール・辞書」から、「データ事前整形支援ツール」をダウンロードして解凍します。

[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html)



- ② Topページから、「アドレスマッチング」を選択し、[都道府県]、[市町村]、[詳細]を入力し、[都道府県、市町村、詳細から生成]ボタンを選択して、緯度経度に変換するための入力ファイルを生成します。

※住所がまとまっている場合は[住所全部]を入力し、[住所全部から生成]ボタンを選択します。

次ページのようなファイルが生成される

住所の情報を都道府県、市区町村、それ以降にわけて入力。あるいは、住所全部をまとめて入力。

生成ボタンについて  
緯度経度の計算に用いる住所データが都道府県、市区町村、詳細の3列に分かれている場合  
→都道府県、市区町村、詳細の各列にデータを貼り付けて、「都道府県、市区町村、詳細から生成」ボタンを押してファイルを取得します。  
緯度経度の計算に用いる住所データが1列にまとまっている場合  
→住所全部列にデータを貼り付けて、「住所全部から生成」ボタンを押してファイルを取得します。

アドレスマッチングサイトについて  
1) アドレスマッチングサービスのサイトにアクセスします。  
2) 「住所を含むカラム番号」を5に設定し、変換したいファイル名に先に保存したCSVファイルを入力します。(参照から選べます。)  
3) 送信ボタンを押すとCSVファイルの保存画面が出てきますので、任意のフォルダに保存します。  
4) 保存されたCSVファイルを開くと、H列が緯度、I列が経度になっています。  
※詳細はマニュアルを参照してください。

アドレスマッチングのWebサイト  
<http://newwest21au-tokyo.go.jp/scancode-qa/scancode-qa/?action=start>

【生成されたファイル】

番号	都道府県	市区町村	詳細	住所	
1					0
2	北海道	小樽市	手宮1-3-6	北海道小樽市手宮1-3-6	0
3	北海道	帯広市	緑ヶ丘2	北海道帯広市緑ヶ丘2	0
4	北海道	網走郡美幌町	美幌253-4	北海道網走郡美幌町美幌253-4	0
5	北海道	函館市	港町3丁目1-1	北海道函館市港町3丁目1-1	0
6	北海道	札幌市北区	北10条西8	北海道札幌市北区北10条西8	0
7	北海道	釧路市	春湖台1-7	北海道釧路市春湖台1-7	0
8	青森県	弘前市	文京町3	青森県弘前市文京町3	0
9	青森県	弘前市	文京町3	弘前大青森県弘前市文京町3 弘前大学コラポ	0
10	岩手県	盛岡市	上田松屋敷	岩手県盛岡市上田松屋敷34	0
11	秋田県	秋田市	金足嶋崎	秋田県秋田市金足嶋崎後山52	0
12	山形県	山形市	霞城1月8日	山形県山形市霞城町1-8	0
13	山形県	山形市	小1丁目4-12	山形県山形市小1丁目4-12	0
14	山形県	米沢市	大字築沢1	山形県米沢市大字築沢1776-1	0
15	福島県	福島市	金谷川1番	福島県福島市金谷川1番地	0
16	茨城県	つくば市	天久保4-1	茨城県つくば市天久保4-1-1	0
17	茨城県	つくば市	天王台1-1	茨城県つくば市天王台1-1-1	0
18	茨城県	坂東市	大崎700	茨城県坂東市大崎700	0
19	栃木県	宇都宮市	睦	栃木県宇都宮市睦町2	0
20	栃木県	那須塩原市	三島5-1	栃木県那須塩原市三島5-1	0
21	群馬県	富岡市	上黒岩167	群馬県富岡市上黒岩1674-1	0
22	埼玉県	秩父郡	長瀬1417-7	埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-7	0

【注意】自然地名のマッチングについて「全国街区レベル」のアドレスマッチングでは一致する住所を探すので、「富士山」などの自然地名を交換することはできません。「数値地図25000地名」で国土院の2万5千分の1地形図上の地名とマッチングできますが、出力される緯度経度は旧測地系のため、さらに世界測地系への変換が必要です。また、一致した複数の候補から「富士山原始林」が選ばれ、期待した情報が得られないこともあります。自然地名からの緯度経度の取得する場合は「自然史研究のための地名辞書」サイトのご利用をお奨めします。

詳細は、「【参考資料B23】採集地の住所・緯度経度を取得」を参照ください

③ アドレスマッチングのWebサイトのURLにアクセスし、「CSVアドレスマッチングサービス(東京大学空間情報科学研究センター)」で国土交通省の街区レベルデータを使って世界測地系の緯度・経度情報へ変換します。

<http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode-cgi/geocode.cgi?action=start>

CSVアドレスマッチングサービス  
Geocoding service for CSV formatted file on WWW, powered by SPAT

「全国街区レベル」を選択

一致した住所地番の場所が世界測地系の緯度・経度に変換されます。

LocName、iConf、iLvlで正しく変換されたかどうかをチェックします。

LocName 一致した住所

fX 経度(10進)

fY 緯度(10進)

iConf 変換の信頼度 1,2:エラー、3:1段階一致する地名が1つ、

4:2段階以上一致する地名が複数存在、

5:2段階以上一致する地名が1つだけ存在(値が5ならばほぼ誤りなし)

iLvl 変換できた住所の階層レベル

1:都道府県、2:郡・支庁、3:市町村・23区、

4:政令市の区、5:大字、6:丁目・小字、

7:街区・地番、8:号・枝

【変換されたファイル】

[送信]を選択して変換ファイルを出力

番号	都道府県	市区町村	詳細	住所	LocName	fX	fY	iConf	iLvl
1									
2	北海道	小樽市	手宮1-3-6	北海道小樽市手宮1-3-6	0 北海道/小樽市/手宮/一丁目/3番	141.0003	43.21133	5	7
3	北海道	帯広市	緑ヶ丘2	北海道帯広市緑ヶ丘2	0 北海道/帯広市/緑ヶ丘/2番地	143.1864	42.90552	4	7
4	北海道	網走郡美幌町	美幌253-4	北海道網走郡美幌町美幌253-4	0 北海道/網走郡/美幌町/美幌/253番地	144.0885	43.83618	5	7
5	北海道	函館市	港町3丁目1-1	北海道函館市港町3丁目1-1	0 北海道/函館市/港町/三丁目/1番	140.7189	41.80878	5	7
6	北海道	札幌市北区	北10条西8	北海道札幌市北区北10条西8	0 北海道/札幌市/北区/北10条西	141.3526	43.07353	5	5
7	北海道	釧路市	春湖台1-7	北海道釧路市春湖台1-7	0 北海道/釧路市/春湖台/1番	144.4078	42.9772	5	7
8	青森県	弘前市	文京町3	青森県弘前市文京町3	0 青森県/弘前市/文京町/3番	140.4735	40.58708	5	7
9	青森県	弘前市	文京町3	弘前大青森県弘前市文京町3 弘前大学コラポ	0 青森県/弘前市/文京町/3番	140.4735	40.58709	5	7
10	岩手県	盛岡市	上田松屋敷	岩手県盛岡市上田松屋敷34	0 岩手県/盛岡市/上田/松屋敷/34番地	141.1154	39.7595	5	7
11	秋田県	秋田市	金足嶋崎	秋田県秋田市金足嶋崎後山52	0 秋田県/秋田市/金足嶋崎/後山	140.0694	39.81677	5	6
12	山形県	山形市	霞城1月8日	山形県山形市霞城町1-8	0 山形県/山形市/霞城町/1番	140.3282	38.25547	5	7
13	山形県	山形市	小1丁目4-12	山形県山形市小1丁目4-12	0 山形県/山形市/小1丁目/4番	140.3499	38.24631	5	7
14	山形県	米沢市	大字築沢1	山形県米沢市大字築沢1776-1	0 山形県/米沢市/築沢	140.0403	37.88423	5	5
15	福島県	福島市	金谷川1番	福島県福島市金谷川1番地	0 福島県/福島市/金谷川/1番地	140.454	37.68288	5	7
16	茨城県	つくば市	天久保4-1	茨城県つくば市天久保4-1-1	0 茨城県/つくば市/天久保/四丁目/1番	140.1103	36.10072	5	7
17	茨城県	つくば市	天王台1-1	茨城県つくば市天王台1-1-1	0 茨城県/つくば市/天王台/一丁目/1番地	140.1006	36.10872	5	7

※iConf, iLvlの詳細は下記URLの「iConf, iLvlの意味」を参照

[http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/modules/addmatch/index.php?content\\_id=7](http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/modules/addmatch/index.php?content_id=7)

【ご意見・ご質問の宛先】 [s-net\\_info@kahaku.go.jp](mailto:s-net_info@kahaku.go.jp)



## 英語での自然地形などの入力例

英語で自然地形などを入力する際の参考としてご利用ください。

自然地形など	入力の仕方	入力例
山	Mt. xxx	Mt. Tsukuba-san, Mt. Yarigatake of Mts. Hida-sanmyaku
山地	Mts. xxx	Mt. Dogo-san of Mts. Chugoku-sanchi
山麓	foot of Mt. xxx	E foot of Mt. Fuji-san
中腹	Mountainside of Mt. xxxxx	Mountain side of Mt. Tateyama
斜面	on the slope of Mt. xxxxx	on the slope of Mt. Kabuto-yama
頂上	on the summit (top) of	on the summit of Mt. Takanawa-yama
小屋	lodge	near the xxx lodge of Mt. Shirane-san
～合目	station	7th station
登山道	trail	On trail from starting point to to the xxx shrine
道沿い	along the way	along the way from xxx station to xxx post office
峠	xxx mountain pass	Ningyo-toge mountain pass
高原	xxxx highland	Shiga-kogen highland
郊外	vicinity of xxx	vicinity of Tokyo
川 (小川)	river, (stream)	
河口	river mouth; estuary of the xxx river	right bank of the estuary of Niyodo-gawa river
上流	upstream of the xxxriver	
中流	middle stream of th river	
下流	downstream of the xxx river	
水源	waterhead of the xxx river	
右 (左) 岸	right (left) bank of the xxx river	left bank of the Yodo-gawa river
橋	bridge	Togetsu-kyo bridge
谷・溪谷	xxxx valley	Momijidani valley
滝	xxxx water fall	Kegon-no-taki waterfall
池	xxx pond	
湖	xxx lake	Biwa-ko lake
沼	xxx swamp	Ohnuma swamp
xx湖 湖畔	lakeside of xxx lake	
温泉	xxxx hot spring	
貯水池	water reservoir	
湿原	wetland	
岬	cape xxx	cape Muroto-misaki
半島	xxx peninsular	Boso-hanto peninsular
島	xxx Island	Yakushima Island
諸島	xxx Islands	Bonin Islands
海岸	xxx coast, xxx seashore	Shirato-kaigan coast
波打ち際	on the edge of the water	
湾	xxx bay	Tokyo bay
港	xxx harbor	Sakaiminato harbor
～沖	off xxx	Off the coast of Shirahama; off Owase
公園	xxx park	Hibiya-koen park
神社	xxx shrine	Suwa-jinja shrine
寺	xxx temple	Todaiji temple
牧場	pasture (land)	
墓地	cemetery	
高茎草本内	among tall herbs	
草地	grassland	
空き地	vacant lot, empty land	
(～大学)演習林	Experimental Forest (of xxx Univ.)	Tomakomai Experimental Forest
発電所	Power station	

自然地形など	入力の仕方	入力例
石灰岩上	on calcareous rocks	
花崗岩上	on granite	
砂上	on sandy soil	
土上	on soil	
茅葺き(屋根)の上	on straw-thatch(ed roof)	
小枝上	on twigs	
樹皮上	on bark of	on bark of <i>Fagus crenata</i>
幹の上	on trunks of trees	
朽木の上	on rotten tree	
林床	under the forest, on the forest floor	
森林帯	in the forest zone	
～林内	in the forest of ～	
常緑広葉樹林	broad-leaved evergreen forest	
照葉樹林	lucidophyllous forest	
落葉樹林	deciduous forest	
針葉樹林	coniferous forest	
亜熱帯林	subtropical forest	
マングローブ林	mangrove forest	
カシ林	<i>Quercus</i> forest	
ブナ林	<i>Fagus crenata</i> forest	
アカマツ林	<i>Pinus densiflora</i> forest	
モミ林	<i>Abies firma</i> forest	
ハンノキ林	<i>Alnus</i> forest	
スギ・ヒノキ林	<i>Cryptomeria-Chamaecyparis</i> forest	
シラカバ林	<i>Betula platyphylla</i> forest	
エゾマツ・トドマツ林	<i>Abies-Picea</i> forest	
〇〇山～××峠	En route between ～	En route between Mt. Mikuni-yama to Jumonji-touge pass
標高、高さ〇m	Elevation 〇m	On the slope at elevation 800 m; elevation ca 200 m
東西南北	N, E, W, S	N foot of Mt. Asama-yama



## 日本の主な島の住所

採集地が島の場合に、島名から住所を入力する際の参考としてご利用ください。

**利尻島** 北海道宗谷支庁、島の東半は利尻富士町、西半は利尻町に属する。

**礼文島** すべて、北海道宗谷支庁礼文郡礼文町

**奥尻島** すべて、北海道檜山支庁奥尻郡奥尻町

**佐渡島** すべて、新潟県佐渡市

**伊豆諸島** すべて、東京都

大島＝大島町、利島＝利島村、新島、式根島など＝新島村、神津島など＝神津島村

三宅島など＝三宅村、御蔵島など＝御蔵島村、八丈島、八丈小島など＝八丈町

青ヶ島＝青ヶ島村

**小笠原諸島** すべて、東京都小笠原村

**淡路島** 兵庫県（北から）淡路市・洲本（すもと）市・南あわじ市のどれかに入る。

**小豆島** すべて、香川県小豆郡（しょうずぐん）（小豆島町か土庄町（とのしょうちょう）のどちらか）。

**隠岐諸島**（隠岐の島ほか）島根県隠岐郡

**壱岐** 長崎県壱岐市

**対馬** すべて長崎県対馬市

**五島列島** すべて長崎県

宇久島、寺島 佐世保市

小値賀島、黒島、大島、斑島、納島、六島、野崎島……北松浦郡小値賀町

中通島、頭ヶ島、桐ノ小島、若松島、漁生浦島、有福島、日島……南松浦郡新上五島町

奈留島、前島、久賀島、蘇小島、椛島、福江島、赤島、黄島、黒島、島山島、嵯峨ノ島……五島市

**天草**

下島、下須島、産島、横島、通詞島……熊本県天草市

大矢野島、維和島、湯島、野釜島、野牛島、樋合島、永浦島、前島、瀬島、中島、高杣島、樋島、御所浦島、牧

島、横浦島……熊本県上天草市

上島……熊本県天草市か上天草市

長島、獅子島、諸浦島、伊唐島……鹿児島県

**甬島列島** すべて鹿児島県薩摩川内市

**種子島** 鹿児島県、西之表市か、熊毛郡（中種子町、南種子町）のどちらか。

**屋久島** 鹿児島県熊毛郡屋久島町

**トカラ列島**（中之島、口之島 平島 諏訪之瀬島 悪石島 宝島等）すべて鹿児島県鹿児島郡十島村

**奄美大島** 鹿児島県 奄美市（旧名瀬市＋住用村＋笠利町合併）か、大島郡（龍郷村、大和村、宇検村、瀬戸内町）のどちらか（湯湾岳は大島郡）。

**徳之島** すべて鹿児島県大島郡（徳之島町、伊仙町、天城町の3町）

**沖縄島**

北部（名護市 国頭郡）、中部（沖縄市 浦添市 宜野湾市 うるま市 中頭郡）、

南部（那覇市 豊見城市 糸満市 南城市 島尻郡）

**宮古島** 沖縄県宮古島市

**石垣島** 沖縄県石垣市

**西表島** 沖縄県八重山郡竹富町

\* 竹富町の中には、西表島、竹富島、小浜島、黒島、波照間島などが入る。

西表島：西表（いりおもて）上原（うえはら）古見（こみ）687番地のみ由布島

崎山（さきやま）高那（たかな）南風見（はいみ）南風見仲（はいみなか）

他の島々

竹富（たけとみ・竹富島）小浜（こはま・小浜島）黒島（くろしま・黒島）

新城（あらぐすく・新城島）505番地のみ下地島、あとは上地島 鳩間（はとま・鳩間島）波照間（はてるま・波照間島）

**与那国島** 沖縄県八重山郡与那国町

## 【沿岸地名辞書】

この沿岸地名辞書は1982年(昭和57年)に出版された「日本沿岸地名表(海上保安庁水路部編)」に基づいて、国立科学博物館のSnetチームが作成しました。Snetチームは「日本沿岸地名表」に収録されていた地名や緯度経度データを電子化して沿岸地名辞書を作成しました。

沿岸地名辞書には湾や岬、島などの位置、地名の読み(訓令式のローマ字表記)、都道県名、緯度経度(日本測地系)等が収録されています。地名が特殊な漢字によって表記されている場合には、その漢字を「\*」で示し、その漢字の表記について沿岸地名辞書の備考欄に簡潔な説明を付しました。

沿岸地名辞書はダウンロードして自由に使うことができますが、以下の点にご注意下さい。

使用上の注意：データの作成に際しては正確を期すように努めましたが、変換した電子データに誤りがある可能性もあります。また、「日本沿岸地名表」が刊行されたのが昭和57年であり、現在の地名などと合致していない箇所がある可能性もあります。この地名辞書を使用することによって使用者に不利益や問題が生じても責任は負いませんので、その点をご了解の上、ご使用下さい。

沿岸地名辞書を利用して作成した成果物を公表・転載・引用する際は、出典が「日本沿岸地名表」であることを明記して下さい。

問い合わせ先：s-net\_info(at)kahaku.go.jp



## 生物リストを使って和名を調べ学名を取得

日本産の生物リストを使って和名から学名を取り出します。

まず、該当する種が含まれる日本産生物のリストを入手します。

例えば維管束植物を調べる場合、エクセル表形式の学名和名対照表をグリーンリスト(<http://www.rdplants.org/gl/index.html>) からダウンロードします。

- ① 学名和名対照表をエクセル表に貼り付ける。例えば、E列に和名、F列に学名が来るようにする。
- ② 入力した和名(セリ、ナズナ...)を元の表から列ごとコピーして、例えばB列に入れる。
- ③ C列2行目のセルに以下の式を入れる  

$$=VLOOKUP(B2, \$E\$2: \$F\$32568, 2, FALSE)$$

この式は、B2のセルに入力された和名を、Eの2行目からFの32568行目までの範囲(下図の緑の枠)の中から探して、B2のセルの和名に該当する学名を、緑の枠の範囲の2列目の学名から選んでC2のセルに入れろ、という意味。\$(半角ドルマーク)は参照範囲をずらさないようにするための記号。FALSEは、「完全一致するものを探せ」という意味。

	A	B	C	D	E	F
1		入力した和名			和名	学名
2		セリ	=VLOOKUP(B2,\$E\$2:\$F\$32568,2,FALSE)		カロリナアオイゴケ	Dichondra carolinensis Michx.
3		ナズナ			ヤエヤマコウモリシダ	Thelypteris x pseudoliukiensis Seriz.
4		オミナエシ			アイアシ	Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi
5		キキョウ			アイアスカイノデ	Polystichum longifrons Sa.Kurata
6		アサガオ			アイイズハナワラビ	Botrychium x longistipitatum (Sahashi) K.Iwats, nom. nud.
7		クズ			アイイヌタマシダ	Dryopteris x yamashitae Sa.Kurata
8		ススキ			ケイタオフウラン	Thrixspermum pricei (Rolfe) Schltr.
9		ナンテンハギ			アイオオカグマ	Woodwardia x intermedia H.Christ
10					アイカタインデ	Polystichum x iidanum Sa.Kurata
11					アイグロマツ	Pinus x densi-thunbergii Uyeki
12					オオバヤシャゼンマイ	Osmunda lancea Thunb. var. latipinna Tagawa
13					アイズシモツケ	Spiraea chamaedryfolia L. var. pilosa (Nakai) H.Hara
14					アイズヒメアザミ	Cirsium aidzuense Nakai ex Kitam.
15					アイツヤナシノデ	Polystichum x amboversum Sa.Kurata

- ④ C2に上のように式を入れて、Enterキーを押すと、C2にセリの学名が入る。

	A	B	C	D	E	F
1		入力した和名			和名	学名
2		セリ	Oenanthe javanica (Blume) DC.		カロリナアオイゴケ	Dichondra carolinensis Michx.
3		ナズナ			ヤエヤマコウモリシダ	Thelypteris x pseudoliukiensis Seriz.
4		オミナエシ			アイアシ	Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi
5		キキョウ			アイアスカイノデ	Polystichum longifrons Sa.Kurata
6		アサガオ			アイイズハナワラビ	Botrychium x longistipitatum (Sahashi) K.Iwats, nom. nud.
7		クズ			アイイヌタマシダ	Dryopteris x yamashitae Sa.Kurata
8		ススキ			ケイタオフウラン	Thrixspermum pricei (Rolfe) Schltr.
9		ナンテンハギ			アイオオカグマ	Woodwardia x intermedia H.Christ
10					アイカタインデ	Polystichum x iidanum Sa.Kurata
11					アイグロマツ	Pinus x densi-thunbergii Uyeki

⑤ C2を次以降の行にコピー(学名を入りたい範囲を選んで、Ctrlを押しながらDを押すなど)。

	A	B	C	D	E	F
1		入力した和名		和名	学名	
2		ゼリ	Oenanthe javanica (Blume) DC.	カロリナアオイゴケ	Dichondra carolinensis Michx.	
3		ナズナ		ヤエヤマコウモリシダ	Thelypteris × pseudoliukiensis Seriz.	
4		オミナエシ		アイアシ	Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi	
5		キキョウ		アイアスカイノデ	Polystichum longifrons Sa.Kurata	
6		アサガオ		アイイズハナワラビ	Botrychium × longistipitatum (Sahashi) K.Iwats., nom. nud.	
7		クズ		アイイヌタマンダ	Dryopteris × yamashitae Sa.Kurata	
8		ススキ		ケイタオブウラン	Thrixspermum pricei (Rolfe) Schltr.	
9		ナンテンハギ		アイオオカグマ	Woodwardia × intermedia H.Christ	
10				アイカタイノデ	Polystichum × iidanum Sa.Kurata	
11				アイグロマツ	Pinus × densi-thunbergii Uyeki	
12				オオバヤシヤゼンマイ	Osmunda lancea Thunb. var. latipinna Tagawa	
13				アイズシモツケ	Spiraea chamaedryfolia L. var. pilosa (Nakai) H.Hara	
14				アイブヒメアザミ	Cirsium sidzuanense Nakai ex Kitaw.	

⑥ 全部の和名に対して学名が入ったところ。和名はたくさんあっても同じように入れられる。

	A	B	C	D	E	F
1		入力した和名		和名	学名	
2		ゼリ	Oenanthe javanica (Blume) DC.	カロリナアオイゴケ	Dichondra carolinensis Michx.	
3		ナズナ	Capsella bursa-pastoris (L.) Medik.	ヤエヤマコウモリシダ	Thelypteris × pseudoliukiensis Seriz.	
4		オミナエシ	Patrinia scabiosifolia Fisch. ex Trevir.	アイアシ	Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi	
5		キキョウ	Platycodon grandiflorus (Jacq.) A.DC.	アイアスカイノデ	Polystichum longifrons Sa.Kurata	
6		アサガオ	Ipomoea nil (L.) Roth	アイイズハナワラビ	Botrychium × longistipitatum (Sahashi) K.Iwats., nom. nud.	
7		クズ	Pueraria lobata (Willd.) Ohwi	アイイヌタマンダ	Dryopteris × yamashitae Sa.Kurata	
8		ススキ	Miscanthus sinensis Andersson	ケイタオブウラン	Thrixspermum pricei (Rolfe) Schltr.	
9		ナンテンハギ	Vicia unijuga A.Braun	アイオオカグマ	Woodwardia × intermedia H.Christ	
10				アイカタイノデ	Polystichum × iidanum Sa.Kurata	
11				アイグロマツ	Pinus × densi-thunbergii Uyeki	

⑦ 学名を列ごとコピーして、もとの表に貼り付ける。この時、「形式を選択して貼り付け」を選び、「値の選択」を選んで貼り付ける。

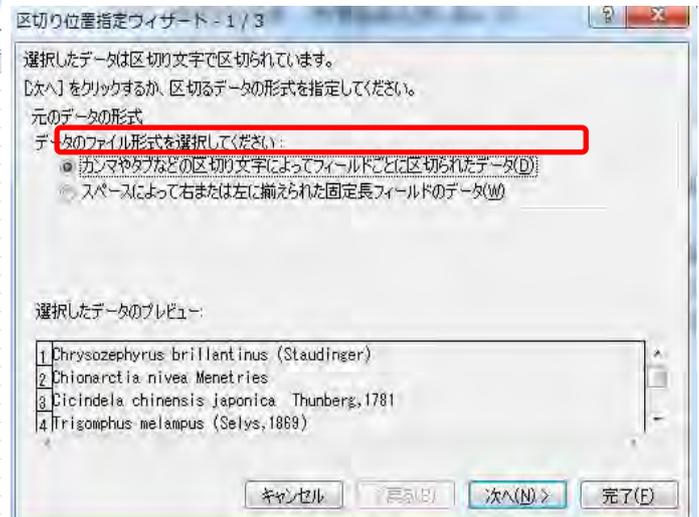
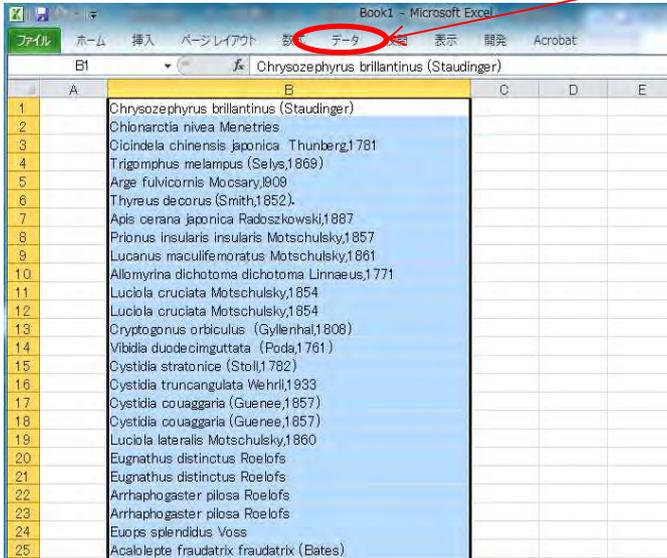
注意：元の和名にスペースなどが入っているとうまく変換されません。ありそうな学名が埋まらなかった場合、和名の後ろにスペースが無いかどうかご確認ください。スペースを取ったら出てくる場合があります。



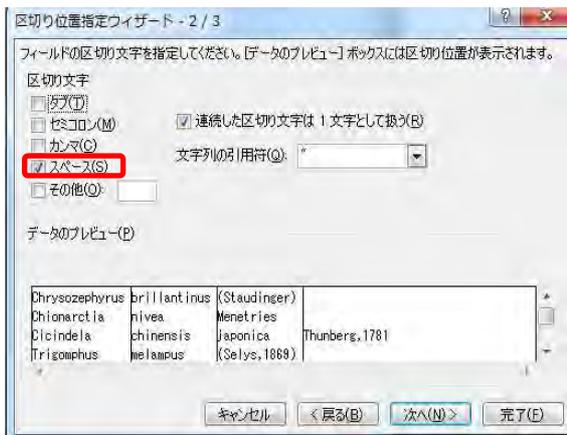
## 学名を属名、種小名などに切り分けるには

エクセルのデータ区切りの機能を利用して、属名と種小名などの間のスペースで切り分けます。複雑な学名の場合には対応できないことがあるので、手作業で調整を行います。

- ① 学名の列を選んでエクセル表にコピーする。 ② データ⇒区切り位置 を選ぶ。  
下の画面で、カンマや～を選び、次へ。



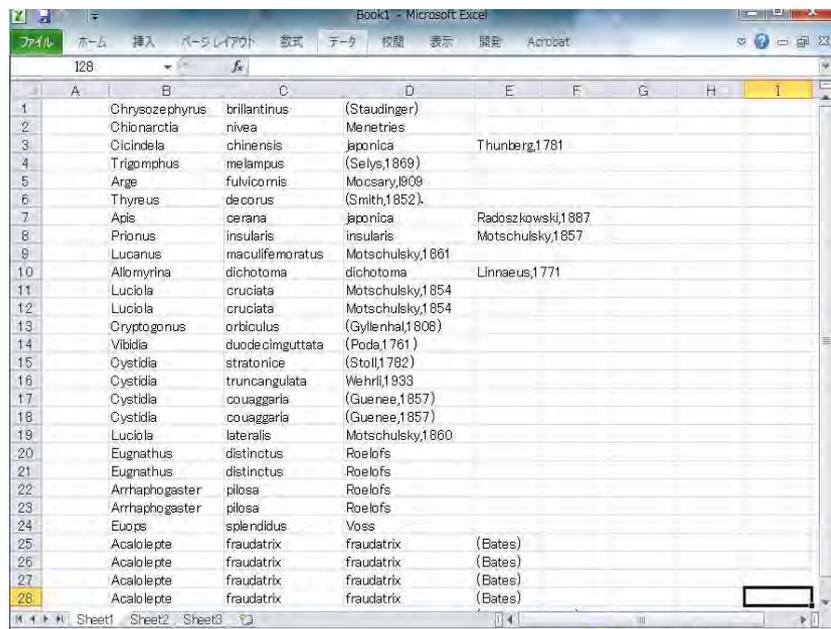
- ③ 区切り文字の中からスペースを選んで、次へ。



- ④ 列のデータ形式をG/標準か文字列を選んで、完了をクリック。



- ⑤ 分割されたところ。  
B、Cの属名・種小名は問題ないが、D列以下が修正が必要になる。



【ご意見・ご質問の宛先】 s-net\_info(at)kahaku.go.jp



# 学名辞書的に使えるウェブサイト・資料など

和名から学名を調べる際に参考としてご利用ください。

界	門以下	チェックリスト・検索サイト	形態
全体		日本産生物種数調査(日本分類学会連合) <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php</a> ライフサイエンス統合データベースプロジェクト 種名辞書 (現在は未更新) <a href="http://lifesciencedb.jp/dic/index.html">http://lifesciencedb.jp/dic/index.html</a> 海洋生物の多様性と分布情報のデータベース BISMAL(海洋開発研究機構) <a href="http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/">http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/</a> (2021年6月現在調整中)	分類ツリーから学名和名表をDL可
原生生物界		日本産原生生物リスト(at 日本産生物種数調査) <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php</a>	ExcelでDL可
クロミスタ界	不等毛植物門(褐藻)	日本産海藻目録(2015年改訂版) 褐藻綱 <a href="http://sourui.org/publications/sorui/list/63_03.html">http://sourui.org/publications/sorui/list/63_03.html</a> 正誤表(第63巻3号 吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男: 日本産海藻目録(2015年改訂版)) <a href="http://sourui.org/publications/sorui/list/64_01.html">http://sourui.org/publications/sorui/list/64_01.html</a>	PDFでDL可
植物界	被子・裸子・シダ・コケ	① BG Plants和名-学名インデックス(Ylist) <a href="http://ylist.info/">http://ylist.info/</a>	
	被子・裸子・シダ・コケ	② The International Plant Names Index (IPNI) <a href="http://www.ipni.org/">http://www.ipni.org/</a>	WEB検索方式
	被子植物	GreenList <a href="http://www.rdplants.org/gl/">http://www.rdplants.org/gl/</a>	ExcelでDL可
	裸子植物	GreenList (GymGList) <a href="http://www.rdplants.org/gl/">http://www.rdplants.org/gl/</a>	ExcelでDL可
	シダ植物	GreenList (FernGList) <a href="http://www.rdplants.org/gl/">http://www.rdplants.org/gl/</a>	ExcelでDL可
	藻類(海水)	日本産海藻目録(2015年改訂版) 緑藻綱・紅藻綱 <a href="http://sourui.org/publications/sorui/list/63_03.html">http://sourui.org/publications/sorui/list/63_03.html</a> 正誤表(第63巻3号 吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男: 日本産海藻目録(2015年改訂版)) <a href="http://sourui.org/publications/sorui/list/64_01.html">http://sourui.org/publications/sorui/list/64_01.html</a>	PDFでDL可
	蘚苔類	Tropicos (ミズーリ植物園) 学名シノニム検索など <a href="http://www.tropicos.org/">http://www.tropicos.org/</a> 蘚類(服部植物研究所) <a href="http://hattorilab.org/checklist1/">http://hattorilab.org/checklist1/</a> 苔類(服部植物研究所) <a href="http://hattorilab.org/">http://hattorilab.org/</a> <a href="http://hattorilab.org/images/news/hp-liverwort-lsist-ja20161018.xlsx">http://hattorilab.org/images/news/hp-liverwort-lsist-ja20161018.xlsx</a>	WEB検索方式 ExcelでDL可
菌界	菌類	日本産菌類集覧(勝本2009; 日本菌学会関東支部記念出版) <a href="http://www.mycology-jp.org/~kb-msj/syuran.html">http://www.mycology-jp.org/~kb-msj/syuran.html</a> Index Fungorum <a href="http://www.indexfungorum.org/Names/Names.asp">http://www.indexfungorum.org/Names/Names.asp</a>	冊子 WEB検索方式
		日本産菌類チェックリスト(日本菌学会) <a href="http://www.mycology-jp.org/~msj7/WL_information_J/List-Japan.html">http://www.mycology-jp.org/~msj7/WL_information_J/List-Japan.html</a>	ExcelでDL可
		大菌輪(中島淳志氏) <a href="http://mycoscouter.coolblog.jp/daikinrin/%e7%a8%ae%e5%90%8d%e4%b8%80%e8%a6%a7%ef%bc%88%e5%ad%a6%e5%90%8d%e9%a0%86%ef%bc%89/">http://mycoscouter.coolblog.jp/daikinrin/%e7%a8%ae%e5%90%8d%e4%b8%80%e8%a6%a7%ef%bc%88%e5%ad%a6%e5%90%8d%e9%a0%86%ef%bc%89/</a> 日本産きのこ目録(幸徳伸也氏) <a href="http://koubeokinoko.chicappa.jp/">http://koubeokinoko.chicappa.jp/</a>	WEB ExcelでDL可
	地衣類	日本野生植物寄生・共生菌類目録(農業環境技術研究所) 農環研資料第26号 p. 169, 2002/3 <a href="http://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/inventory/microorg/mokuroku/mokuroku.html">http://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/inventory/microorg/mokuroku/mokuroku.html</a>	WEB検索サイト
	地衣類	国立科学博物館モノグラフ National Science Museum Monographs No.49 (2018) Checklist of Japanese Lichens and Allied Fungi <a href="http://www.kahaku.go.jp/research/publication/monograph/v49.html">http://www.kahaku.go.jp/research/publication/monograph/v49.html</a>	PDFでDL可
動物界	魚類	日本産魚類リスト(at 日本産生物種数調査) <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&amp;Phylum=Chordata&amp;Subphylum=Vertebrata">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&amp;Phylum=Chordata&amp;Subphylum=Vertebrata</a> FishBase(学名検索中心) <a href="http://www.fishbase.org/search.php">http://www.fishbase.org/search.php</a>	ExcelでDL可 WEB検索方式
	両生類・爬虫類	日本産爬虫両生類標準和名リスト(日本爬虫両生類学会) <a href="http://herpetology.jp/wamei/index_j.php">http://herpetology.jp/wamei/index_j.php</a> 日本産両棲・爬虫類リスト(at 日本産生物種数調査); 計161種 <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&amp;Phylum=Chordata&amp;Subphylum=Vertebrata">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&amp;Phylum=Chordata&amp;Subphylum=Vertebrata</a>	WEB, PDFでDL可 ExcelでDL可

界	門以下	チェックリスト・検索サイト	形態
動物界 (続き)	鳥類	日本鳥類目録改訂版第7版掲載鳥類リスト(日本鳥学会) <a href="http://ornithology.jp/katsudo/Publications/Checklist7.html">http://ornithology.jp/katsudo/Publications/Checklist7.html</a>	ExcelでDL可
	哺乳類	The Wild Mammals of Japan 第2版 (日本哺乳類学会) <a href="https://shokado.nacos.com/mammal/index_j.php">https://shokado.nacos.com/mammal/index_j.php</a> 日本産哺乳類リスト(at 日本産生物種数調査) <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&amp;Phylum=Chordata&amp;Subphylum=Vertebrata">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?Kingdom=Animalia&amp;Phylum=Chordata&amp;Subphylum=Vertebrata</a>	冊子 ExcelでDL可
	扁形動物門(プラナリアなど)	新寄生虫和名表 <a href="http://jsp.tm.nagasaki-u.ac.jp/newwamei20170602/">http://jsp.tm.nagasaki-u.ac.jp/newwamei20170602/</a>	ExcelでDL可
	紐形動物門(ヒモムシ)	日本産紐型動物リスト(at 日本産生物種数調査) <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?&amp;Kingdom=Animalia">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?&amp;Kingdom=Animalia</a>	WordでDL可
	腕足動物門(ホオズキガイ シヤミセンガイ)	日本産腕足動物リスト(at 日本産生物種数調査) <a href="http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?&amp;Kingdom=Animalia">http://www.ujssb.org/biospnum/search.php?&amp;Kingdom=Animalia</a>	WordでDL可
	環形動物門(ミミズ、ゴカイ)	ミミズの分類 - 日本産ミミズ大図鑑(日本産ミミズ大図鑑プロジェクト) <a href="https://japanese-mimizu.jimdofree.com/%E3%83%9F%E3%83%9F%E3%82%BA%E3%81%AE%E5%88%86%E9%A1%9E/">https://japanese-mimizu.jimdofree.com/%E3%83%9F%E3%83%9F%E3%82%BA%E3%81%AE%E5%88%86%E9%A1%9E/</a>	ExcelでDL可
	線形動物門(回虫)	新寄生虫和名表 <a href="http://jsp.tm.nagasaki-u.ac.jp/newwamei20170602/">http://jsp.tm.nagasaki-u.ac.jp/newwamei20170602/</a>	ExcelでDL可
	節足動物門 (昆虫綱)	日本産昆虫目録データベース MOKUROKU(九州大学大学院農学研究院) <a href="http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html">http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html</a> (休止中) 日本昆虫目録(日本昆虫学会) 9巻構成、既刊情報はサイトを参照 <a href="http://www.entsoc.jp/publications/Catalogue_of_the_Insects_of_Japan/">http://www.entsoc.jp/publications/Catalogue_of_the_Insects_of_Japan/</a>	WEB検索方式 冊子
	節足動物門 (昆虫綱チョウ目)	List-MJ 日本産蛾類総目録 [version 2 beta] (神保) <a href="http://listmj.mothprog.com/">http://listmj.mothprog.com/</a> 日本産蝶類和名学名便覧 [CC BY] (猪又敏男氏ほか) <a href="http://binran.lepimages.jp/">http://binran.lepimages.jp/</a>	WEB, ExcelでDL可 WEB
	節足動物門 (昆虫綱トビケラ目)	日本産トビケラの種リスト(野崎隆夫氏) <a href="http://tobikera.eco.coocan.jp/names.htm">http://tobikera.eco.coocan.jp/names.htm</a>	WEBに直に貼付
	節足動物門 (昆虫綱コウチュウ目)	日本産ハネカクシ科総目録(柴田泰利氏ほか:九州大学総合研究博物館) <a href="http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/recordID/26400">http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/recordID/26400</a> 日本産ゾウムシデータベース(ゾウムシネットワーク) <a href="http://de05.digitalasia.chubu.ac.jp/">http://de05.digitalasia.chubu.ac.jp/</a> 今昔カミキリムシの和名(Genka氏) <a href="http://tokyoinsects.web.fc2.com/techniques/japaneselongicornsynonymiclist.html">http://tokyoinsects.web.fc2.com/techniques/japaneselongicornsynonymiclist.html</a> 東京カミキリムシ目録(Genka氏) <a href="http://tokyoinsects.web.fc2.com/longicornindex.html">http://tokyoinsects.web.fc2.com/longicornindex.html</a>	PDFでDL可 WEB WEB
	節足動物門 (昆虫綱ハチ目)	日本産ヒメバチ目録 Check list of Japanese Ichneumonidae (小西和彦氏) <a href="https://sites.google.com/site/ichneumonidjp/">https://sites.google.com/site/ichneumonidjp/</a> 日本産オナガコバチ目録(松尾和典氏) <a href="http://sudachiodori.jimdofree.com/">http://sudachiodori.jimdofree.com/</a> 寄生蜂: Information station of Parasitoid wasps (渡辺恭平氏ほか) <a href="http://himebati.jimdofree.com/">http://himebati.jimdofree.com/</a> 日本産アリ類画像データベース(アリ類データベース作成グループ) <a href="http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/">http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/</a> 日本産有剣膜翅類目録(ハチ類、アリ類) <a href="https://terayama.jimdofree.com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%94%A3%E6%9C%89%E5%89%A3%E8%86%9C%E7%BF%85%E9%A1%9E%E7%9B%AE%E9%8C%B2/">https://terayama.jimdofree.com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%94%A3%E6%9C%89%E5%89%A3%E8%86%9C%E7%BF%85%E9%A1%9E%E7%9B%AE%E9%8C%B2/</a>	WEB WEB WEB WEB, ExcelでDL可 PDFでDL可
	節足動物門 (鋏角亜門)カブトガニ綱、 クモ綱(クモ、ダニ)サソリ目	日本産クモ類目録 ver.2015R5 (谷川明男氏) <a href="http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/">http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/</a>	PDFでDL可

\* 間違い・追加情報がありましたら、事務局までご連絡お願いいたします。



# GBIFサイトで学名をチェック～上位分類を取得

GBIFの種名マッチング(Species matching)ツールを使って学名に誤りがないか確認できます。門phylum、綱class、目orderなど上位の分類を得ることもできます。

## ■種名マッチングで学名(種)をチェックするには

1. チェックする種の学名がリストされたCSVファイルを作成します。学名の列の1行目は **[scientificName]** (sは小文字、途中のNは大文字、スペースなし) と正確に入力します。

(エクセルで編集する場合)

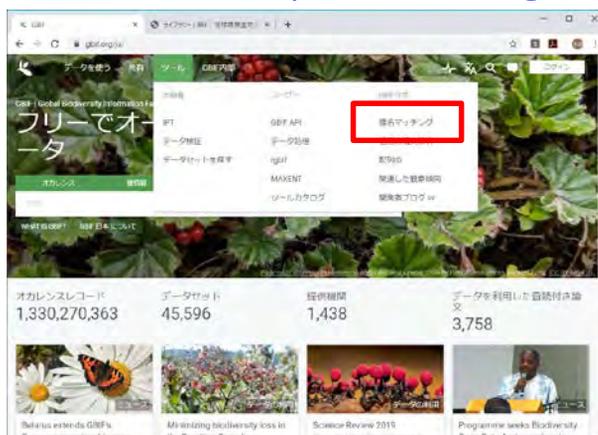
	A	B
1	scientificName	
2	canis lupus	
3	Anguilla japonica	
4	Gnathopogon elongatus suwae	
5	raphus cuculatus	
6	Lagopus muta	

(メモ帳で編集する場合)

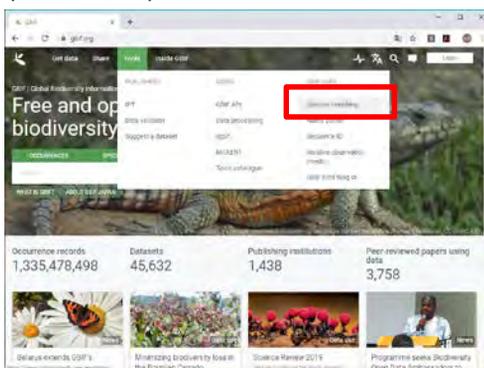
animal\_example.csv - メモ帳  
 ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)  
 scientificName  
 canis lupus  
 Anguilla japonica  
 Gnathopogon elongatus suwae  
 raphus cuculatus  
 Lagopus muta

※学名のうち、種小名の部分は小文字で記述します。属名の部分は大文字が混じていてもかまいません。

2. GBIFサイト( <https://www.gbif.org/ja/> )の[ツール Tools]メニューから **[種名マッチング Species matching]** を選択します。



(英語の場合)

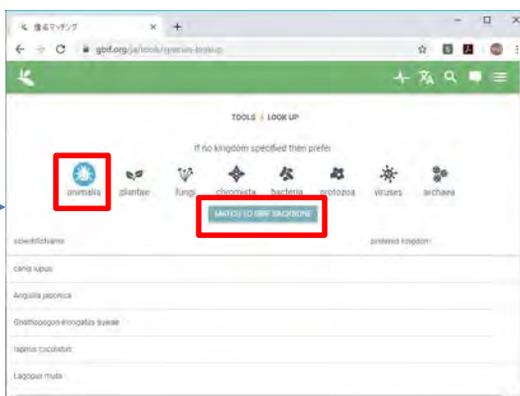
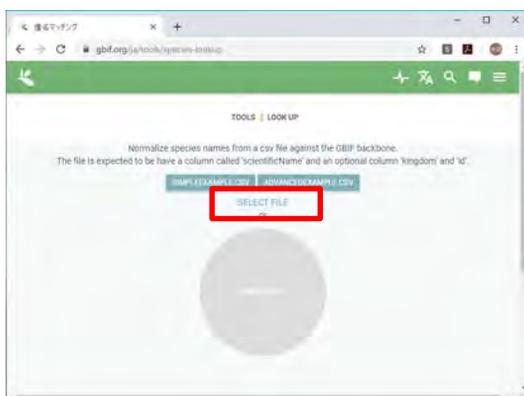


※画面上部にメニューが表示されていない場合は、右上の三本線を選択するとメニューがされます。



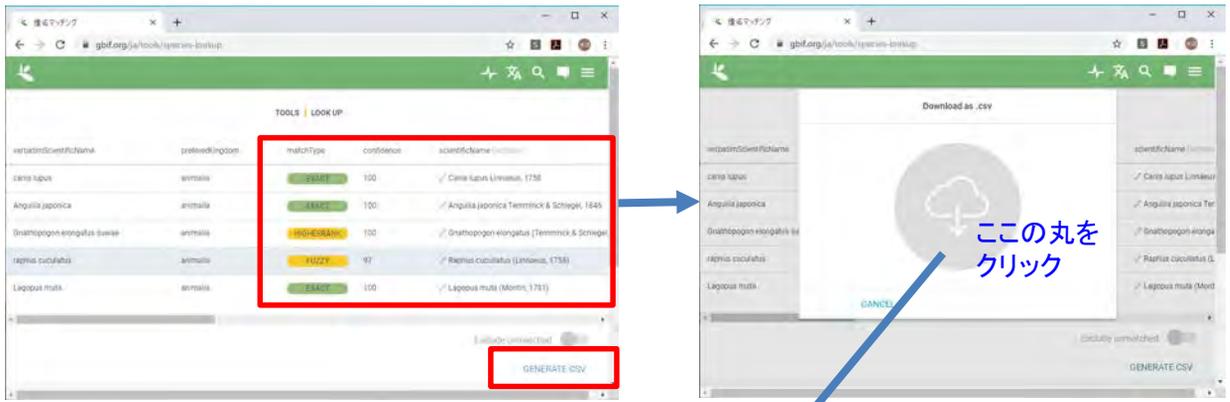
※URLを直接指定する場合は、<https://www.gbif.org/ja/tools/species-lookup>

3. **[SELECT FILE]** で1.で用意したCSVファイルを選択し、調べるリストの界(例ではanimalia)を選択して **[MATCH TO GBIF BACKBONE]** をクリックします。



エクスプローラでCSVファイルを選択し、ドラッグして、**[DROP HERE]**の丸の部分にドロップすることもできます。

4. マッチングの結果が信頼度やGBIFの分類表の学名などと共に表示されます。完了後、[GENERATE CSV]を選択すると結果をCSV形式でダウンロードできます。

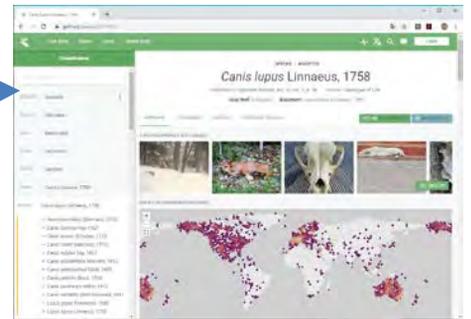


(ダウンロードされたマッチング結果のCSV ファイル)

1	occurrenceId	verbatimScientificName	scientificName	key	matchType	confidence	status	rank	kingdom	phylum	class	order	family	genus	species
2		canis lupus	Canis lupus Linnaeus, 1758	5219173	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Mammalia	Carnivora	Canidae	Canis	Canis lupus
3		Anguilla japonica	Anguilla japonica Temminck & Schlegel, 1845	5213022	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Actinopterygii	Anguilliformes	Anguillidae	Anguilla	Anguilla japonica
4		Gnathopogon elongatus swusa	Gnathopogon elongatus (Temminck & Schlegel, 1845)	2366298	HIGHERRANK	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Actinopterygii	Cypriniformes	Cyprinidae	Gnathopogon	Gnathopogon elongatus
5		raphus cucullatus	Raphus cucullatus (Linnaeus, 1758)	2496198	FUZZY	97	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Columbifor	Raphidae	Raphus	Raphus cucullatus
6		Lagopus muta	Lagopus muta (Montin, 1781)	5227679	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Galliformes	Phasianidae	Lagopus	Lagopus muta

※matchTypeが「FUZZY」の行は学名の綴り誤りの可能性大。

- [occurrenceId] (入力は任意): チェックするCSVファイルにoccurrenceIdを指定するとその値が出力され、チェックの時、便利です(下の例を参照)。
- [verbatimScientificName]: チェックするCSVファイルに指定した元の学名
- [scientificName]: 上記の学名をもとに検索したGBIFの分類表(Backbone Taxonomy)の学名
- [key]: GBIFで管理している種speciesのキー値。種の情報を表示できる。
- [matchType]: EXACT(完全一致)、FUZZY(綴りに誤りなどがあり、完全に一致しなかったが、近いものを表示)、HIGHERRANK(該当するランクで一致するデータが無かった場合、上位ランクで一致するものを表示)、NONE(該当する学名なし)
- [confidence]: 信頼度(パーセンテージ)。学名の綴りの一致度。
- [status]: ACCEPTED(承認された種)、SYNONYM(承認種のシノニム)、DOUBTFUL(疑念の残る種)
- [rank]: 一致した種の分類ランク
- [kingdom], [phylum], [class], [order], [family], [genus], [species]: GBIFの分類表上の界、門、綱、目、科、属、種の学名



<https://www.gbif.org/species/5219173>

■ S-Net/GBIF登録用データの学名をチェックするには

(S-Net/GBIF登録用データファイル)

A	B	K	L	M	CF	CG	CH	CI	CJ	CK			
1	管理ID	登録日	日 機関コード	コレクション	カタログ番号	採集日	タクソノミID	学名	カテゴリ	界名(学名)	界名(日本)	門名(学名)	門名(日本)
2								Gallinago hardwickii (Gray)		Animalia	動物界		
3								Gallinago hardwickii (Gray)		Animalia	動物界		
4								Gallinago megala		Animalia	動物界		
5								Numenius minutus		Animalia	動物界		
6								Limnodromus semipalmatus		Animalia	動物界		

- ① [カタログ番号]、[学名]、[界名(学名)]の列をコピーし、1行目の列名をそれぞれ、[occurrenceId]、[scientificName]、[kingdom]に変更します(大文字、小文字の区別を正確に、スペースはなし)。

A	B	C
1	occurrenceId	scientificName
2	18676	Gallinago hardwickii (Gray)
3	18677	Gallinago hardwickii (Gray)
4	18678	Gallinago megala
5	18679	Numenius minutus
6	18680	Limnodromus semipalmatus

(学名チェック用 CSVファイル)

- ② 前ページの2~の手順で種名マッチングを行います。チェック用ファイルに界が含まれているので、3の手順では「界」は選択せずに[MATCH TO GBIF BACKBONE]をクリックします。

(ダウンロードされたマッチング結果のCSVファイル)

occurrenceId(カタログ番号)でマッチング結果を確認できる

1	occurrenceId	verbatimScientificName	scientificName	key	matchType	confidence	status	rank	kingdom	phylum	class	order	family	genus	species
2	18676	Gallinago hardwickii (Gray)	Gallinago hardwickii (J.E.Gray, 1831)	2481830	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Charadriiformes	Scolopacidae	Gallinago	Gallinago hardwickii
3	18677	Gallinago hardwickii (Gray)	Gallinago hardwickii (J.E.Gray, 1831)	2481830	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Charadriiformes	Scolopacidae	Gallinago	Gallinago hardwickii
4	18678	Gallinago megala	Gallinago megala Swinhoe, 1861	2481815	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Charadriiformes	Scolopacidae	Gallinago	Gallinago megala
5	18679	Numenius minutus	Numenius minutus Gould, 1841	2481782	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Charadriiformes	Scolopacidae	Numenius	Numenius minutus
6	18680	Limnodromus semipalmatus	Limnodromus semipalmatus (Blyth, 1848)	2481671	EXACT	100	ACCEPTED	SPECIES	Animalia	Chordata	Aves	Charadriiformes	Scolopacidae	Limnodromus	Limnodromus semipalmatus

※[phylum]~[family]の各列は登録データの [門名(学名)]~[属名(学名)]の学名の列に使うことができます。

## 5. 提供されたデータの事務局でのチェック

データが提供されると、事務局ではそのデータの確認作業に入るとともに、提供に伴う事務処理作業に入ります。この時に問題になるのが、変換ツールなどでチェックできなかったデータ不備の検出です。データ不備があると、再提出が必要となり、時間も手間も無駄になってしまいます。

本章では、事務局における提供データ受領時の受付チェック、S-Net サイト掲載前の内容チェックと、よくあるデータ不備についてまとめました。データの品質を向上するため、第4章の事項と合わせてこれらの点にもご注意ください。





## ご提供データの受付チェック(件数確定まで)

事務局では、参加機関から提出された提供データ(S-Net形式の登録データファイル)について、次の4つのチェックを行い、問題がなければ受け取った件数を確定して、ご請求の手続き始めるようお願いしています。この過程で様々なエラーを検出することがあります。エラーはデータの品質の低下や手続きの遅れにつながりますので、この文書では、重要なチェックポイントについて説明し、エラーを避けるための注意を記しました。

### 1. データ変換ツールを使って提供データを検証

提供データを入力ファイルに指定して、データ変換ツールでデータ検証を行います。

※「データ変換ツール」のマニュアルとプログラムはS-Netサイトの参加機関・参加検討中の機関の方へ  
([http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##dataconv))からダウンロードできます。

標本データ変換

■ 次のようなエラーが出た場合は、登録データを修正して再提出するようお願いしています。

Ver1.21

MW037:警告:入力ファイルはS-Net形式ではありません。

MW023:警告:データに誤りがありました。検証レポートを確認してください。(総件数:999件、エラー件数:99件)

#### 再提出を避けるためには

- ✓ 提供データはデータ変換ツールで[マッピング]を行って作成されたS-Net形式の登録データをお送りください。前年度の登録データファイルを再利用して修正した場合もそのファイルを入力ファイルとして[マッピング]を実行し、データクリーニングとデータ検証が行われた登録データをご提出ください。※マッピングとは各機関で用意した入力ファイルのデータ項目とS-Net形式の登録データファイルのデータ項目を対応付けることです。また、マッピングでは余分な空白などのクリーニングとフォーマット等の検証も行われます。
- ✓ 提出前にはそれぞれのデータセットについて【様式5】データチェックリストでチェックしてください。
- ✓ マッピングで出力された後に登録データファイルを更新した場合には、更新したファイルを指定して[データ検証]を行い、問題がないことを確認ください。
- ✓ Mac OSやUnix系OSなどをお使いでデータ変換ツールを使わずに別の手段で作成した場合も、なるべくWindows PCを借りて、データ変換ツールでの[データ検証]を行い、エラーがないことを確認ください。

### 2. 掲載中のデータのカタログ番号(標本番号)との重複がないかチェック

提供データのデータセット(コレクション)がすでにS-Netサイト(<http://science-net.kahaku.go.jp>)で公開されている場合は、同じカタログ番号の標本情報が掲載済みでないかチェックします。

■ 掲載データと重複するカタログ番号があった場合(提出された標本はS-Netに掲載済みの場合)は、重複する標本データを別の標本のものに差替えて再提出するようお願いしています。

#### 再提出を避けるためには

- ✓ 提出するデータのカタログ番号を記録しておき、提出前には過去に同じカタログ番号のデータを提出していないか記録を確認してください。
- ✓ 過去のデータの記録がない場合は、S-Netサイトの機関・データセット一覧(<http://science-net.kahaku.go.jp/app/k>)で該当するデータセットを選択した後、[データを見る]で一覧表示し、標本情報を[ダウンロード]してカタログ番号を確認してください。5000件以内であればS-Netサイトからダウンロードが可能です。
- ✓ 5000件を超えるデータの場合は事務局([s-net\\_info@kahaku.go.jp](mailto:s-net_info@kahaku.go.jp))にメールでご依頼ください。掲載中の全データまたはご希望のデータ(たとえば、平成30年度提出分など)を抽出してS-Net形式でお送りします。

### 3. データに規制種が含まれていないかチェック

提供データの中に法律で規制されている種が含まれていないか確認します。

- 規制種の標本データが含まれている場合、それらを削除し、代わりに別の標本データを追加して再提出するようお願いしています。

再提出を避けるためには

- ✓ 植物や菌類には規制されている種がありますので、植物や菌類の標本を含むデータセットでは規制種が入っていないか提出前に確認してください。

### 4. 全データ受領後に今年度の提供件数と一致しているかチェック

すべてのデータセットの提供データを受領した後に、合計件数が今年度の提供件数と一致しているか確認します。

- 合計件数が提供件数より多い場合は差分の件数の標本データを削除して再提出を、また、合計件数が提供件数より少ない場合は差分の件数の標本データを追加して再提出するようお願いしています。

再提出を避けるためには

- ✓ 提出ごとにデータの件数を確認しておき、最後の提出時に合計が今年度の提供件数と同じになるようにしてください。ご担当がデータセットで異なる場合は、ご調整をお願いします。

### 5. 1～4のチェックが問題なければ、請求書類を発行依頼

4つのチェックで問題がないことを確認した場合には、ご提供機関に【様式3】完了通知書と【様式4】請求書を発行し事務局へ郵送するよう依頼します。ご提供機関から事務局へ押印済の原本が届いたら、支払い処理を行います。

- 請求書類に次のような不備があった場合は、修正して再送するようお願いしています。
  - 書類の発行日付が平日でない(手続き上、土・日・祝日の請求書類はお受け取りできません)
  - 記載項目にもれがある(備考欄の事業者の課税の区別(①～③を記入)にもれが多く見られます)
  - 氏名、口座名義、押印の情報が異なっていて、正しい請求が確認できない

再提出を避けるためには

- ✓ 完了通知書、請求書を提出する前に【様式6】請求書類チェックリストで内容を確認してください。

### 6. 新規提出に必要な書類の提出確認

新規参加機関および新規データセットの場合に必要な書類を確認します。

- 次の書類が到着していない場合には忘れずに提出していただくようお願いしています。
  - 新規参加機関の場合：【様式1】データ提供同意書(必須)、【様式9】GRSciColl機関登録依頼票(未登録時)
  - 新規データセットの場合：【様式7】メタデータ登録票、【様式8】データ利用権回答書(いずれも、1つのデータセット(コレクション)につき1つの書類が必要)

未着の連絡を避けるには

- ✓ これらの書類はデータ変換作業に先立って早めに準備しておき、データ提出時に一緒にお送りください。



## 内容チェックについて

データ変換ツール(データ変換ツール.xls)で行うデータ検証は、項目名やデータ形式(型や桁数など)の間違いチェックに限られます。S-Net/GBIFへ掲載するにあたっては、データの正確性と一貫性を保つため、事務局でより詳細な内容のチェックを行っています。また、データをご提出いただいた以降にレッドリストが更新されることあるため、掲載前に事務局でもレッドデータチェックを行い、結果をご連絡します。この文書では、事務局で行われている内容チェックを記します。データの不備を無くすためお役立てください。

内容チェックを行う前のデータは・・・

■データ変換ツールでマッピング(データクリーニング・データ検証)を行って作成されたデータです

提供機関でデータ項目や形式の間違いはチェック済み

- ・正しいS-Net項目名になっている
- ・必須項目がきちんと入力されている など

データ変換ツールの詳細は、S-Netサイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」ページ「データ変換ツール 利用者向けマニュアル」([http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##dataconv))をご覧ください

■事務局で受付チェックを行い、件数が確定されたデータです

- ・カタログ番号の重複が無い
- ・データに規制種が含まれていない
- ・データ件数が請求書と一致している

受付チェックの詳細は「【参考資料D01】提供データ受付チェック」をご覧ください

データ提出時には「【様式5】データチェックリスト.xls」でデータの誤りがないかチェックしていただくことになっておりますが、内容チェックの段階でエラーが散見されます。提出時は各登録データについて確実にチェックリストでの確認をお願いします。

## 事務局での内容チェック

### 1. 提出データに内容的な不備が含まれてないかチェックします

■単純な入力ミスや文字化け

【例】”鳥網”(網(こう)が 網(あみ)になっている)

■数値項目にありがちなミス

【例】[緯度(十進数表記)],[経度(十進数表記)]が”0”になっている

■データセットを通じて一貫しているべき項目の不備

【例】[機関名(日本語)]が”国立科学博物館(植物)”でなく”国立科学博物館[植物]”となっている

■レッドデータチェックに必要な項目が適切に入っていない

【例】[都道府県(日本語)]が空白である

データの不備をなくすには

✓よく見られる不備を、本資料「よくあるデータ不備」にまとめました。

間違えやすい項目とエラーの見つけ方を記載していますので、これらの内容に注意してください。

✓「データ変換ツール 利用者向けマニュアル」の 4.1 S-Net形式のデータ項目について を良くご確認ください。

こちらに全項目のデータ形式と値の例を記載しています。(S-Netサイト「参加機関・参加検討中の機関の方へ」ページ([http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##dataconv))からダウンロードできます)

✓データ提出前に確実なチェックを行ってください。

「【様式5】データチェックリスト.xls」のチェックで大部分の不備を無くすことができます。

提出前のチェックを確実に行ってください。

### 2. 最新のレッドリストでレッドデータチェックを行います

■正しい結果を得るため、採取地が日本である場合は[和名]と[都道府県(日本語)]を正しく入力してください

■提供機関と事務局でチェックの結果が違う場合、最新のレッドリストの結果を採用します

レッドデータチェックの詳細は、S-Netサイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」ページ

「4.5-01【参考資料B14】新レッドデータチェッカー」「4.5-02【参考資料B15】新レッドデータチェッカー：注意」をご覧ください

([http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html##red\\_data\\_checker](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html##red_data_checker))

### 3. チェックの結果を提供機関にメールでご連絡し、必要に応じて修正していただきます

■確認をしていただきたい件をPDFファイルでお送りします

本資料末尾の「S-Net/GBIF提供データ 内容チェックのお願いサンプル」をご覧ください

■実際に確認・修正していただくデータは、修正確認ファイルとしてエクセル形式でお送りします

■提供機関オリジナルのデータベース(上流データ)に不備があれば、上流側のデータもあわせて修正いただくことを推奨します

修正確認ファイルの詳細は、「【参考資料D11】修正確認」「【参考資料D12】レッドリスト掲載種確認」をご覧ください

確認と修正が完了し、掲載をご了解いただいたデータがS-Net/GBIFへ掲載されます

S-Net でデータを受領するときによくみかけるエラーデータをまとめました。

### 【目次】

1. 単純な入力ミスと文字化け
2. 数値項目にありがちなミス
3. データセットを通じて一貫しているべき項目に不備がある
4. レッドデータチェックに必要な項目が適切に入っていない
5. 変換ツールにかけることで無くせるデータ不備

#### 1. 単純な入力ミスと文字化け

- 1) 単純な入力ミス。修正して提出してください。

例1：“鳥網”（網（こう）が 網（あみ）になっている）→“鳥綱”に修正

例2：“#N/A”や“#VALUE!”が残っている（作業途中のエラー記号の消し忘れ）→削除する

解説：網（こう）が 網（あみ）になっている間違いは、しばしば見られます。注意してください。

エクセルで関数（VLOOKUP、HLOOKUP、LOOKUP、MATCH など）を使用した際、参照値が見つからずエラー値 “#N/A” が示される場合があります。また、同じくエクセルで数式に文字列が含まれていると “#VALUE” が示されます。これらの値は忘れずに削除してください。

- 2) ウムラウト付きの特殊文字が「?」などに置き換えられている。修正して提出してください。

例：[学名]が“Pidonia (Pidonia) shikokensis shikokensis Ch?j? et Hayashi, 1951”

→

“Pidonia (Pidonia) shikokensis shikokensis Chujo et Hayashi, 1951”に修正

解説：[学名][学名の著者]に見られます。これは、エクセルの標準形式からシフト JIS 形式の CSV ファイルに変換するときによく生じる事象です。また、ウムラウト付き文字にはデータ変換ツールでは入力できないものがあるので、このように置き換えられることがあります。Excel2019 からは Unicode を使えるようになりましたので、保存のときに Unicode を指定しておけば、特殊文字が維持されますが、データ変換ツールでは維持されないことがあるため、ウムラウトなしの英字に置き換えることをお勧めします。

- 3) ハイフン付きの数字が日付型に置き換えられている。修正して提出してください。

例：[カタログ番号]“2017-10”が“Oct 2017”になっている→“2017-10”に修正

解説：[カタログ番号]などのハイフン付きの数字が日付型に置き換えられているときは、エクセルで自動変換が行われるので、列の分類を「文字列」に変更して再入力します。

## 2. 数値項目にありがちなミス

1) 値が不明な場合に0値が入っている。空白にして提出してください。

例：[メッシュコード]、[緯度（十進数表記）]、[経度（十進数表記）]に“0”→空白とする

解説：“0”は「値がない」という意味ではありません。不明な場合は空白としてください。特に緯度や経度における“0”は、赤道を意味する位置情報になってしまいます。エクセルなどでの入力であれば、「フィルター」機能を利用するなどして“0”を見つけることができます。

2) 海拔、水深、記録年月日の範囲値が逆転して入っている。修正して提出してください。

例1：[最低海拔] > [最高海拔] → [最低海拔] ≤ [最高海拔]

例2：[最浅水深] > [最深水深] → [最浅水深] ≤ [最深水深]

例3：[記録年月日（始め）] > [記録年月日（終わり）] → [記録年月日（始め）] ≤ [記録年月日（終わり）]

解説：値が範囲でない場合は、先頭末尾両方の項目、または先頭項目のほうに値を入れてください。

記録年月日は数値項目ではありませんが同様に注意してください。アスタリスク（\*）を含む場合もあり機械的なチェックは難しいですが、完全な年月日であれば、入力時に注意する他、「終わり」から「始め」を引いて、正の値が得られるか、などを基準にしてチェックすると良いでしょう。

3) 緯度と経度が逆転している。提出前に確認をお願いします。

例：北海道石狩市の [緯度（十進数表記）] が”141.3155”、[経度（十進数表記）] が”43.1713”

解説：これも致命的な間違った情報になってしまいますが、機械的なチェックは難しいです。しかし、国内であれば、緯度、経度のそれぞれを「フィルター」や「ソート」を利用して逆転した数値を比較的簡単に見つけることができます。

## 3. データセットを通じて一貫しているべき項目に不備がある

1) メタデータの通りになっていない。メタデータに合わせてください。

例：国立科学博物館（植物）維管束植物コレクションの場合

[機関名] "National museum of nature and science" → "National Museum of Nature and Science"

[機関名（日本語）] "国立科学博物館[植物]" → "国立科学博物館（植物）"

[機関コード] "TSN" → "TNS"

[コレクションコード] "vs" → "VS"

解説：大変多く見られる誤りです。これらの値は、全データベースを通じて一貫していることが重要です。不安なときは、過去提出したデータを検索して、確認しましょう。掲載済みのメタデータの情報は S-Net サイトの「機関・データセット一覧」(<http://science-net.kahaku.go.jp/app/k>) で確認できます。

メタデータの方を修正されたい場合はご相談ください。

2) [カタログ番号]の形式が統一されていない。極力統一してください。

例：以前が”PI-0001”で今回が”0021” → 今回も”PI-0021”で統一する。

解説：カタログ番号の形式が統一されていないと、データの重複が起こりやすくなります。特に理由がある場合を除き、データセットを通じて統一した形式にしましょう。不安なときは、過去提出したデータを検索して、確認しましょう。掲載済みのデータは S-Net サイトの「機関・データセット一覧」(<http://science-net.kahaku.go.jp/app/k>) でデー

タセットを選択し、「データを見る」で表示できます。

また、ハイフンの半角、全角のチェックも重要なポイントです。通常は半角のハイフンを使います。

3) [カタログ番号]は重複がないようにチェックしてください。

解説：エクセルの「ピボットテーブル」機能（挿入>ピボットテーブル）で、対象列のデータごとに出現する個数を知ることができます（行に目的の項目を指定し、 $\Sigma$ 値にその項目の「個数」を指定）。

または、カタログ番号の列（登録データファイルでは M 列）を選択し[条件付き書式]>[セルの強調表示ルール]>[重複する値]を行い、[フィルター]を設定して[色フィルター]>[セルの色でフィルター]で絞り込むことでも確認することができます。

「重複の削除」機能を使うと、重複している行の一方が確認なしにまとめて削除されるのでご注意ください。

4) マッピング時の項目選択が適切でない。提出前に確認をお願いします。

例 1：[綱名（日本語名）]に“Magnoliopsida”→正しくは[綱名（学名）]にマッピングされているべき

例 2：[国（日本語）]に“Japan”→正しくは[国]にマッピングされているべき

解説：特に日本語項目に英語項目をマッピングしてしまう誤りが多く見られます。これは変換ツールでエラーとならないため気づきにくいパターンですが、掲載済みのデータと内容が一貫しない原因にもなりますのでご注意ください。

4. レッドデータチェックに必要な項目が適切に入っていない

1) [都道府県（日本語）]が空白である。極力入力してください。

解説：都道府県は、詳細なデータ解析を行う上で、重要な基盤データとなります。また、レッドリストのチェックの際に検索に使われるデータです。ぜひ入力をお願いします。また、形式上のバラバラ感を避けるため、その際には「○○県」のように「都道府県」も入力していただければ幸いです。山梨県と静岡県のように複数県にまたがっている場合は、都道府県が複数である場合は「山梨県／静岡県」のように入力してください。

2) [和名]に別名や部位などの標準和名以外の情報が入っている。[和名]には標準和名だけを入力し、標準和名以外の情報は[分類群に関する備考（日本語）]や[オカレンス備考（日本語）]などの各種備考欄に入力してください。

例 1：“ベニテングタケ（ベニテングダケ、紅天狗茸）”

→[和名]“ベニテングタケ”、[分類群に関する備考（日本語）]“ベニテングタケ（ベニテングダケ、紅天狗茸）”

例 2：“コレラタケ＝ドクアジログサ”

→[和名]“コレラタケ”、[分類群に関する備考（日本語）]“コレラタケ＝ドクアジログサ”

例 3：“コムラサキ 黒色型”

→[和名]“コムラサキ”、[分類群に関する備考（日本語）]“コムラサキ 黒色型”

例 4：“ニホンイイズナ（本州亜種）”

→[和名]“ニホンイイズナ”、[分類群に関する備考（日本語）]“ニホンイイズナ（本州亜種）”

例 5：“ヒメネズミ（頭蓋骨）”

→[和名]“ヒメネズミ”、[オカレンス備考（日本語）]“ヒメネズミ（頭蓋骨）”

解説：和名は、レッドリストのチェックの際に検索に使われるデータです。希少種のデータが入っていなかったり、一文字でも違っていたりすることによって、検索から漏れる場合があります。正確な入力をお願いします。なお、別名などの情報を含む名称は[分類群に関する備考（日本語）]や[オカレンス備考（日本語）]などの備考に入れるようにしてください。

3) [和名]の雑種式の掛け合わせが”X”（エックス）となっている。全角の“×”（掛け算記号）としてください。

例：“ミヤマチョウジザクラ X タカネザクラ”→ “ミヤマチョウジザクラ×タカネザクラ”

解説：雑種式の正しい入れ方については、DarwinCoreでも悩みどころ（S-Netでも悩みどころ）で、「これが正解」という書き方はありません。

[和名]は全角で入れる項目になっていますので、雑種式としての一貫性を持たせるためにも、全角の”×”（掛け算記号）をお使いください。（[学名]（文字列（半角英数字））の雑種式では半角の“x”（エックス）をお使いください。）

4)[和名]に文字間違いがある。提出前に確認をお願いします。

例1：“ピロ-ドモウズイカ”（- が記号）

例2：“アカキリバ”（りがひらがな）

例3：“うスキシロチョウ”（う がひらがな）

例4：“ムベ”（べ がひらがな）

例5：“ユーウスイロキヨトウ”（- が記号）

例6：“ムカゴニンジン”(“二”が漢字)

例7：“ズ ミ”（間にスペースあり）

例8：“カ”（か）と“力”（ちから）

解説：和名は、レッドリストのチェックの際に検索に使われるデータです。希少種のデータが入っていなかったり、一文字でも違っていたりすることによって、検索から漏れる場合があります。正確な入力をお願いします。カタカナとひらがなで違いがわかりにくい文字は要注意です。

間違いの原因はOCRの場合があります。ゴシック体だとわからないことが多いですが、フォントを変える（明朝）とわかる場合があります。

5. 変換ツールにかけることで無くなるデータ不備

1)値に垂直タブ（Mac版ファイルメーカーセル内改行など）等の制御コードが入っているケースがある。

解説：これは、トラブルの原因としては非常に頻度高く出てきますが、エクセルでは目視できないことが多く、始末が悪いです。

最新の変換ツール(データ変換ツール.xlsx)でデータクリーニングを行うと、制御コードが自動的に削除されます。変換ツールの最新版は、S-Netサイトの「ツール・辞書」データ変換ツール ([http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html#dataconv](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html#dataconv)) からダウンロードしてください。

変換ツールを使用せずに見つける一つの方法としては、サクラエディタ (<https://sakura-editor.github.io/download.html>) からダウンロードできる無料のエディタ)で「検索」メニューを選び、「正規表現」にチェックを入れて、条件を [^¥t¥r¥n[:print:]]とすることで検索が出来ます。なお、垂直タブの除去は、最新変換ツールのクリーニング機能で対応済みですが、過去のデータを扱う際には要注意です。可能な限り、消去し、代わりに「|」（半角パイプ；¥と同じキーにあることが多い）を使って、同一フィールド内部に質的に異なる情報が入っていることを示すようにするとよいでしょう。

令和2年度S-Net/GBIF 提供データ 内容チェックのお願い

令和2年度にご提供いただいた登録データをチェックしたところ、添付の修正確認ファイル(エクセルファイル)のような照会事項がありました。つきましては、指摘のありましたデータについて、このデータでS-Netに登録して問題ないかどうか、ご確認いただき、ご確認いただき、ご連絡ください。エラー項目の修正などデータに変更がある場合は、修正確認ファイルに加筆・修正してご送付ください。なお、先にご郵送した「S-Net/GBIF データ提供資料の146～148ページ」に下記の説明がございますので、修正確認ファイルと合わせてご確認ください。

【参考資料D11】(R02 提供データ)修正確認ファイルの項目と確認依頼事項 (http://science-net.kahaku.go.jp/contents/hint/RMD02\_datacheck\_report.pdf)

【参考資料D12】(R02 提供データ)レッドリスト掲載種についての確認 (http://science-net.kahaku.go.jp/contents/hint/RMD02\_datacheck\_reddata.pdf)

S-Net 番号	機関名(日本語)	機関 コード	データセッ ト管理番	データセッ ト略号	タイトル(日本語)	新規コレクション	提供件数	データ受領日付	ご担当者
1000	〇〇博物館	ABCD	1000-101	ABCD-PI	植物コレクション		498件	2021/2/25	博物 太郎
確認依頼ファイル									
R02_1000-101_ABCD-PI_498件_修正確認用_20210425.xlsx								2021/4/25	2021/5/15
R02_1000-101_ABCD-PI_498件_登録データ_20210515.xlsx								2021/5/15	
No	分類	色	件数	照会事項	ご対応依頼	備考			
1	レッドリスト掲載種		12件	D～F列がオレンジ色のレッドデータブック掲載種はS-Net掲載時にデータ登録を行う際に非公開情報に関する備考を追記し、詳細な地名に関する項目の列を対応する非公開の項目の列へ移動します。 ※種の一覧で確認したい場合は二つのシート間のチェックした組み合わせ(組)をご確認ください。	掲載種でも詳細地名等を公開して問題ない場合には、D～F列を塗りつぶしなしに変更し、B列に「○」とご記入ください。また、掲載種でなくても詳細地名を伏せたい場合は、D～F列をオレンジ色に塗りつぶし、B列に「○」とご記入ください。非公開処理をまとめて事務局で行ってほしい場合は「オレンジ色 データ対応シート」にご記入ください。個別に非公開の対応をしたい場合は、項目を削除するか非公開項目へ移動して非公開情報に関する備考に記載し、B列に「○」とご記入ください。	5/10 機関様 ご了解済			
2	データの不備		2件	KH008.記録年月日/海拔/水深の範囲が逆	始め/終わり、最高/最低、最浅/最深の見直しと修正をお願いします。修正後はB列に「○」とご記入ください。	5/10 機関様 修正済			
3	データの不備		1件	KH004.メッシュコードが不正	メッシュコードとして正しい桁数の数字かどうか見直しと修正をお願いします。修正後はB列に「○」とご記入ください。	5/10 機関様 修正済			
4	データ内容の確認		1件	RD0101.国名が空欄のため、レッドデータは正しくチェックされていない可能性	郡・市区町村(日本語)や詳細地名(日本語)が入力されていますが、国が空欄です。レッドチェックが必要な場合は記入してください。修正した場合はB列に「○」とご記入ください。	5/10 機関様 修正済			
5	データ内容の確認		5件	KH105.和名にカタカナ以外の文字あり	カタカナ以外の漢字、ひらがな、記号など文字が含まれています。必要に応じて入力したものが、念のため、確認してください。修正した場合はB列に「○」とご記入ください。	5/10 機関様 ご確認済			
6	科博よりの修正提案		1件	KH106.和名に含まれるカタカナ以外のよくある誤入力文字を修正	ひらがなの「へ」、漢数字の「二」などのよくある誤入力文字をカタカナに修正しました。ご確認ください。	5/10 機関様 ご了解済			
7	その他の連絡事項								



## 修正確認ファイルの項目と確認依頼事項

平成30年4月よりS-Netシステムがリニューアルされ、S-Net/GBIF登録用のデータ形式も変更されました。

新形式の項目は、「データ変換ツール利用者向けマニュアル」の4.1を参照  
 ※ファイルはS-Netサイト (<http://science-net.kahaku.go.jp>) の  
 「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページからダウンロードできます。

修正確認ファイルは次の項目が含まれたエクセル形式(.xlsx)のファイルです。科博が行ったデータチェックについての照会事項がC～I列に記載されています。C列の[要確認]が「○」の行について照会事項をご確認いただき、必要に応じてJ列以降の登録データをご修正ください。また、修正を行った行は、B列の[機関様修正]に「○」を記載してください。

分類	列	項目名	色	説明
番号	A列	連番		ファイル内のデータの一連番号です。
機関様記載欄	B列	機関様修正		修正確認ファイルに修正があった場合に記載していただく項目です。 D～F列の塗りつぶしをなしにした場合とJ列以降のデータを修正した場合には、このB列に「○」とご記入ください。
科博よりの照会事項	C列	要確認		「○」は科博からの照会のある行です。D～I列の照会事項と対応するデータをご確認ください。
	D列	環境省ランク	オレンジ色	環境省や指定された都道府県のレッドリストに掲載されている種についてオレンジ色に塗りつぶされています。これらについては、詳細な地名や緯度・経度の情報が非公開となります。 もし、詳細な地名等を公開しても問題ない場合には、D～F列のオレンジ色を塗りつぶしなしに変更してください。 詳細は、「【参考資料D12】レッドリスト掲載種の確認」を参照
	E列	産地都道府県ランク		
	F列	レッドデータについてのコメント		
	G列	エラー件数 (データの不備およびデータ内容の確認)	赤色 黄色	登録データへの変換でデータの不備、内容の確認が必要となったデータについて、G列にはその件数、H列にはその内容の説明があります。データの不備は赤、内容の確認が必要な場合は黄色に塗りつぶされています。J列以降のデータの該当箇所を確認し、修正してください。
	H列	エラー内容		エラー件数が2以上の場合はエラー内容に複数の説明がありますので、すべてのエラーをみれなく修正してください。
I列	修正済		提出されたデータに問題があり、科博の担当者をご提案できる修正を行ったデータについての説明です。J列以降の該当データを確認し、訂正が必要な場合は、修正してください。	
登録データ	J列以降	新形式の項目名		ご提供いただいた登録データの項目です。1行目の項目名は新形式の項目名が使われていて、データがない項目は削除されています。 D～I列の照会事項についてデータを確認し、必要な場合は修正してください。

修正確認ファイルの各列にはフィルターが設定されています。たとえば、C列が「○」のデータだけを表示して確認したい場合には、▼マークを選んで、データを絞り込んで表示することができます。

※エクセルでフィルターを使って絞り込みをする手順については次のページをご覧ください。





# レッドリスト掲載種についての確認

国版・地方版のレッドリスト掲載種を判定するツール「新レッドデータチェッカー」の植物版、昆虫版、その他の動物版を使って、和名を検索項目として提供データの標本が掲載種かどうか調べ、その結果をD～F列に記載しています。

新レッドデータチェッカーの詳細はS-Netサイトでご確認いただけます。  
[http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool\\_download.html#red\\_data\\_checker](http://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html#red_data_checker)

A	B	C	D	E	F	G	H	I	BO
連番	機関様修正	要確認	環境省ランク(／は候補が複数の場合)	産地都道府県ランク(〔産地〕ランク、／は候補が複数の場合、;は複数の都道府県の場合)	レッドデータについてのコメント(〔〇〕はチェックした和名で次がレッドチェッカーから戻された和名と学名、／は候補が複数の場合)※学名をご確認ください。同名異種もあります	エラー件数	エラー内容(確認を含む)	修正済	国(日本語)
1						0			日本
2				[北海道]	トゲトゲビロカミキリ該当なし	0			日本
3					[オオダイセマダラコガネ]オオダイセマダラコガネ Blitopertha ohdaiensis	0			日本
4		○	-	[山口県]情報不足(DD)	[オオダイセマダラコガネ]オオダイセマダラコガネ Blitopertha ohdaiensis	0			日本
5		○	-	[山口県]／[山口県]標準絶滅危惧(NT)	ヒメオオクワガタヒメオオクワガタ九州亜種 Dorcus montivagus adachii／ヒメオオクワガタ Dorcus montivagus montivagus	0			日本
6		○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	[山口県]絶滅(Ex)	[ダイコクコガネ]ダイコクコガネ Copris ochus	0			日本
7		○	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	[広島県]絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN);[山口県]絶滅(Ex)	[ダイコクコガネ]ダイコクコガネ Copris ochus	0			日本
8		○	国外または指定なし	産地指定なし対象外	[ダイコクコガネ]チェックせず	0			インドネシア
9		○	国外または指定なし	産地指定なし対象外	[ダイコクコガネ]チェックせず	1	RD0101 国名が空欄のため、レッドデータは正しくチェックされていない可能性		
10		○	-	[島根県]／[島根県]	[カタモンコガネ]該当なし ヒメオオクワガタヒメオオクワガタ九州	0			日本国

列	項目名	説明
D列	環境省ランク (／は候補が複数の場合)	環境省ランクおよび都道府県ランクは指定された〔和名〕の先頭からカタカナ部分を取り出したものでチェックしています(F列の〔〇〇〕)。 <b>【レッドリストに該当なし】</b> レッドリストの一覧で環境省ランクがなく、地方のランクもすべての都道府県でランクなしの場合はF列に「該当なし」と記載されています。 <b>【レッドリストに該当種がある場合】</b> レッドリストの一覧に環境省ランクまたはいずれかの都道府県のランクがある場合には、環境省のランク、および、[都道府県(日本語)]の都道府県のカテゴリの情報が記載されています。環境省や指定の都道府県にランクがない場合は「-」と表示されます。
E列	産地都道府県ランク (〔産地〕ランク、／は候補が複数の場合、;は複数の都道府県をまたぐ場合)	<b>【レッドリストに複数データがある場合】</b> レッドリストに該当の和名を含むものが複数存在する場合は、「／」で区切られます。上の例の連番4の[ヒメオオクワガタ]の場合、「ヒメオオクワガタ九州亜種 Dorcus montivagus adachii」と「ヒメオオクワガタ Dorcus montivagus montivagus」の情報が、「／」で区切られて表示されます。亜種などの補足情報や学名を確認して判断をお願いします。
F列	レッドデータについてのコメント (〔〇〇〕はチェックした和名で次がレッドチェッカーから戻された和名と学名、／は候補が複数の場合)	<b>【複数の都道府県をまたぐ場合】</b> 複数の都道府県をまたぐ場合([都道府県(日本語)]の列に「広島県／山口県」のように全角スラッシュで区切って指定)は、産地都道府県ランクが「;」で区切られます。上の例では連番6の[ダイコクコガネ]で広島県と山口県の産地都道府県ランクが「;」情報が「;」で区切られて表示されます。 <b>【同名異種がある場合】</b> レッドリストの一覧にいずれかのランクがあるものだけが表示されます。たとえば和名が「ウミスズメ」の場合、鳥類のウミスズメ Synthliboramphus antiquusは絶滅危惧種として表示されますが、魚類のウミスズメ Lactoria diaphanaはレッドリストに該当がないので表示されません。学名を確認して、判断をお願いします。

**【D～F列塗りつぶしなし】**国版・地方版ともレッドリストに該当のない種の場合、あるいは、環境省のランクおよび指定された都道府県のランクがない種はD～F列の塗りつぶしがありません。

**【D～F列がオレンジ】**環境省のランクおよび／または指定された都道府県のランクがあるものにはD～F列がオレンジ色に塗りつぶされています。しかし、ランクには「DD:情報不足」なども含まれていますので、地名を非公開にするかどうかはランクの内容を確認してご判断ください。

## 機関様へのお願い

- レッドデータブック掲載種でも詳細な地名等を公開しても問題ない場合には、D～F列のオレンジ色を塗りつぶしなしに変更し、B列に「○」とご記入ください。
- また、掲載種でなくても詳細地名を伏せた方がよいものがあれば、D～F列をオレンジ色に塗りつぶし、B列に「○」とご記入ください。

## レッド該当種の一覧を確認して判断したい場合

A	B	C	D	E	F	G
連番	機関様修正	要確認	環境省ランク(／は候補が複数の場合)	産地都道府県ランク(産地ランク、／は候補が複数の場合、；は複数をまたぐ都道府県の場合)	レッドデータについてのコメント(○はチェックした和名で次がレッドチェッカーから戻された和名と学名、／は候補が複数の場合)※学名をご確認ください。同名異種もあります。	該当件数
1						
2	1				[トゲトビロカミキリ]該当なし	2
3	2			[北海道]	[オオダイセマダラコガネ]オオダイセマダラコガネ Elitopertha ohdaiensis	1
4	3	○		[山口県]情報不足	[オオダイセマダラコガネ]オオダイセマダラコガネ Elitopertha ohdaiensis	3
5	4	○	／／	[山口県]／[山口県]準絶滅危惧(NI)	[ヒメオオクワガタ]ヒメオオクワガタ九州亜種 Dorcus montivagus adachii／ヒメオオクワガタ Dorcus montivagus montivagus	1

[～組]というシートに都道府県と和名の組み合わせでのサマリーが出力されています。

### 機関様へのお願い

- D～F列の塗りつぶしの変更とB列への「○」のご記入をこのシート上で行ってください。

※登録データファイルの出現順に並んでいますが、F列などでソートしていただいてもかまいません。

## レッド該当種のデータの非公開対応について

A	B	C
レッドデータ該当種の対応	こついでのご希望	※データセットごとにご希望が異なる場合はこのシートをコピーしてご利用ください。
事務局ではB列:[レッドデータ該当種の対応希望]に従って掲載用データを準備いたします。もし、すでに非公開項目へ移動したり、データを削除したりして事務局での対応が不要な場合やその項目にデータがない場合は、「-:処理不要」をご選択ください。		
機関名(日本語)	データセット略号	
国立科学博物館(植物)	TNS-F, TNS-VS	
項目	レッドデータ該当種の事務局での対応希望	(記入例)
51 水域、52 水域(日本語)	-:処理不要	-:そのまま公開
53 島群、54 島群(日本語)	-:処理不要	-:処理不要
55 島、56 島(日本語)	○:非公開項目へ移動	-:処理不要
60 都道府県、61 都道府県(日本語) ※都道府県には非公開の項目が用立てられていませんので、非公開にしたい場合は[*]を選択してください。	×:データを削除	×:データを削除
62 郡・市区町村、63 郡・市区町村(日本語)	○:非公開項目へ移動	○:非公開項目へ移動
64 詳細地名、65 詳細地名(日本語)	○:非公開項目へ移動	○:非公開項目へ移動
66 地名オリジナル表記	○:非公開項目へ移動	○:非公開項目へ移動
67 最低海拔、68 最高海拔	○:非公開項目へ移動	○:非公開項目へ移動
69 最浅水深、70 最深水深	-:処理不要	-:処理不要
71 メッシュコード	-:処理不要	○:非公開項目へ移動
72 緯度(十進数表記)、73 経度(十進数表記)	○:非公開項目へ移動	▼非公開項目へ移動
79 非公開情報に関する備考 ※ご希望の文言を記載ください。 ※事務局の文言を使う場合は(記入例)からコピーしてください。	Detail location data undisclosed due to the red list status YYYYMMDD	Detail location data undisclosed due to the red list status YYYYMMDD
80 非公開情報に関する備考(日本語) ※ご希望の文言を記載ください。 ※事務局の文言を使う場合は(記入例)からコピーしてください。	RDB掲載種につき詳細地名非公開YYYYMMDD	RDB掲載種につき詳細地名非公開YYYYMMDD
110 備考1(公開、日本語) ※備考1にも文言を入れたい場合には記載してください。 ※以前のデータと整合性を取りたい場合に入力をお勧めします。	※記載なし	-

- 上記の項目の番号はデータ変換ツールの利用者向けマニュアルの「4.1 S-Net形式のデータ項目について」に記載されている番号です。非公開項目はNo.115～132をご確認ください。
- 備考欄の文言はご希望に応じて変更可能です。「YYYYMMDD」には事務局が作業を行った年月日が入りますが、固定の年月日にもすることもできます。

### 機関様へのお願い

- D～F列がオレンジ色に塗りつぶされたデータについて、事務局での対応をどのようにご希望か、[レッド該当種対応希望]シートにご記入ください。
- ご自分で該当データの位置に関する情報を変更される場合は、必要な項目のデータを削除したり、対応する非公開の項目へ移動して、B列に「○」とご記入ください。

制作：国立科学博物館 標本資料センター

S-Net/GBIF 担当

神保 宇嗣・水沼 登志恵・江守 知保・高田 悠希

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8277~8278

FAX: 029-853-8998

E-MAIL: s-net\_info@kahaku.go.jp

※2021年7月版は製本印刷を行っておりません。

印刷物をご入用の場合は上記までご連絡ください。